

たかはま 5 しもじのかみ
高浜Ⅴ下地神遺跡

—東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う
倉庫建築関係発掘調査報告書—

2020. 1

岩手県宮古市教育委員会

序 文

本州最東端に位置する岩手県宮古市には、現在約 680 箇所の遺跡が分布し、縄文時代から現代まで連綿と続く先人達の営みが数多く残されています。市教育委員会ではこれらの遺跡を後世に伝え残していくために周知と保護・保存を行っております。なかでも開発工事等により発掘調査された遺跡については、記録として保存し、さらに出土した土器や石器などは体験学習や企画展示に活用しております。

本発掘調査報告書は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災された住民の倉庫再建に伴い実施された高浜V下地神遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。約 45㎡という小規模の調査範囲ですが、縄文時代中期の竪穴住居跡が 9 棟も検出され、さらに大量の縄文土器が包含された遺物包含層も確認されました。周辺地域の発掘調査履歴を鑑みると、高浜地区における縄文時代中期の拠点集落の一部と考えられます。

津波により甚大な被害を受けた高浜地区の住民にとって、連綿と続いてきた先人たちの営みが心の拠りどころとなり、ひいては郷土への愛着を深める契機となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚く御礼申し上げます。

令和 2 年 1 月

宮古市教育委員会
教育長 伊 藤 晃 二

例 言

1. 本書は東日本大震災復興関連発掘調査事業（倉庫建築）に伴う高浜V下地神遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 佐々木敏夫（～平成25年度）、伊藤晃二（平成26年度～））である。発掘調査・整理作業及び本書の執筆・編集は、文化課の長谷川、土屋了介（小田原市派遣）が担当し、その他、文化課担当職員がこれを補佐した。
3. 調査座標については、公共座標第X系を基準としたものである。座標値は $X = -43,000.000\text{m}$ 、 $Y = +95,000.000\text{m}$ を原点とした。また、図版中は調査用の局地的な座標であることを明示するためにRを冠した。断面図における水準標高は海拔標高を示す。
4. 土色及び土質の観察は『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著 2001年度版）を基準とし、図版中において土層観察表で表示した。遺物の観察は全て肉眼観察により行い、遺物観察表としてまとめている。
5. 図版中のスクリーン表示は図版中で定めない限り以下の通りである。

遺構図版	・		石		焼土		地山
遺物図版	・		磨石の機能面		繊維が含まれる土器		
6. 遺構図版の縮尺率は、原則として1/50と1/30、調査区全体図は1/100とした。
また、各図版のスケール上に縮尺率を明示した。遺物図版の縮尺率は、土器・土製品は1/3、剥片石器は2/3、その他の石器は1/3とした。
7. 復興調査である今回の発掘調査に際し、次の方々から多大なご支援いただいた。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）
笹原寿（地権者）、土屋了介（小田原市派遣）
8. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目 次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 表目次

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 立地と環境	3
第1節 宮古市の位置と遺跡の環境	
第2節 周辺の遺跡	
第3章 調査方法と調査経過	7
第1節 調査方法	
第2節 調査経過	
第3節 基本土層	
第4章 検出された遺構と遺物	11
第1節 竪穴住居跡	
第2節 土坑・ピット	
第3節 遺物包含層	
第4節 遺構外出土遺物	
第5章 まとめ	85
引用・参考文献	
報告書抄録	122

図版目次

第1章 調査に至る経緯

第1図	高浜V下地神遺跡 位置図	2
-----	--------------	---

第2章 立地と環境

第2図	地形分類図	4
第3図	地質図	5
第4図	周辺の遺跡分布図	6

第3章 調査方法と調査経過

第5図	調査区周辺地形図	8
第6図	遺構配置図・断面図	9

第4章 検出された遺構と遺物

第7図	1号竪穴住居跡 平面図・断面図	12
第8図	1号竪穴住居跡 石囲炉 平面図・断面図	13
第9図	1号竪穴住居跡 出土遺物(1)	13
第10図	1号竪穴住居跡 出土遺物(2)	14
第11図	2号竪穴住居跡 平面図・断面図	15
第12図	2号竪穴住居跡 出土遺物	16
第13図	3号竪穴住居跡 平面図・断面図	18
第14図	3号竪穴住居跡 埋甕 平面図・断面図	19
第15図	3号竪穴住居跡 出土遺物(1)	19
第16図	3号竪穴住居跡 出土遺物(2)	20
第17図	3号竪穴住居跡 出土遺物(3)	21
第18図	3号竪穴住居跡 出土遺物(4)	22
第19図	3号竪穴住居跡 出土遺物(5)	23
第20図	3号竪穴住居跡 出土遺物(6)	24
第21図	3号竪穴住居跡 出土遺物(7)	25
第22図	4号竪穴住居跡 平面図・断面図	26
第23図	4号竪穴住居跡 石囲炉 平面図・断面図	27
第24図	4号竪穴住居跡 出土遺物	28
第25図	5号竪穴住居跡 平面図・断面図	29
第26図	5号竪穴住居跡 石囲炉 平面図・断面図	30
第27図	5号竪穴住居跡 出土遺物(1)	30
第28図	5号竪穴住居跡 出土遺物(2)	31

第29図	6号竪穴住居跡 平面図・断面図	33
第30図	6号竪穴住居跡 出土遺物	33
第31図	6号・7号竪穴住居跡 出土遺物	33
第32図	7号竪穴住居跡 平面図・断面図	34
第33図	7号竪穴住居跡 出土遺物	34
第34図	8号竪穴住居跡 平面図・断面図	35
第35図	8号竪穴住居跡 出土遺物	35
第36図	9号竪穴住居跡 平面図・断面図	35
第37図	土坑 検出状況図	36
第38図	1号土坑 平面図・断面図	37
第39図	1号土坑 出土遺物	37
第40図	2号・3号土坑 断面図	38
第41図	2号・3号土坑 出土遺物	38
第42図	ピット 平面図・断面図	39
第43図	ピット 出土遺物	40
第44図	遺物包含層 断面図	43
第45図	遺物包含層 出土状況図(1)	44
第46図	遺物包含層 出土状況図(2)	45
第47図	遺物包含層 出土土器(1)	47
第48図	遺物包含層 出土土器(2)	48
第49図	遺物包含層 出土土器(3)	49
第50図	遺物包含層 出土土器(4)	50
第51図	遺物包含層 出土土器(5)	51
第52図	遺物包含層 出土土器(6)	52
第53図	遺物包含層 出土土器(7)	53
第54図	遺物包含層 出土土器(8)	54
第55図	遺物包含層 出土土器(9)	55
第56図	遺物包含層 出土土器(10)	56
第57図	遺物包含層 出土土器(11)	57
第58図	遺物包含層 出土土器(12)	58
第59図	遺物包含層 出土土器(13)	59
第60図	遺物包含層 出土土器(14)	60
第61図	遺物包含層 出土土器(15)	61
第62図	遺物包含層 出土土器(16)	62
第63図	遺物包含層 出土土器(17)	63
第64図	遺物包含層 出土土器(18)	64
第65図	遺物包含層 出土土器(19)	65

第66図	遺物包含層	出土土器 (20) ……	66	24	埋嚢 堆積状況 (南→) ……	94
第67図	遺物包含層	出土土器 (21) ……	67	25	4号竪穴住居跡 完掘状況 (北→) ……	95
第68図	遺物包含層	出土石器 (1) ……	68	26	4号竪穴住居跡 堆積状況 (南→) ……	95
第69図	遺物包含層	出土石器 (2) ……	69	27	4号竪穴住居跡 石囲炉堆積状況 (東→) ……	95
第70図	遺物包含層	出土石器 (3) ……	70	28	4号竪穴住居跡 石囲炉検出状況 (北西→) ……	95
第71図	遺物包含層	出土石器 (4) ……	71	29	4号竪穴住居跡 石囲炉焼土堆積状況 (東→) ……	95
第72図	遺物包含層	出土石器 (5) ……	72	30	5号竪穴住居跡 検出状況 (北→) ……	96
第73図	遺物包含層	出土石器 (6) ……	73	31	5号竪穴住居跡 石囲炉堆積状況 (北→) ……	96
第74図	遺物包含層	出土石器 (7) ……	74	32	5号竪穴住居跡 石囲炉完掘状況 (北→) ……	96
第75図	遺物包含層	出土石器 (8) ……	75	33	5号竪穴住居跡 石囲炉焼土堆積状況 (北西→) ……	96
第76図	遺構外出土遺物 (1) ……	77	34	6号竪穴住居跡 床面状況 (東→) ……	96	
第77図	遺構外出土遺物 (2) ……	78	35	6号竪穴住居跡 完掘状況 (南東→) ……	96	

写真図版目次

1	高浜V下地神遺跡 航空写真 (南→) ……	89	38	8号竪穴住居跡 石囲炉完掘状況 (西→) ……	97
2	高浜V下地神遺跡 航空写真 (東→) ……	89	39	8号竪穴住居跡 石囲炉堆積状況 (東→) ……	97
3	発掘調査状況 (東→) ……	90	40	9号竪穴住居跡 焼土堆積状況 (南→) ……	97
4	発掘調査状況 (西→) ……	90	41	9号竪穴住居跡 焼土完掘状況 (東→) ……	97
5	1号竪穴住居跡 完掘状況 (北東→) ……	91	42	1号土坑 縄文土器出土状況 (北→) ……	97
6	1号竪穴住居跡 石囲炉 検出状況 (北東→) ……	91	43	1号土坑 堆積状況 (南→) ……	98
7	1号竪穴住居跡 堆積状況 (東→) ……	92	44	1号土坑 縄文土器出土状況 (西→) ……	98
8	1号竪穴住居跡 石囲炉 堆積状況 (東→) ……	92	45	1号土坑 縄文土器出土状況 (南→) ……	98
9	1号竪穴住居跡 石囲炉 焼土 (東→) ……	92	46	1号土坑 完掘状況 (南→) ……	98
10	1号竪穴住居跡 石囲炉 礫状況 (東→) ……	92	47	2号土坑 堆積・完掘状況 (北東→) ……	98
11	2号竪穴住居跡 ピット堆積状況 (南→) ……	92	48	3号土坑 堆積状況 (南→) ……	98
12	2号竪穴住居跡 完掘状況 (南→) ……	92	49	ピット 完掘状況 (北西→) ……	98
13	3号竪穴住居跡 堆積状況 (東→) ……	92	50	ピット 完掘状況 (南東→) ……	98
14	3号竪穴住居跡 堆積状況 (南→) ……	92	51	遺物包含層 縄文土器出土状況 (南→) ……	99
15	3号竪穴住居跡 土器出土状況 (南→) ……	93	52	遺物包含層 縄文土器出土状況 (北→) ……	99
16	3号竪穴住居跡 土器出土状況 (東→) ……	93	53	遺物包含層 出土状況 (東→) ……	100
17	3号竪穴住居跡 土器出土状況 (北→) ……	93	54	遺物包含層 出土状況 (南→) ……	100
18	3号竪穴住居跡 焼土分布状況 (南→) ……	93	55	遺物包含層 出土状況 (南→) ……	100
19	3号竪穴住居跡 貼床堆積状況 (南→) ……	93	56	遺物包含層 出土状況 (東→) ……	100
20	3号竪穴住居跡 埋嚢 検出状況 (南→) ……	94	57	遺物包含層 出土状況 (西→) ……	100
21	埋嚢 堆積状況 (東→) ……	94	58	遺物包含層 出土状況 (北→) ……	100
22	埋嚢 堆積状況 (東→) ……	94	59	遺物包含層 出土状況 (東→) ……	100
23	埋嚢 検出状況 (南→) ……	94	60	遺物包含層 出土状況 (東→) ……	100

61	調査区 完掘状況（北西→）	101
62	調査区 完掘状況（南東→）	101
63	調査区 完掘状況（西→）	102
64	調査区 堆積状況（南西→）	102
65	調査区 堆積状況（東→）	102
66	調査区から海を望む（西→）	102
67	調査区 埋め戻し状況（西→）	102
68	出土遺物	103
69	出土遺物	103
70	出土遺物	104
71	出土遺物	104
72	出土遺物	105
73	出土遺物	105
74	出土遺物	106
75	出土遺物	106
76	出土遺物	107
77	出土遺物	107
78	出土遺物	108
79	出土遺物	108
80	出土遺物	109
81	出土遺物	109
82	出土遺物	110
83	出土遺物	110
84	出土遺物	111
85	出土遺物	111
86	出土遺物	112
87	出土遺物	112
88	出土遺物	113
89	出土遺物	114
90	出土遺物	115
91	出土遺物	116
92	出土遺物	117
93	出土石器	118
94	出土石器	118

95	出土石器	119
96	出土石器	119
97	出土石器	120
98	出土石器	120

表目次

第1表	高浜V下地神遺跡 土器・土製品観察表（1）	79
第1表	高浜V下地神遺跡 土器観察表（2）	80
第1表	高浜V下地神遺跡 土器観察表（3）	81
第1表	高浜V下地神遺跡 土器観察表（4）	82
第2表	高浜V下地神遺跡 石器一覧表（1）	83
第2表	高浜V下地神遺跡 石器一覧表（2）	84

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

高浜Ⅴ下地神遺跡は、岩手県宮古市高浜四丁目22番6地内に所在し、現況は宅地である。平成25年6月21日付で埋蔵文化財の所在及び取扱いについての照会があり、高浜Ⅴ下地神遺跡に該当している旨、平成25年6月26日付教文第260号で回答している。その後、平成25年6月28日に現地で事前協議を行い、平成25年7月16日付で文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出が提出され、平成25年7月16日付教文第327号で岩手県教育委員会に進達している。それを受け岩手県教育委員会では、平成25年7月19日付教生第3-179号で「埋蔵文化財の発掘届出について」通知され、平成25年7月19日付教文第353号で地権者へ伝達している。

試掘調査は平成25年7月26日から開始し、8月5日まで実施した。トレンチによる調査で縄文土器・石器などが出土したため、地権者には本調査が必要である旨の報告を行い、8月6日から本調査に着手した。なお、平成25年8月8日付教文第394号で文化財保護法第99条第1項の規定により埋蔵文化財発掘調査の報告を岩手県教育委員会に行っている。本調査は8月6日から9月27日まで実施し、約45㎡を調査している。ちなみに、復興調査の派遣職員である小田原市派遣1名も調査に従事している。

平成25年10月から平成26年3月まで出土遺物洗浄などの資料整理を進め、さらに令和元年7月24日から再度、整理作業に着手し、令和2年1月に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

第2節 調査体制

<平成25年度 発掘調査>

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 佐々木敏夫

調査総括 竹下将男 宮古市教育委員会文化課長

調査員	高橋憲太郎	//	文化課副主幹
	鎌田祐二	//	文化課主査
	似内啓邦		文化課主査（岩手県盛岡市派遣職員）
	村木誠		文化課主査（愛知県名古屋市派遣職員）
	布谷義彦	//	文化課主任文化財調査員
	加納由美	//	文化課主任文化財調査員
	江口邦泰	//	文化課主任文化財調査員
	安原誠	//	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	//	文化課主任文化財調査員（発掘調査担当）
	千葉剛史		文化課文化財調査員
	土屋了介		文化課文化財調査員（神奈川県小田原市派遣職員） (発掘調査担当)
	阿部豊	//	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	前川友宏	//	文化課埋蔵文化財調査員
	赤沼みちる	//	文化課埋蔵文化財調査員

<平成31年度・令和元年度 資料整理作業>

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 伊藤晃二

調査総括 藤田浩司 宮古市教育委員会文化課長

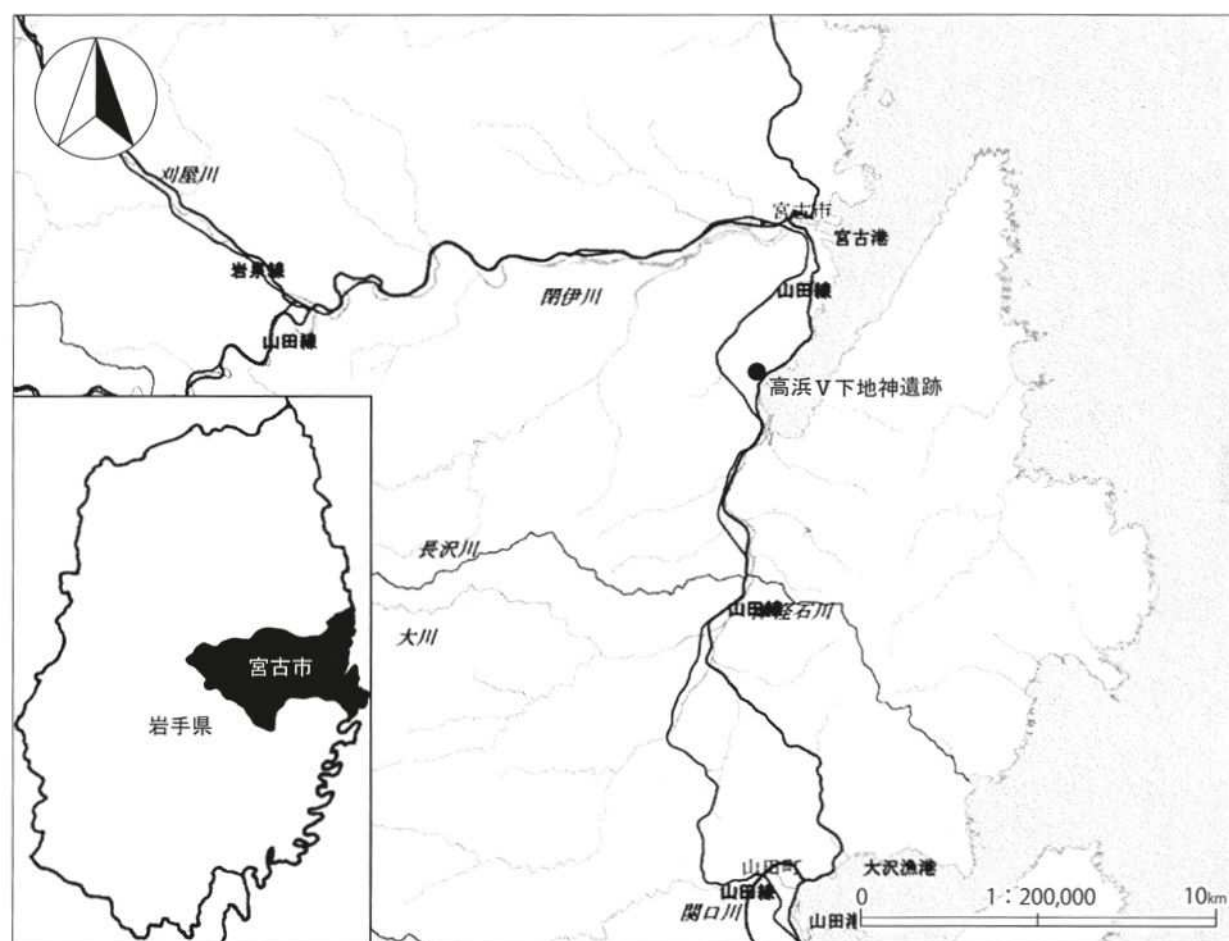
職員	安原誠	〃	文化課埋蔵文化財センター所長
	江口邦泰	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	〃	文化課主査（資料整理・報告書作成担当）
	阿部豊	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	赤沼みちる	〃	文化課埋蔵文化財調査員
	鹿島直樹	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員

<発掘調査作業員・資料整理作業員>（50音順）

一関順子 上野律子 江口正光 扇田正義 大程保見 大森イヨ子 木村洋一 越田真理子

小林功行 佐々木剛 佐々木壽郎 佐々木則義 佐々木みさ子 佐藤重信 田中千賀子 中屋悦子

野崎秀人 三浦功 村木幹子 山崎日日雄 山根保行



第1図 高浜V下地神遺跡 位置図

第2章 立地と環境

第1節 宮古市の位置と遺跡の環境

岩手県宮古市は岩手県沿岸部のほぼ中央に位置し、西は盛岡市、北は岩泉町、南は花巻市・遠野市・山田町と隣接し、東は太平洋に面している。市域の総面積は約1,259.15km²、人口約52,000人（2019年3月現在）の漁業と観光の都市である。

市域の西側は標高1,917mの早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なり、一方、東側は太平洋を望み、北東方向に突き出す重茂半島の鮎ヶ崎は本州における最東端となっている。特に三陸復興国立公園にも指定されている宮古市の海岸には国指定名勝「浄土ヶ浜」や国指定名勝「崎山の蠟燭岩」「崎山の潮吹穴」などが点在し、岩手県随一の景勝地といえる。さらに西側の山間部は早池峰国立公園に指定されており、特別国指定天然記念物「早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落」や国指定天然記念物「アカエゾマツの自生南限地」など、自然豊かな景観をみることができる。

高浜Ⅴ下地神遺跡は岩手県宮古市高浜四丁目地内に所在している。国道45号により地形の改変が著しいが、今回の調査地点のように道路と宅地の狭小な範囲にも遺跡が残存していることが確認された。調査地点の地形は、宮古湾に面した丘陵裾部の中段に位置しており、標高は約8mである。すぐ北側には小規模な沢が流れ、谷状の地形を呈している。

第2節 周辺の遺跡

高浜Ⅴ下地神遺跡の立地する丘陵裾部の平坦面には、以前から縄文土器（前期・中期）や石器などの遺物が採集され、以前は国道45号の道路脇に遺跡標柱が建てられていた。ちなみに昭和48年に宅地造成により事前届出がなく掘削されたとして、新聞記事に取り上げられている地点でもある。

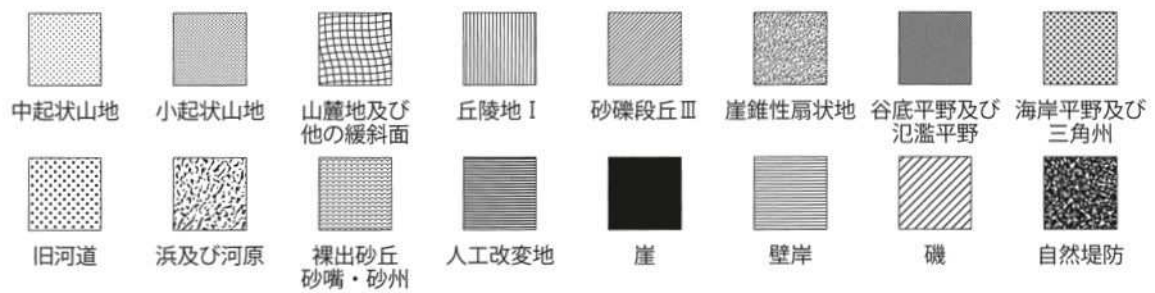
高浜地区周辺の発掘調査は、東日本大震災を契機として個人住宅等の調査原因と復興事業を調査原因とする大きく2つに分けられる。東日本大震災以前の個人住宅等の発掘調査では、平成15・16年の高浜Ⅳ地神遺跡の発掘調査が挙げられ、縄文時代中期の大形のフラスコ状土坑がやせ尾根上から集中して見つかったほか、丘陵裾部からは竪穴住居跡も確認されている。また、高浜Ⅴ下地神遺跡では今回の調査区の西側で個人住宅建築に伴う試掘調査が平成14年に実施されている。

東日本大震災以後の復興事業に伴う発掘調査は、まず平成24・25年に災害公営住宅建設に伴い高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡が調査されている。縄文時代早期末葉から前期初頭の遺物包含層が検出されている。さらに高浜地区の西側に隣接する金浜地区では、平成27年に市道磯鶏金浜線（金浜工区）の整備に伴い金浜館跡が調査され、館跡の一部である堀跡が検出されている。さらに個人住宅建築に伴い今回の調査区のすぐ西に隣接した地点が平成27年に調査され、縄文時代中期の竪穴住居跡が重複して検出され、埋甕が合計3個体出土している。

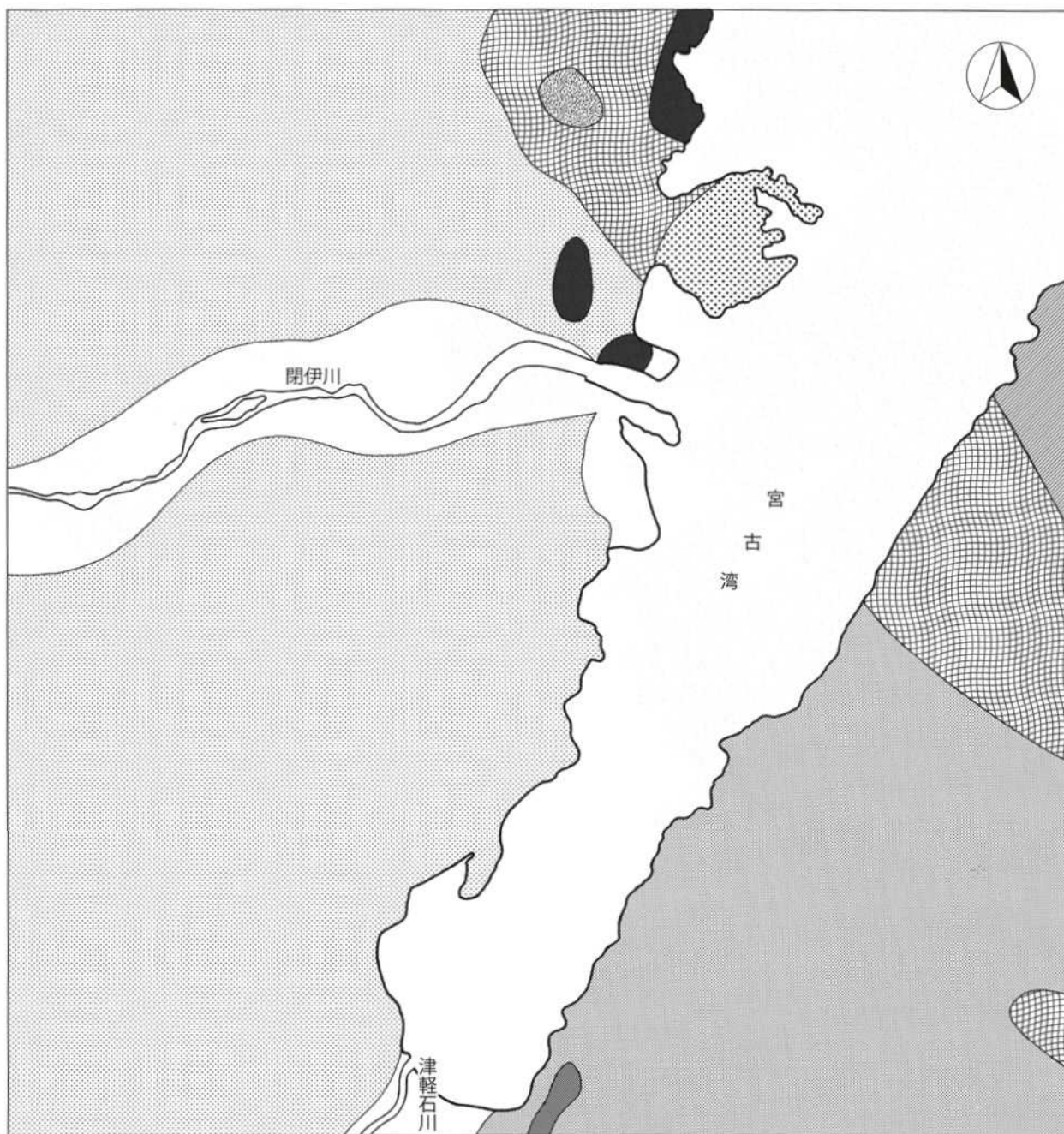
このように、今回調査された高浜Ⅴ下地神遺跡を含む高浜Ⅳ地神遺跡周辺は、今までの発掘調査で竪穴住居跡が多数検出され、なおかつ縄文土器・石器が大量に出土していることから、縄文時代中期における拠点的な縄文集落と考えられる。遺跡周辺の地形をみても、東は宮古湾に面し、西は丘陵地が広がっており、海と森の資源を有効利用できる立地環境であったことがうかがえる。



0 1 : 50,000 2 km



第2図 地形分類図



0 1 : 50,000 2 km



花崗岩



花崗斑岩



原地山層



流紋岩



宮古層群



開伊崎噴出岩類



段丘堆積物



蛇紋岩

第3図 地質図



番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	高浜V下地神遺跡	縄文	19	八木沢守ノ越Ⅰ遺跡	縄文	37	磯鶏館山遺跡	縄文～中世
2	高浜Ⅰ坂ノ下遺跡	縄文	20	八木沢守ノ越Ⅱ遺跡	縄文	38	八木沢中田遺跡	近世
3	高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡	縄文	21	八木沢守ノ越Ⅲ遺跡	縄文・古代	39	島田Ⅰ遺跡	平安
4	高浜Ⅲ熊野遺跡	縄文	22	八木沢守ノ越Ⅳ遺跡	縄文・古代・弥生	40	島田Ⅱ遺跡	古代
5	高浜Ⅳ横須賀遺跡	縄文	23	猿楽峠遺跡	古代・縄文	41	島田Ⅲ遺跡	縄文・古代
6	高浜Ⅵ地神遺跡	縄文	24	小山田Ⅱ遺跡	古代	42	八木沢古館	中世
7	金浜堤ヶ沢遺跡	製鉄跡	25	小山田Ⅲ遺跡	中世	43	磯鶏中谷地遺跡	古代
8	金浜館	中世・縄文	26	磯鶏竹洞Ⅰ遺跡	平安・古代	44	磯鶏沖遺跡	近世・中世
9	金浜Ⅰ遺跡	縄文・平安	27	磯鶏竹洞Ⅱ遺跡	縄文・古代	45	白浜Ⅱ遺跡	縄文
10	金浜Ⅱ遺跡	古代	28	上村貝塚	縄文～平安	46	白浜Ⅲ遺跡	縄文
11	金浜Ⅲ遺跡	縄文・古代	29	上村Ⅱ遺跡	縄文・古代	47	白浜Ⅳ遺跡	縄文
12	賽の神Ⅱ遺跡	縄文・古代	30	上村Ⅲ遺跡	縄文・古代	48	白浜太浜Ⅰ遺跡	縄文
13	賽の神Ⅲ遺跡	縄文・古代	31	上村Ⅳ遺跡	縄文・古代	49	白浜太浜Ⅱ遺跡	縄文
14	八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡	縄文	32	早坂遺跡	縄文・弥生・古代	50	白浜太浜Ⅲ遺跡	縄文
15	八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡	縄文	33	磯鶏蝦夷森貝塚	縄文・古代	51	白浜太浜Ⅳ遺跡	縄文
16	八木沢Ⅲ遺跡	古代	34	仏沢Ⅰ遺跡	古代	52	白浜太浜Ⅴ遺跡	縄文
17	八木沢Ⅰ白山下遺跡	縄文	35	仏沢Ⅱ遺跡	縄文・平安	53	堀内Ⅰ遺跡	縄文
18	八木沢新館	中世・近世	36	小沢田遺跡	縄文・古代	54	堀内Ⅱ遺跡	縄文

第4図 周辺の遺跡分布図

第3章 調査方法と調査経過

第1節 調査方法

調査地区の設定

今回の高浜V下地神遺跡の調査は、試掘調査時に設定したトレンチ名（A～Dトレンチ）を踏襲し、出土遺物の取り上げ（Cグリッド・Dグリッドなど）を行ったが、本報告書をまとめるにあたって全て遺構名（例：Cトレンチ・Cグリッド→遺物包含層）に振替えを行った。

実測・写真撮影・土層注記

遺構平面図及び遺構断面図の縮尺は1/20を基本とし、石囲炉・埋甕・遺物包含層の土器出土状況は1/10で実測した。標高は周辺の基準杭をもとに調査区内に設定し、座標は国土調査による座標値を使用した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。またデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

整理の方法

調査終了後、遺構実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし、第二原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

出土した遺物は現場での取上げ後、埋蔵文化財調査室で水洗いを行い、袋ごとに番号を付した。それを基に遺物台帳を作成し、整理作業の基本台帳とした。袋内における遺物の接合、その後ホワイトカラーによる注記を経て、さらに遺構ごとに接合を行った。

本報告書に掲載されている遺物は、整理作業の中で設定した基準に基づき選別したものである。その選別の基準は以下のとおりである。

a. 土器・土製品類

土器・土製品の総数は、24,561点を測る。その中で、①口縁部や底部が良好に残存しているもの、②概ね破片の大きさが5cm以上のもの、③時期決定できる特徴的な文様をもつものを抽出し、図化した。図化した遺物は計268点である。

b. 石器類

石器類は70点、重量31672.2g出土した。種別は石鏃・石匙・搔器・磨石・石皿・石棒・打製石斧・磨製石斧・叩き石・くぼみ石で、全点について図化した。

第2節 調査経過

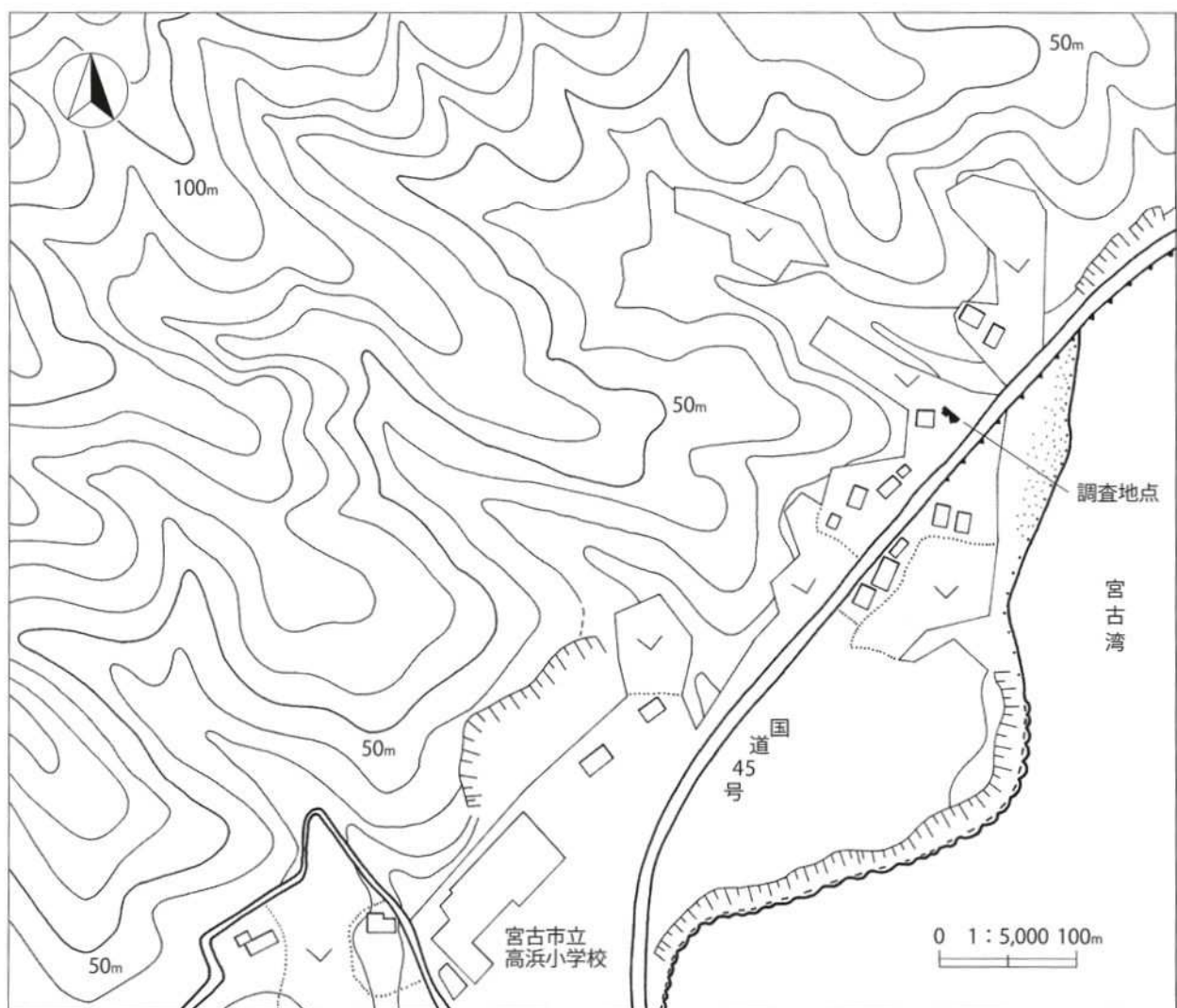
平成25年度（試掘・本調査）

7月26日 試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。

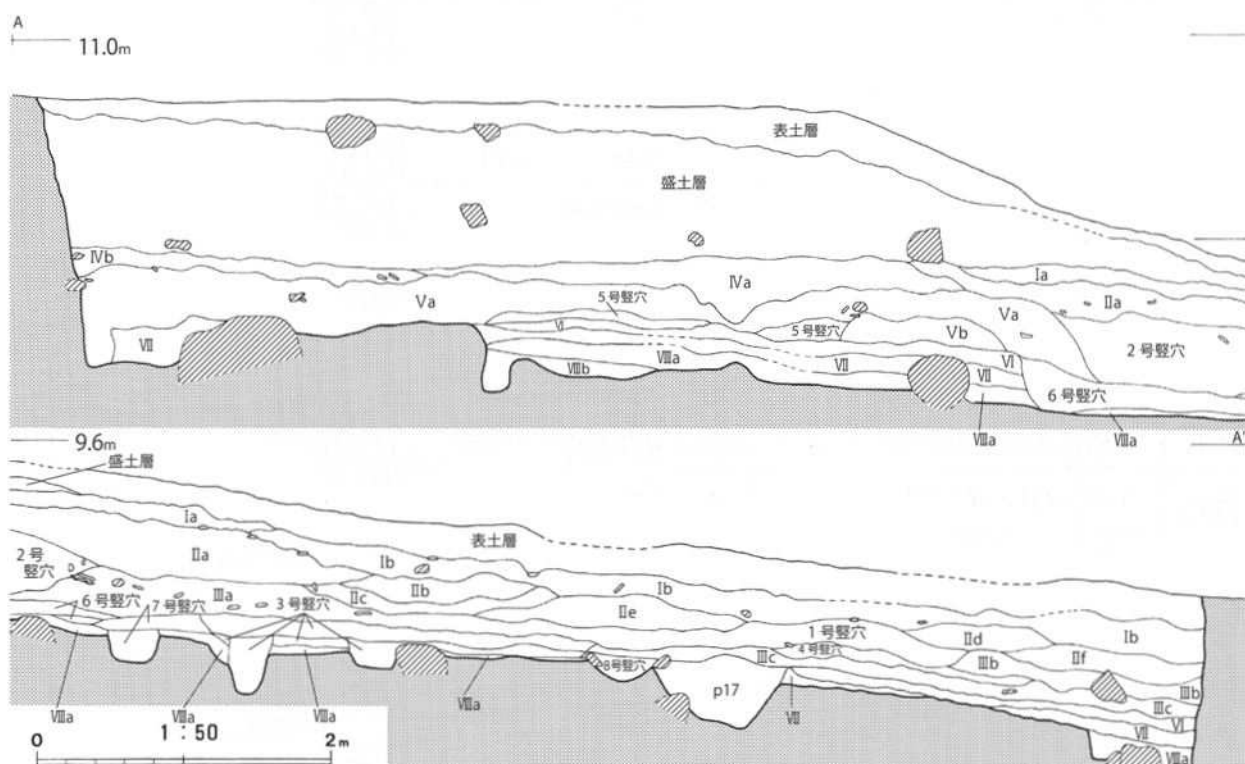
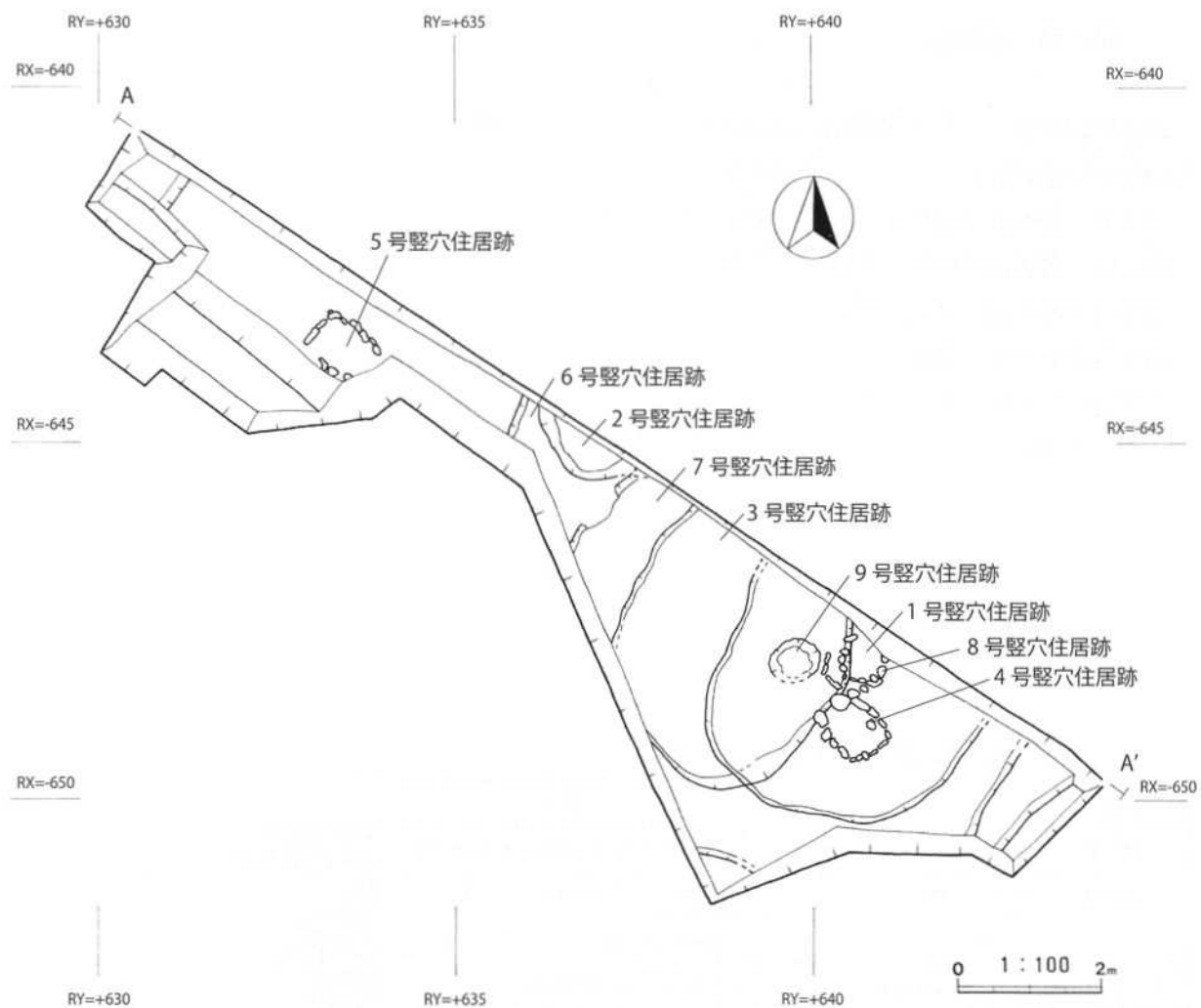
8月5日 大量の縄文土器が出土する遺物包含層が確認されたため、本調査の準備を行った。

8月6日 本調査を開始した。調査区全体の遺構分布をみるために東西トレンチを設定し、さらに試掘トレンチの一部深掘を行い、下層の状況を確認した。

- 8月8日 トレンチを拡張し、縄文土器の集中地点を検出した。レベルや調査用のグリッド杭の打設を行った。
- 8月19日 遺物包含層の掘り下げを進め、遺物出土状況図を作成した。
- 8月28日 1号竪穴住居跡の石囲炉が検出され、掘り下げを行った。1号土坑出土の縄文土器の取り上げを行った。
- 9月4日 3号竪穴住居跡が検出され、壁の立ち上がりや炉跡等の確認を行った。
- 9月10日 5号竪穴住居跡の石囲炉の掘り下げを行い、断面図を作成した。ピットも検出した。
- 9月18日 4号竪穴住居跡の平面図を作成した。8号竪穴住居跡の石囲炉の断面図を作成した。
- 9月19日 9号竪穴住居跡の炉跡の断面図を作成した。調査区北壁の断面図を作成した。
- 9月24日 遺物包含層下層のピットの検出・掘り下げを行った。
- 9月25日 調査区の埋め戻しを開始した。
- 9月27日 調査区の埋め戻し終了。機材を撤収し、本調査を終了した。



第5図 調査区周辺地形図



第6図 遺構配置図・断面図

第3節 基本土層

調査区内の基本土層の確認は、狭小な調査面積のため、調査区北壁のみで行った。そのため、東西方向での堆積状況についてのみ詳述する。

表土層：調査区全域に堆積。現代の表土層で、褐色を呈する埴壌土である。

盛土層：調査区西側にのみ堆積。層厚は1m以上もあり、現代の宅地造成によるものと思われる。

遺物包含層Ⅰ層：調査区東側に堆積し、Ⅰa層・Ⅰb層に細別される。黒褐色を呈する。

遺物包含層Ⅱ層：調査区東側に堆積し、Ⅱa層～Ⅱf層に細別される。縄文土器が多量に含まれる。

遺物包含層Ⅲ層：調査区東側に堆積し、Ⅲa層～Ⅲc層に細別される。Ⅲa層から多量の土器出土。

遺物包含層Ⅳ層：調査区西側に堆積し、Ⅳa層・Ⅳb層に細別される。礫が多量に含まれる。

遺物包含層Ⅴ層：調査区西側に堆積し、Ⅴa層・Ⅴb層に細別される。Ⅴb層は砂質を呈する。

堆積土 Ⅵ層：調査区全域に堆積し、十和田中振と考えられる火山灰がブロック状に含まれる。

遺物包含層Ⅶ層：調査区全域に堆積し、縄文時代前期の土器が含まれている。

堆積土 Ⅷ層：調査区全域に堆積し、礫が多量に含まれ、縄文土器・石器の出土はみられない。

高浜Ⅴ下地神遺跡 基本土層観察表

層名		基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層		10YR4/4 褐色埴壌土	10YR5/4 にぶい黄褐色埴壌土5%塊状	硬質、粘性あり 炭化物粒微量、表土層
盛土層		10YR3/3 暗褐色埴壌土	10YR4/4 褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり 地山土ブロック多量、現代の盛土層
遺物 包含層 Ⅰ層	Ⅰa層	10YR3/2 黒褐色埴壌土	10YR3/3 暗褐色埴壌土20%塊状	硬質、粘性あり 3cm大の炭化物少量
	Ⅰb層	10YR2/3 黒褐色埴壌土	10YR3/3 暗褐色埴壌土5%塊状	硬質、粘性あり 炭化物塊1cm大、少量
遺物 包含層 Ⅱ層	Ⅱa層	10YR2/2 黒褐色埴壌土	10YR3/2 黒褐色埴壌土10%塊状	硬質、粘性あり 5cm大の礫、縄文土器多量
	Ⅱb層	10YR3/2 黒褐色埴壌土	10YR3/3 暗褐色埴壌土3%塊状	硬質、粘性あり 5cm大の炭化物粒微量
	Ⅱc層	10YR3/4 暗褐色埴壌土	10YR4/4 褐色埴壌土20%塊状	硬質、粘性あり 3cm大の炭化物少量
	Ⅱd層	10YR3/2 黒褐色埴壌土	10YR3/4 暗褐色埴壌土30%塊状	硬質、粘性あり 5cm大の炭化物混入
	Ⅱe層	10YR2/2 黒褐色埴壌土	10YR3/3 暗褐色埴壌土5%塊状	硬質、粘性あり 炭化物塊3cm少量、土器多量
	Ⅱf層	10YR3/2 黒褐色埴壌土	10YR3/3 暗褐色埴壌土5%塊状	硬質、粘性あり 2mm大の黄色粒少量
遺物 包含層 Ⅲ層	Ⅲa層	10YR3/2 黒褐色埴壌土	10YR3/3 暗褐色埴壌土30%塊状	硬質、粘性あり 円礫、縄文土器多量。1cm大の炭化物多量
	Ⅲb層	10YR2/3 黒褐色埴壌土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 一部砂礫混入
	Ⅲc層	10YR2/1 黒色埴壌土	10YR2/3 黒褐色埴壌土20%塊状	硬質、粘性あり 5cm大の炭化物
遺物 包含層 Ⅳ層	Ⅳa層	10YR2/2 黒褐色埴壌土	10YR3/2 黒褐色埴壌土10%塊状	硬質、粘性あり 3mm大の小礫(白色)多量
	Ⅳb層	10YR2/2 黒褐色埴壌土	10YR3/2 黒褐色埴壌土10%塊状	硬質、粘性あり 2mm大の白色礫多量、土器含まれる
遺物 包含層 Ⅴ層	Ⅴa層	10YR2/3 黒褐色埴壌土	10YR3/3 暗褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 5～10cm大の礫(花崗岩)多量 5mm大の炭化物少量
	Ⅴb層	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 砂礫層 部分的に砂礫層 1～2cm大の礫
堆積土	Ⅵ層	10YR4/5 シルト質埴壌土	10YR4/4 シルト質埴壌土10%塊状	硬質、粘性あり 火山灰(中セリ)灰白色ブロック状
遺物 包含層 Ⅶ層	Ⅶ層	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり 縄文時代前期の土器が出土
堆積土	Ⅷa層	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 10～30cm大の礫多数、無遺物層
	Ⅷb層	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 砂礫層 10cm大の礫多量

第4章 検出された遺構と遺物

高浜V下地神遺跡は東日本大震災被災者の倉庫建築に伴い発掘調査され、調査面積は約45㎡である。調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡9棟、土坑3基、ピット28基、縄文時代中期後半を主体とする遺物包含層が検出された。さらに多量の縄文土器・石器（石鏃・石匙・磨石など）・石棒・軽石が出土している。

第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は9棟確認され、遺物包含層との重複関係や出土遺物から縄文時代中期後半に属すると考えられる。層位的に重複関係も確認されている。

1号竪穴住居跡（第7～10図、写真図版5～10、68・69・95）

1号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅲa層・Ⅲb層上面である。層位的に3号・4号竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。

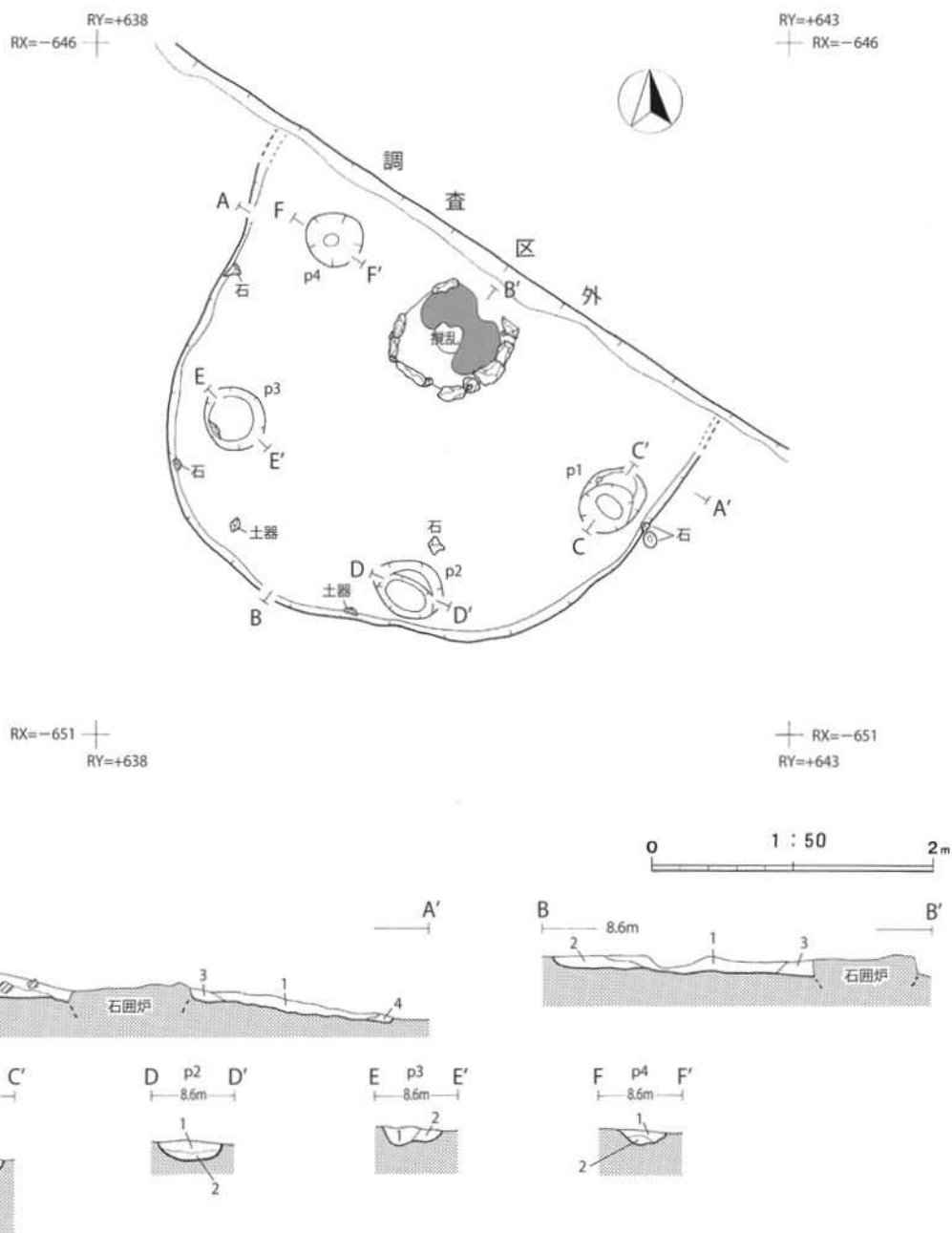
平面形は不整な円形で、住居跡北側は調査区外に伸びている。規模は東西3.8m、南北(2.8)mを測り、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は5層に分けられ、炭化物や白色粒等が少量含まれている。

ピットは4基確認された。石囲炉を中心として規則的に分布しており、柱穴の可能性が高い。p1は深さ43cmを測る。住居跡面積の約1/3は調査区外であるが、6本柱の住居跡と推測される。

石囲炉は床面中央部と推測される箇所検出され、不整な円形に石が配置されている。一部炉石が抜き取られている。長径85cm、短径83cmを測り、炉内の堆積土は3層に分けられる。2層中には焼土塊が多量に含まれている。掘り方はA～C層に細別され、炉石を据えるためにピット状に掘られている箇所が確認された。

遺物は縄文土器・石棒を図示している。第10図2・3は床面及び石囲炉内から出土した深鉢の口縁部で、単節斜縄文の上から粘土紐の隆帯による文様が施文されている。第10図4は深鉢の胴部破片で、地文である縄文のみ施されている。第10図5は深鉢口縁部で、横方向の粘土紐の隆帯により口縁部と胴部を区画している。第10図6は深鉢の胴部破片で、単節斜縄文の地文の上から粘土紐や沈線により渦巻きの文様を作り出している。第10図7・8・10は深鉢口縁部及び胴部破片で、単節斜縄文の地文の上から粘土紐の隆帯や沈線により連結する渦巻き文様が施文されている。第10図9は深鉢の胴部破片で、単節斜縄文を地文の上に縦方向の粘土紐隆帯と沈線がみられる。底部周辺の破片と考えられる。第10図11は深鉢の口縁部破片で、胴部との境に刺突による区画がみられる。第10図12は深鉢の口縁部破片で、横方向の不整撚糸文が施文され、縄文時代前期初頭の土器である。検出面から出土しているため、混入したものと考えられる。第9図1は石棒で、端部は欠損している。整形するための凹凸が全面に観察される。

本遺構は、出土した縄文土器の文様や石囲炉の形態などから所属時期は縄文時代中期、大木8b式期と考えられる。



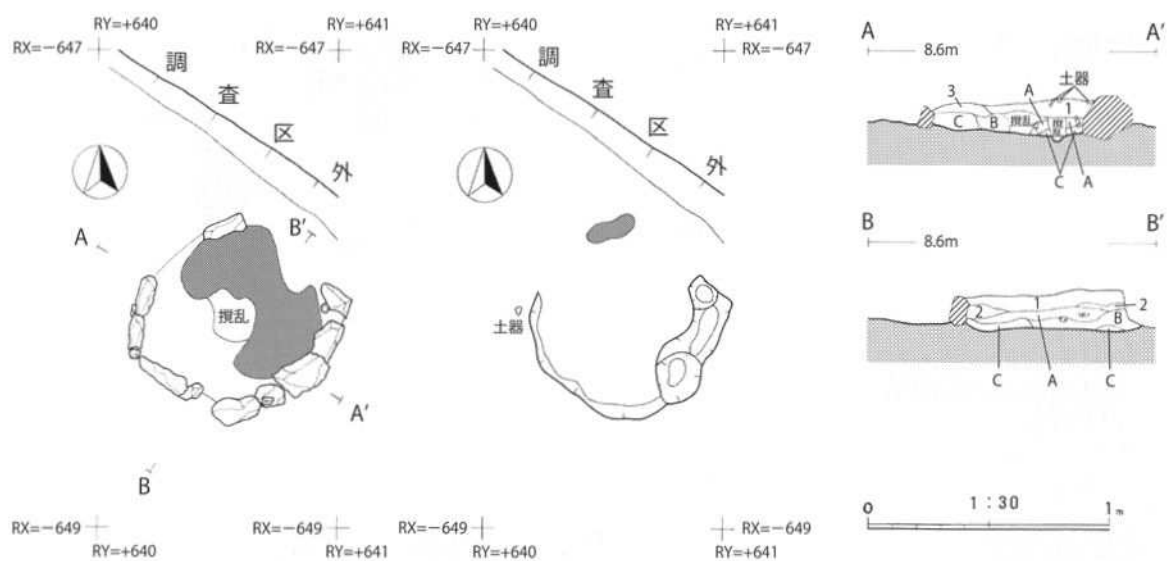
1号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR3/2 黒褐色埴土	10YR3/4 黒褐色埴土5%焼状	硬質、粘性あり 灰化物5mm大少量
2	10YR3/2 黒褐色埴土	10YR3/4 黒褐色埴土10%焼状	硬質、粘性あり 灰化物少量
3	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土20%焼状 10YR4/6 褐色砂土10%焼状	やや硬質、粘性ややあり 地山土ブロック黄色粒状少量
4	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/4 黒褐色埴土5%焼状	硬質、粘性あり 灰褐色粒少量
5	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%焼状	硬質、粘性あり

1号竪穴住居跡 ビット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/3 黒褐色砂土20%焼状	硬質、粘性あり
2	10YR1/2 黒色埴土	10YR2/2 黒褐色埴土5%焼状	硬質、粘性あり
3	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土20%焼状	硬質、粘性あり
4	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%焼状	硬質、粘性あり
p2	1 10YR3/3 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%焼状	硬質、粘性あり 灰褐色粒少量, 5mm大の灰化物粒少量
2	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土2%焼状	硬質、粘性あり
p3	1 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/4 黒褐色埴土10%焼状	硬質、粘性あり 5mm大灰化物少量
2	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土2%焼状	硬質、粘性あり
p4	1 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%焼状	硬質、粘性あり 10mm大塊
2	10YR1/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土2%焼状	硬質、粘性あり

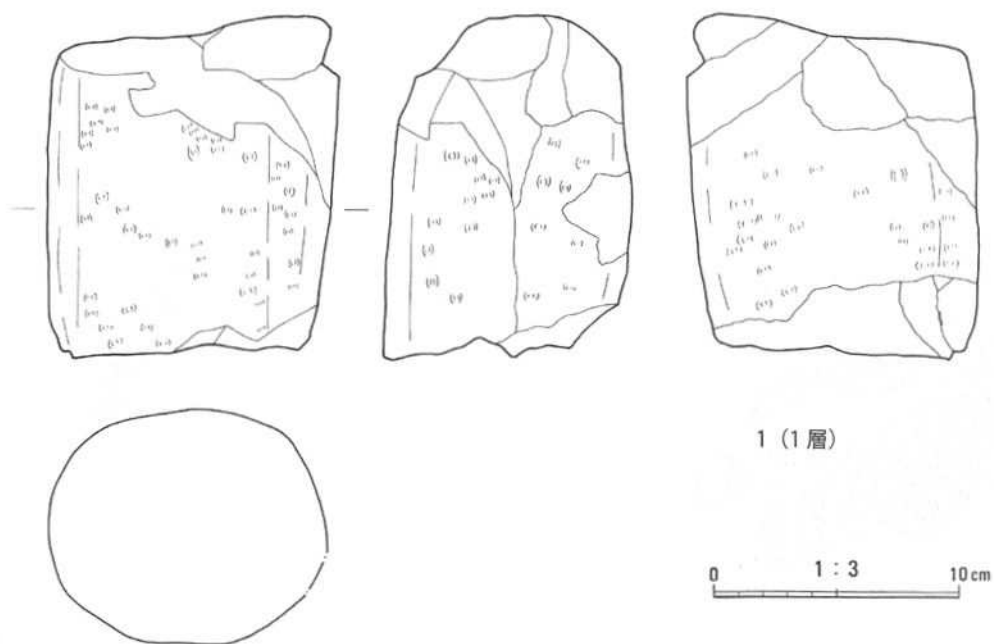
第7図 1号竪穴住居跡 平面図・断面図



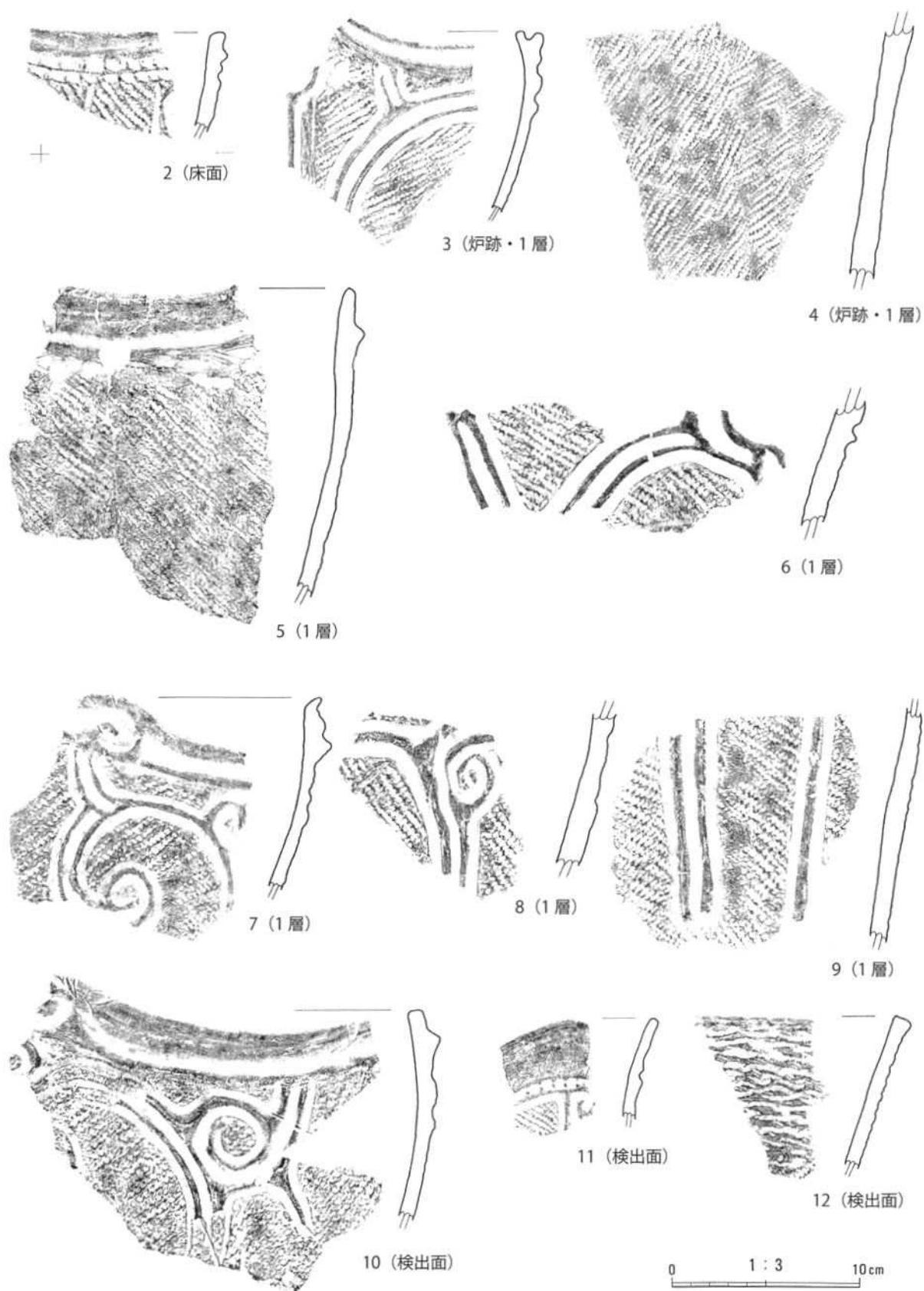
1号竪穴住居跡 石囲炉 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
石囲炉 壁土	1 7.5YR2/3 暗褐色埴埴土	7.5YR3/4 暗褐色埴埴土3%混入	硬質、粘性あり 埴土粒少量
	2 7.5YR3/4 暗褐色埴埴土	7.5YR4/6 暗褐色埴埴土20%混入	硬質、粘性あり 埴土粒少量
	3 7.5YR2/3 暗褐色埴埴土	7.5YR3/2 暗褐色埴埴土10%混入	硬質、粘性あり 5mm大の埴土粒少量
石囲炉 囲り方	A 5YR4/8 赤褐色埴埴土	—	硬質、粘性あり 3～5mm大の埴土粒(2%)含む
	B 7.5YR3/2 黒褐色シルト質埴埴土	—	硬質、粘性あり 1～5mm大の埴土粒(10%)含む
	C 10YR3/2 暗褐色シルト質埴埴土	7.5YR3/2 黒褐色シルト質埴埴土1%含む	硬質、粘性あり 1～3mm大の埴土粒(2%) 1～5mm大の埴土粒少量含む

第8図 1号竪穴住居跡 石囲炉 平面図・断面図



第9図 1号竪穴住居跡 出土遺物 (1)



第10図 1号竖穴住居跡 出土遺物(2)

2号竪穴住居跡（第11・12図、写真図版11・12、70・95）

2号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅱa層下層である。層位的に6号竪穴住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。

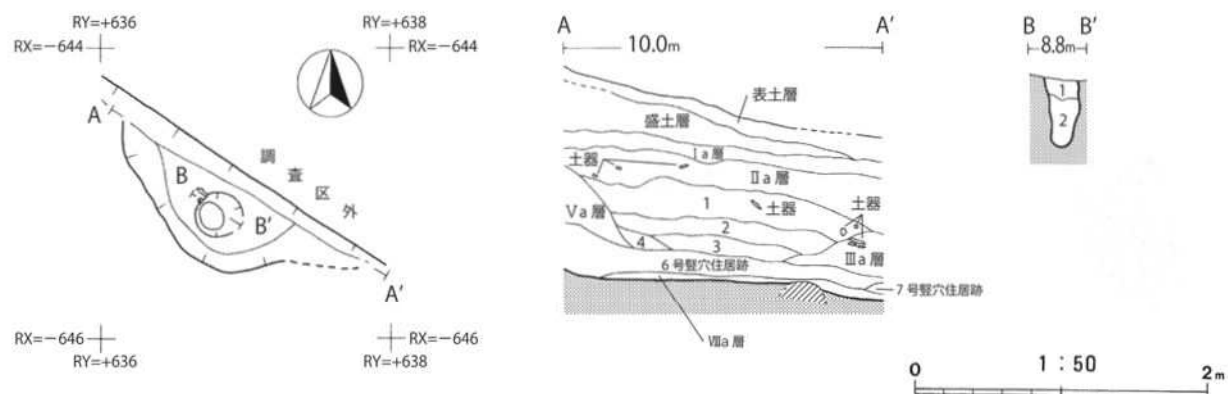
住居跡の端部のみの検出であり、大部分は調査区外に延びているため平面形は不明であるが、円形を呈すると推測される。規模は東西（2.0）m、南北（0.55）mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土は4層に分けられる。1層中には5cm大の礫が多数含まれている。

ピットは1基確認された。直径30cmを測り、床面からの深さは50cmを測る。断面形から柱穴の可能性が考えられる。

遺物は縄文土器・磨石を図示している。第12図1は深鉢の底部で、ナデ調整されている。第12図2～8は深鉢の胴部破片で、単節斜縄文の地文に沈線や粘土隆帯による文様が施文されている。第12図9はミニチュア土器の底部で、ナデ調整されている。第12図10は磨石で、2面に機能面がみられる。

本遺構は、出土した縄文土器の文様などから所属時期は縄文時代中期と考えられる。



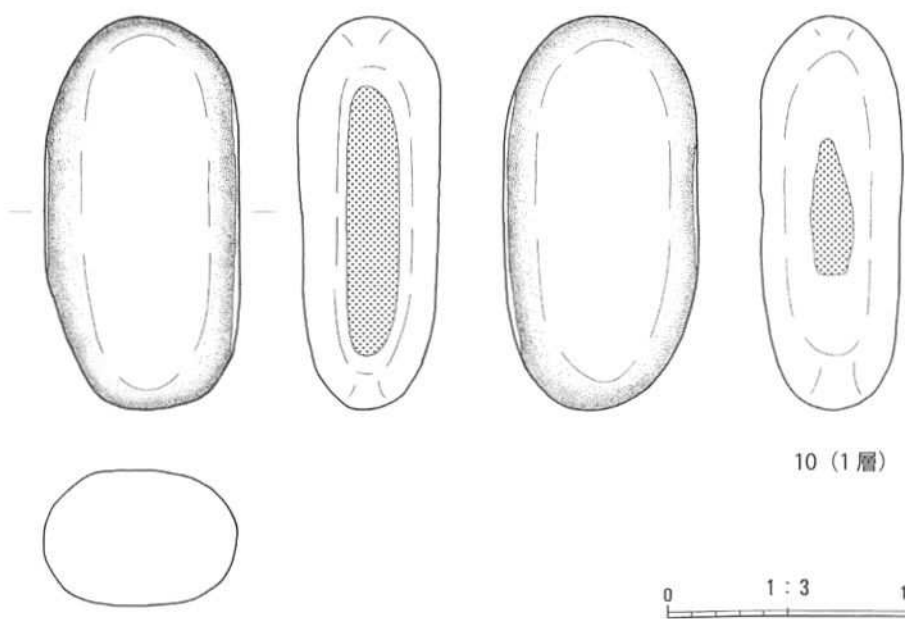
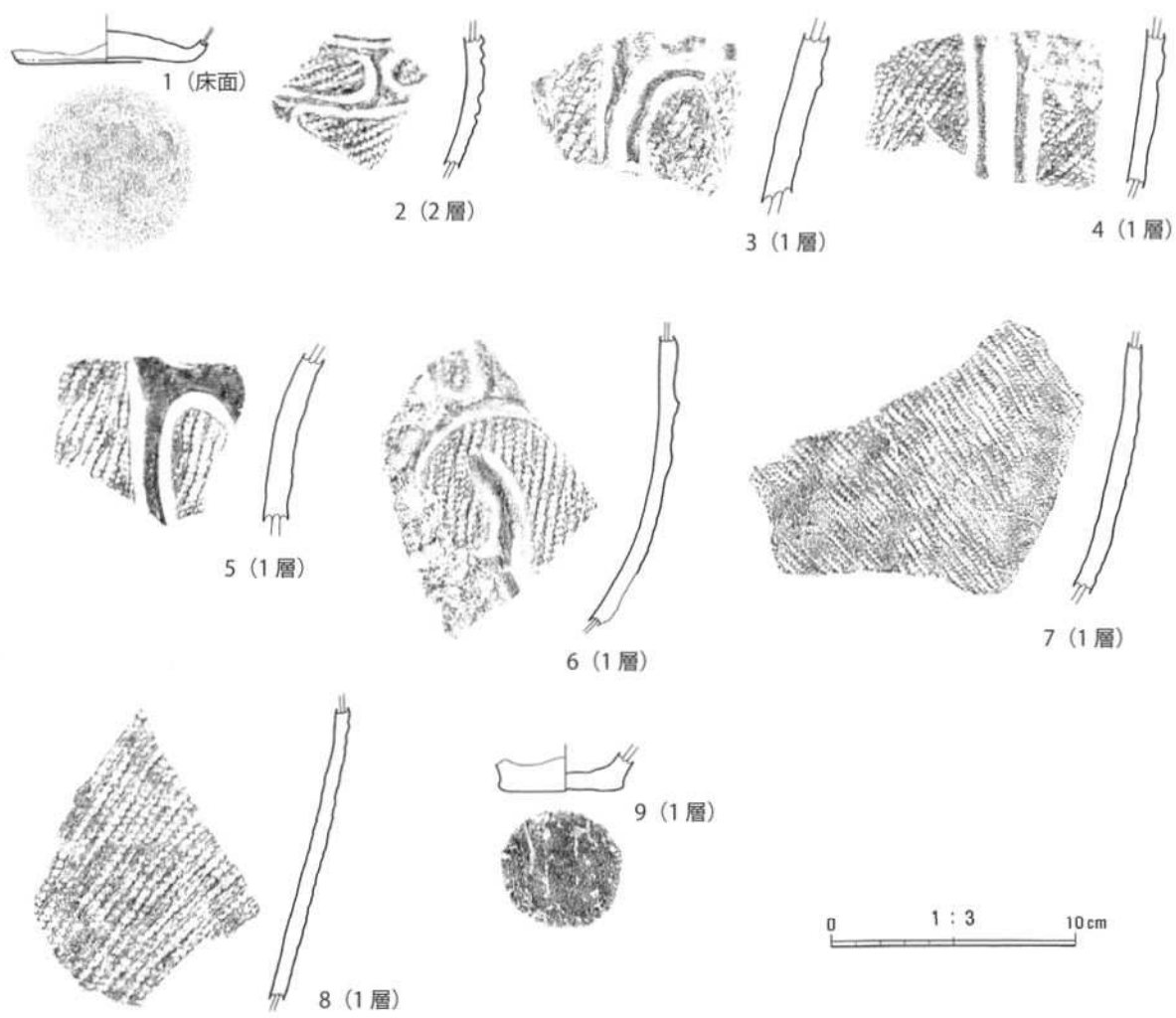
2号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR2/1 黒色堆積土	10YR2/2 黒褐色堆積土5%混入	硬質、粘性あり 5cm大の礫、縄文土器多量
2	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR2/3 黒褐色堆積土10%混入	硬質、粘性あり 5cm大の礫
3	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR2/3 黒褐色堆積土5%混入	硬質、粘性あり
4	10YR2/1 黒色堆積土	10YR2/2 黒褐色堆積土10%混入	硬質、粘性あり

2号竪穴住居跡 ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR2/3 黒褐色堆積土10%混入	やや硬質、粘性ややあり 30cm大の礫
2	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR2/4 黒褐色堆積土20%混入	やや硬質、粘性ややあり

第11図 2号竪穴住居跡 平面図・断面図



第12図 2号竖穴住居跡 出土遺物

3号竪穴住居跡（第13～21図、写真図版13～24、71～80・93・95）

3号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅲ a層下層である。層位的に1号・7号竪穴住居跡と重複関係にあり、1号竪穴住居跡よりも本遺構の方が古く、7号竪穴住居跡よりも本遺構の方が新しい。

北壁と西壁の一部の立ち上がりは調査区外に延びているが、平面形は不整な楕円形を呈している。規模は東西3.3m、南北（3.1）mを測る。

堆積土は9層に分けられ、8・9層は床面下層の堆積である。特に8層は床面において部分的に分布し、さらに硬質で粘性があるため貼床と考えられる。

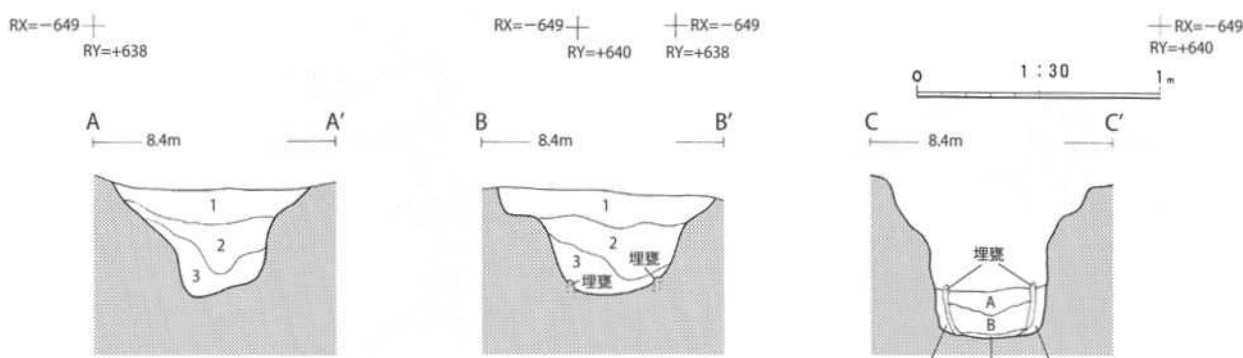
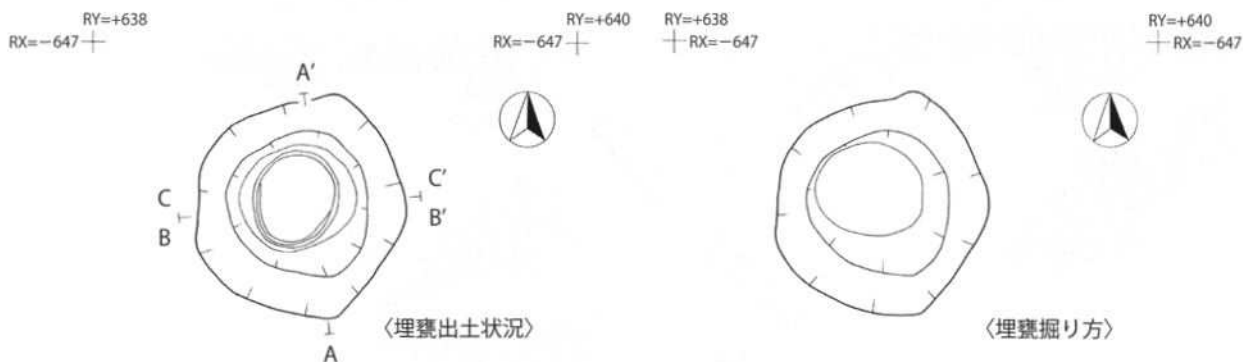
ピットは12基確認された。p1～4・7・9・10は床面中央部の埋甕の埋設部を中心として等間隔に分布し、深さも30cm以上あるため、柱穴の可能性が高い。一部は調査区外となるが、8本柱と推測される。さらに床面からは焼土ブロックが複数箇所検出されているが、石囲炉や地床炉などは確認されなかった。

埋甕は床面中央部の床面下層（8層下層）で検出され、この部分のみ貼床が確認されなかったため、掘り下げを行ったところ、埋甕が出土した。埋甕自体は直径約40cm、高さ22cmを測るが、掘り方は長径90cm、短径84cm、深さは60cmを測る。埋甕上部には3層の堆積土がみられ、埋甕内及び周辺にも堆積土が観察された。堆積土中に他の遺物や特徴的な混入物などはみられなかった。

遺物は縄文土器・石器を図示している。第15図1は縄文土器の深鉢口縁部で、床面下層から確認された埋甕である。口縁部は粘土紐により横方向の隆帯や円形の文様が作り出されている。円形の文様は口縁部の4箇所施されている。胴部は粘土紐による隆帯や沈線によって連結された渦巻き文様が複数みられる。地文はRL単節斜縄文が施されている。第16図2～7、第17図8～11は床面から出土した縄文土器の深鉢口縁部及び胴部である。第16図2は口縁部に連結した渦巻き文様が施されている。第16図4・6は口縁部の渦巻き文様の他、胴部においても粘土紐による隆帯や沈線により連結した渦巻き文様がみられる。第16図7・8・10は胴部の円形文様や渦巻き文様は沈線で施文されている。第17図12以降、床下やピット、堆積土中から出土した縄文土器である。第17図17は深鉢口縁部破片で、キャリパー形を呈している。第18図19は橋状の突起がみられ、胴部には複節縄文を地文とした渦巻き文様や縦方向の沈線がみられる。外面の一部に赤彩の痕跡が観察されている。第19図27は口縁部における横方向の刺突のほか、胴部には渦巻き文様が縦方向に連結した文様が施されている。第20図36は円形や縦方向の長楕円形の磨消縄文が連続して施文され、大木9式と考えられる。第20図37・38・40は沈線により円形や長楕円形の文様が施文されている。

第21図43・44は石鏃である。ともに凹基無茎の形態を有し、両面に丁寧な調整剥離がみられる。第21図45は磨石で、1面に機能面が観察される。

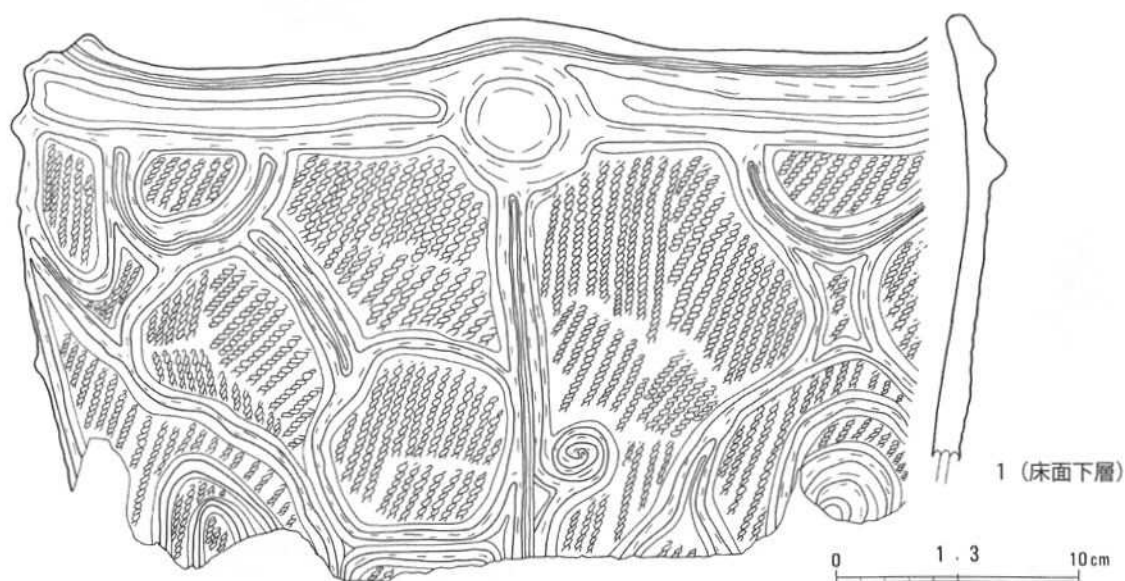
本遺構は、遺構の重複関係や出土した縄文土器の文様などから所属時期は縄文時代中期、大木8b式期と考えられる。



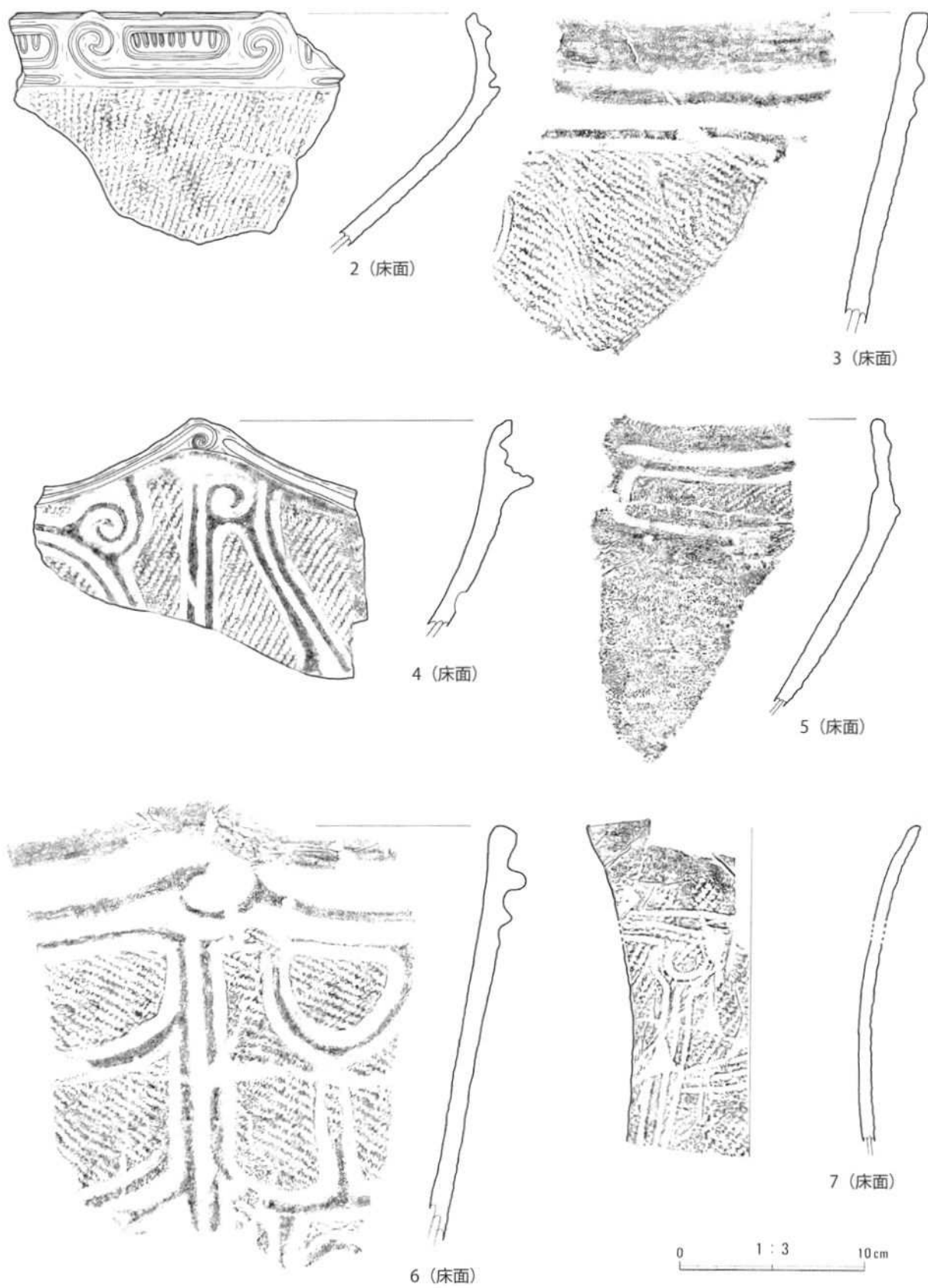
3号竪穴住居跡 埋葬 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR2/3 暗褐色シルト質壤土	10YR2/3 暗褐色シルト質壤土10%	硬質、粘性あり 10YR4-5褐色土ブロック状にわずかに含む(5%) 焼土ブロック状(5mm)に少量含む(10%) 1~3mm大炭化物含む(10%)
2	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR4/3 に近い黄褐色シルト質壤土20%	硬質、粘性あり 1~3mm大炭化物少量含む(10%) 1~3mm大炭化物わずかに含む(1%)
3	10YR3/2 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土10%含む	硬質、粘性あり 3~5mm大炭化物含む(15%) 1~3mm大炭化物土ブロック状にわずかに含む(1%)
A	10YR2/2 暗褐色壤土	10YR5/5 黄褐色壤土ブロック状2%	硬質、粘性あり 1~3mm大炭化物、3mm程度の硬さ
B	10YR2/2 暗褐色壤土	10YR5/5 黄褐色壤土ブロック状2%	硬質、粘性あり 10~15mm大炭化物含む
C	10YR1 3/1 黒色砂壤土	10YR2/2 暗褐色砂壤土塊状2%	硬質、粘性あり 1~3mm大炭化物、3mm程度の硬さ
D	10YR2/2 暗褐色砂壤土	10YR5/5 黄褐色砂壤土粒状5%	硬質、粘性あり 5mm~10mm硬さ、21よりしまりあり

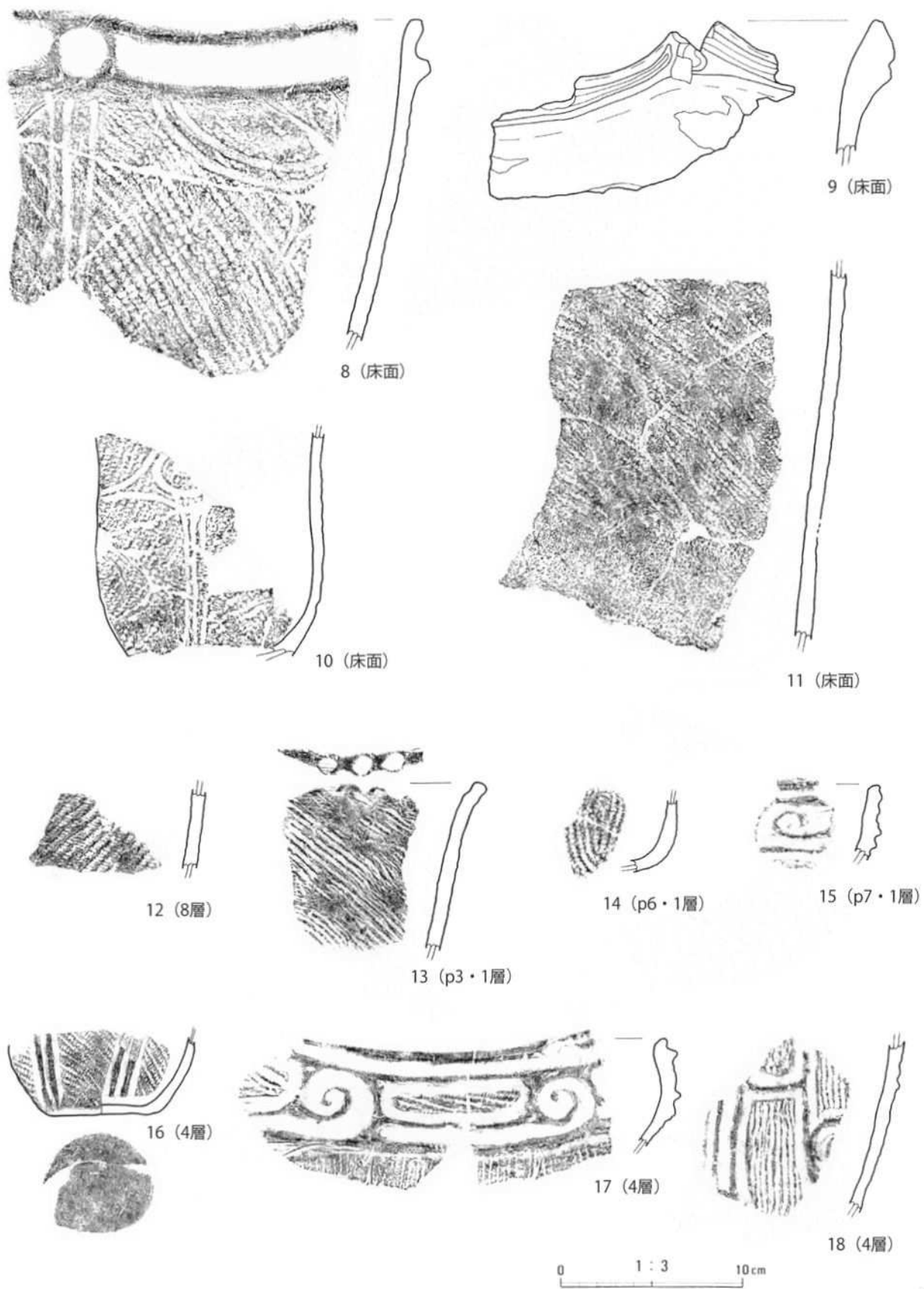
第 14 図 3号竪穴住居跡 埋葬 平面図・断面図



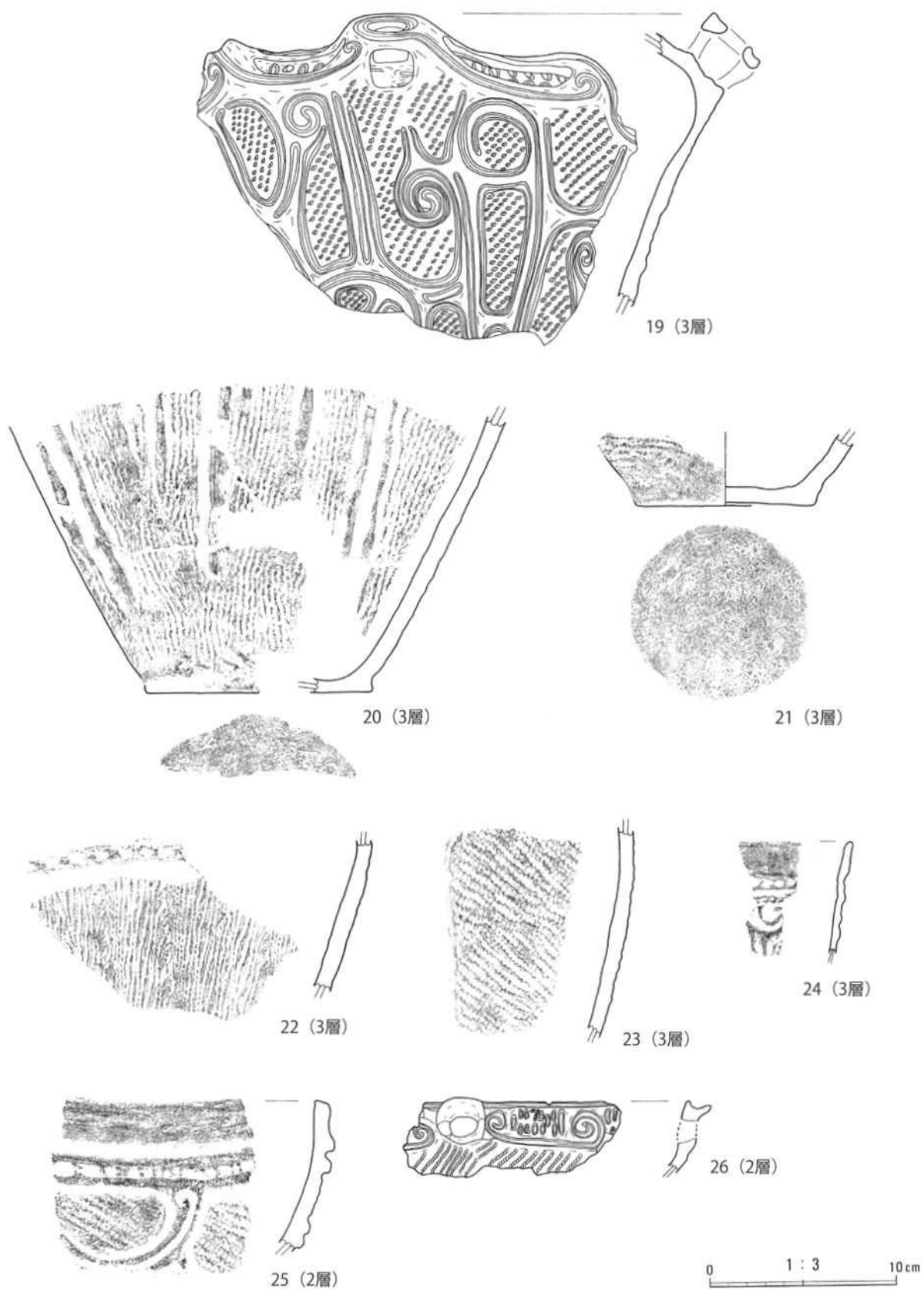
第 15 図 3号竪穴住居跡 出土土器 (1)



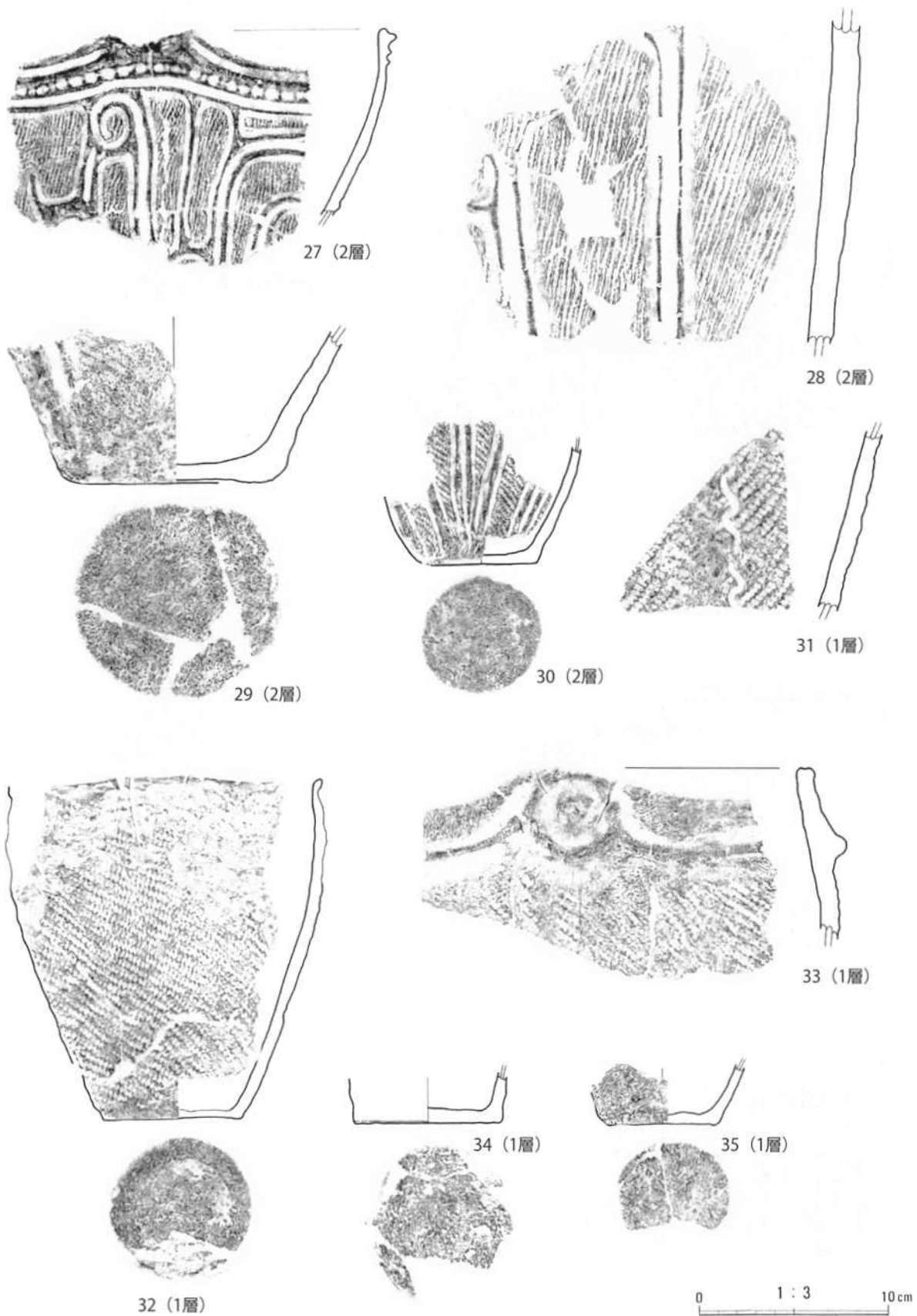
第16图 3号竖穴住居跡 出土遺物(2)



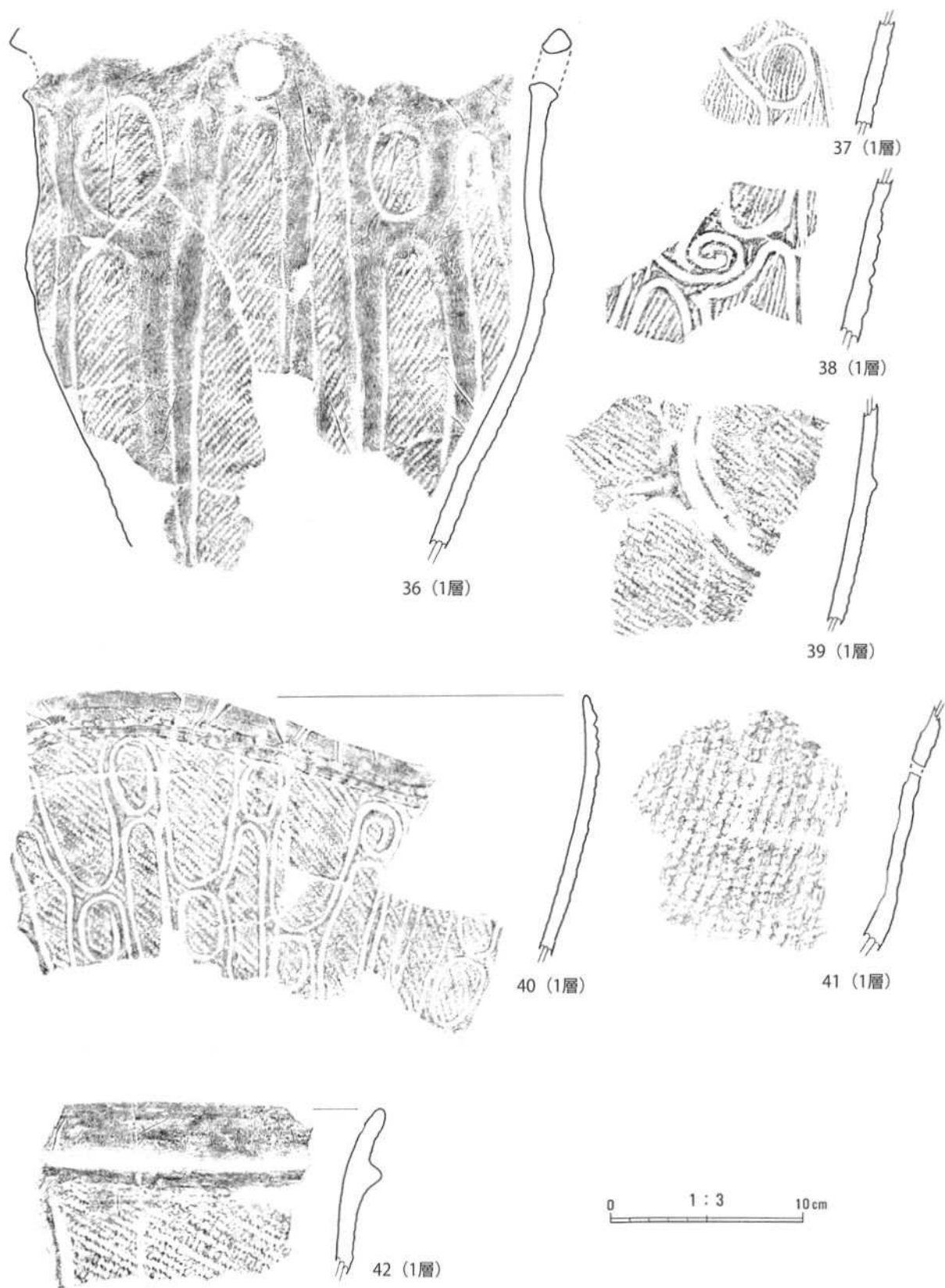
第 17 図 3 号竪穴住居跡 出土遺物 (3)



第18図 3号竖穴住居跡 出土遺物(4)



第 19 図 3 号竪穴住居跡 出土遺物 (5)



第20図 3号竖穴住居跡 出土遺物(6)

4号竪穴住居跡（第22～24図、写真図版25～29、81・95）

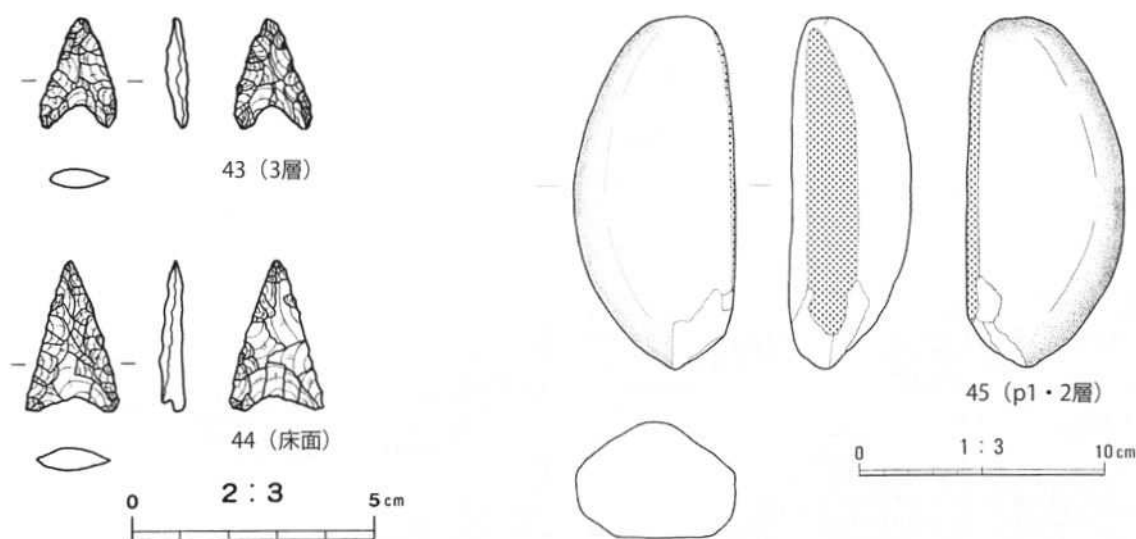
4号竪穴住居跡は調査区南東部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅲc層上面である。層位的に1号竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構の方が古い。

東壁と南壁の一部の立ち上がりのみを検出しているため、平面形は不明である。規模は東西(3.5)m、南北(3.8)mを測る。堆積土は3層に分けられ、層厚は薄い。ピットは14基確認された。石囲炉を中心として、その周辺に分布しているが、規則性はみられない。断面形からp7・13は柱穴の可能性はある。

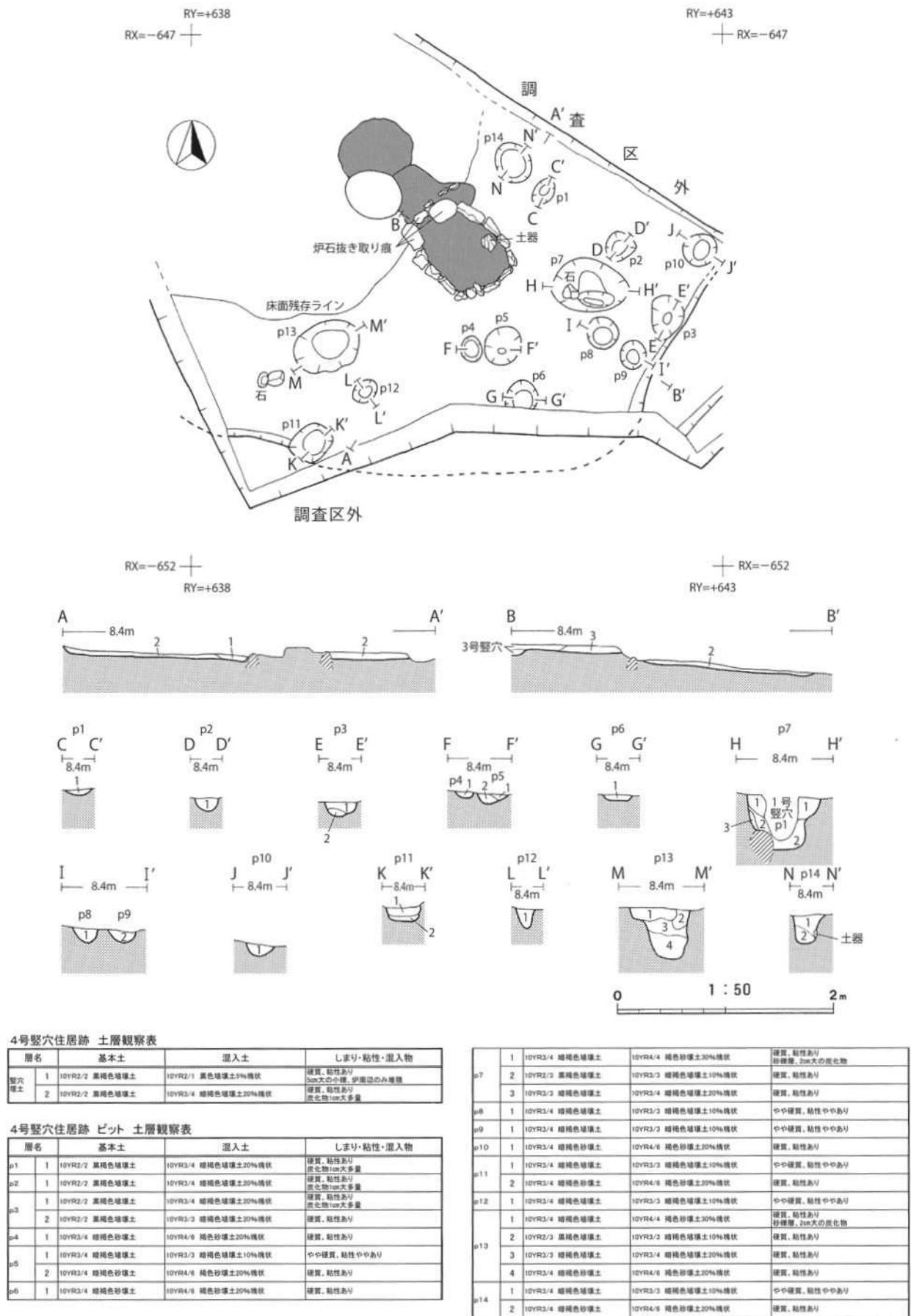
石囲炉は調査区中央部で検出され、長方形に石を並べている。長径100cm、短径(80)cmを測り、炉内の堆積土は4層に分けられる。1層中には炭化物が多量に含まれているのが確認された。掘り方A層は焼土層で、炭化物や焼土塊が多量に含まれている。

遺物は縄文土器・磨石を図示している。第24図1～4は縄文土器の深鉢胴部破片で、RLやLR単節斜縄文を地文として粘土紐隆帯により渦巻き文様や縦方向の直線が施文されている。第24図5は縄文土器深鉢口縁部の破片で、突起部に沈線による渦巻き文様がみられ、口縁下部には文様がなく、ナデ調整されている。第24図6は磨石で、2面に機能面が観察される。

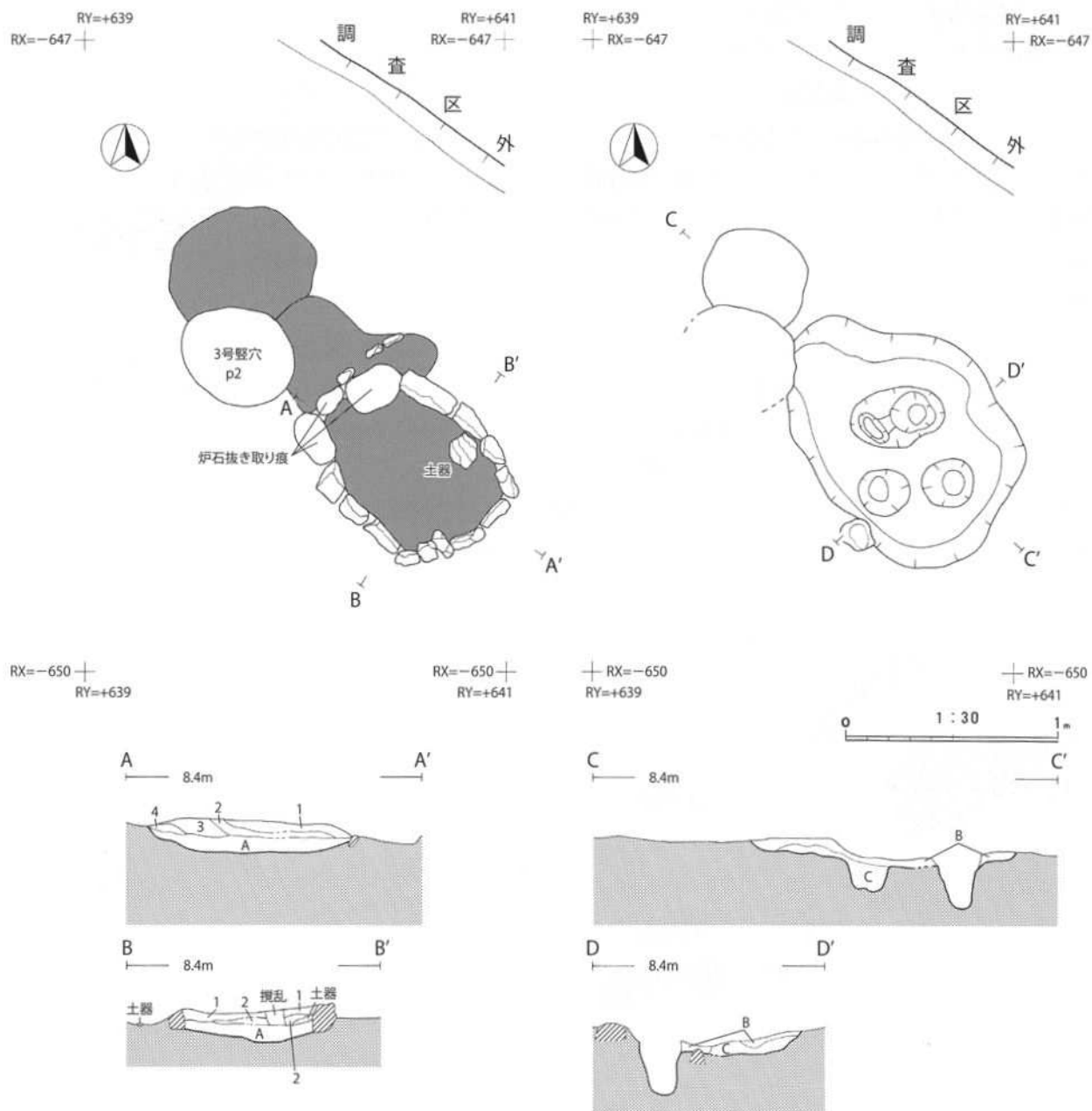
本遺構は、出土した縄文土器の文様や石囲炉の形態などから所属時期は縄文時代中期、大木8b式期と考えられる。



第21図 3号竪穴住居跡 出土遺物(7)



第 22 図 4号竪穴住居跡 平面図・断面図



4号竖穴住居跡 石囲炉 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
石囲炉 埋土	1 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土5%混状	やや硬質、粘性ややあり 2~3cm大の炭化物多量
	2 10YR2/3 黒褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土20%混状	やや硬質、粘性ややあり 炭化物、2cm大少量
	3 10YR3/4 暗褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土10%混状	やや硬質、粘性ややあり
	4 10YR2/3 黒褐色埴土	10YR2/2 黒褐色埴土5%混状	硬質、粘性あり 2cm大の炭化物少量、埴土層
石囲炉 掘り方	A 5YR3/4 暗褐色埴土	5YR4/6 赤褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり 2cm大の炭化物多量、埴土層
	B 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土20%混状	硬質、粘性あり 2cm大の炭化物多量、埴土層
	C 10YR2/3 黒褐色埴土	10YR4/4 暗褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり

第 23 図 4号竖穴住居跡 石囲炉 平面図・断面図

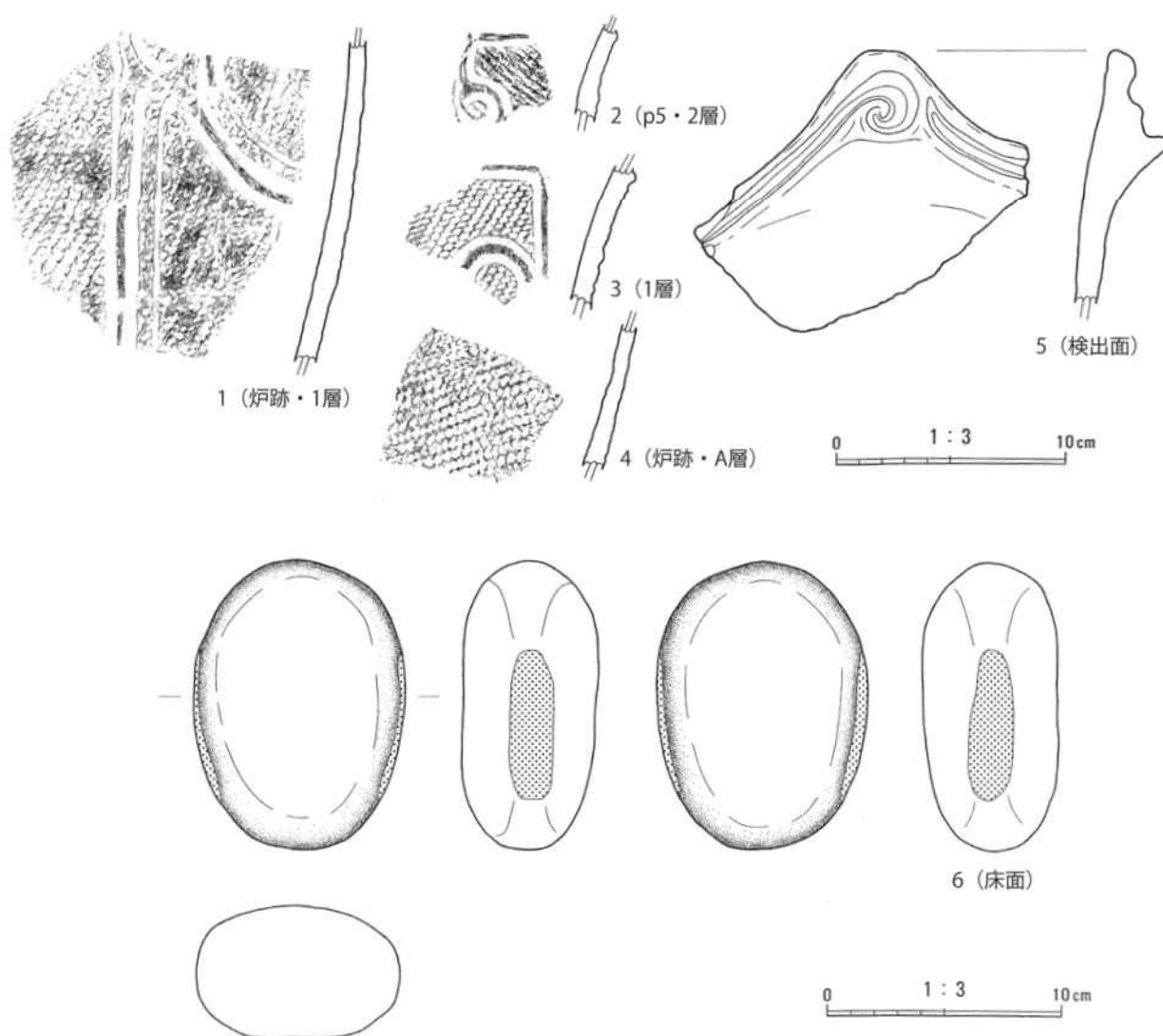
5号竪穴住居跡（第25～28図、写真図版30～33、82・83・95）

5号竪穴住居跡は調査区西端部で検出され、遺構検出面は基本土層V a層下層である。層位的に2号竪穴住居跡よりも、本遺構の方が古い。

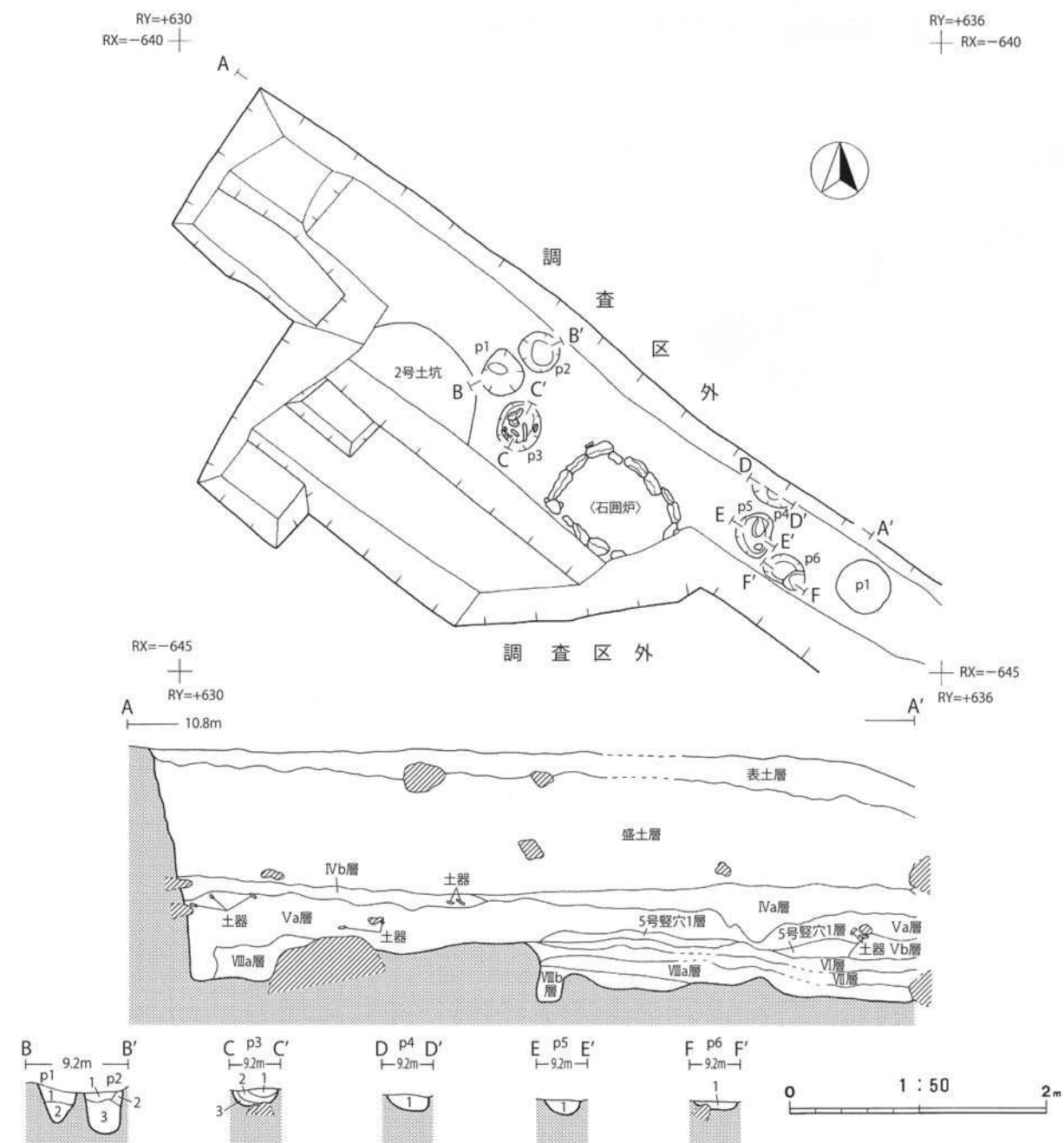
狭小な調査面積のため、トレンチ状に広げた箇所検出され、大部分は調査区外に延びている。壁の立ち上がりを確認できなかったため、平面形は不明である。規模は東西（約3.0）m、南北（1.1）mを測る。堆積土は1層のみ調査区東西壁で確認された。黒褐色を呈する埴埴土である。ピットは6基確認された。それぞれ直径30cm前後で、p1・2以外は深さはない。p1の1層やp3の1層では小礫が多数含まれている。

石田炉は調査区壁際で検出され、長方形に石を並べている。長径95cm、短径（80）cmを測り、調査区外に一部延びている。炉内の堆積土は3層のみ堆積し、特に3層は焼土塊が多数含まれている。その3層下層からさらに深く掘り込まれており、掘り方として約30cmの堆積層を確認している。掘り下げ途中には縄文土器の深鉢胴部の破片が出土している。

遺物は縄文土器・磨石を図示している。第27図1は磨石で、1面にのみ機能面が観察される。第28図2は縄文土器の深鉢胴部で、単節斜縄文の上から渦巻き文様や横方向の沈線が施されている。第28図3・



第24図 4号竪穴住居跡 出土遺物



5号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
竪穴埋土	1 10YR2/2 黒褐色砂礫土	7.5YR5/6 明褐色砂礫土30%塊状	硬質、粘性あり 焼土層 層状、炭層あり

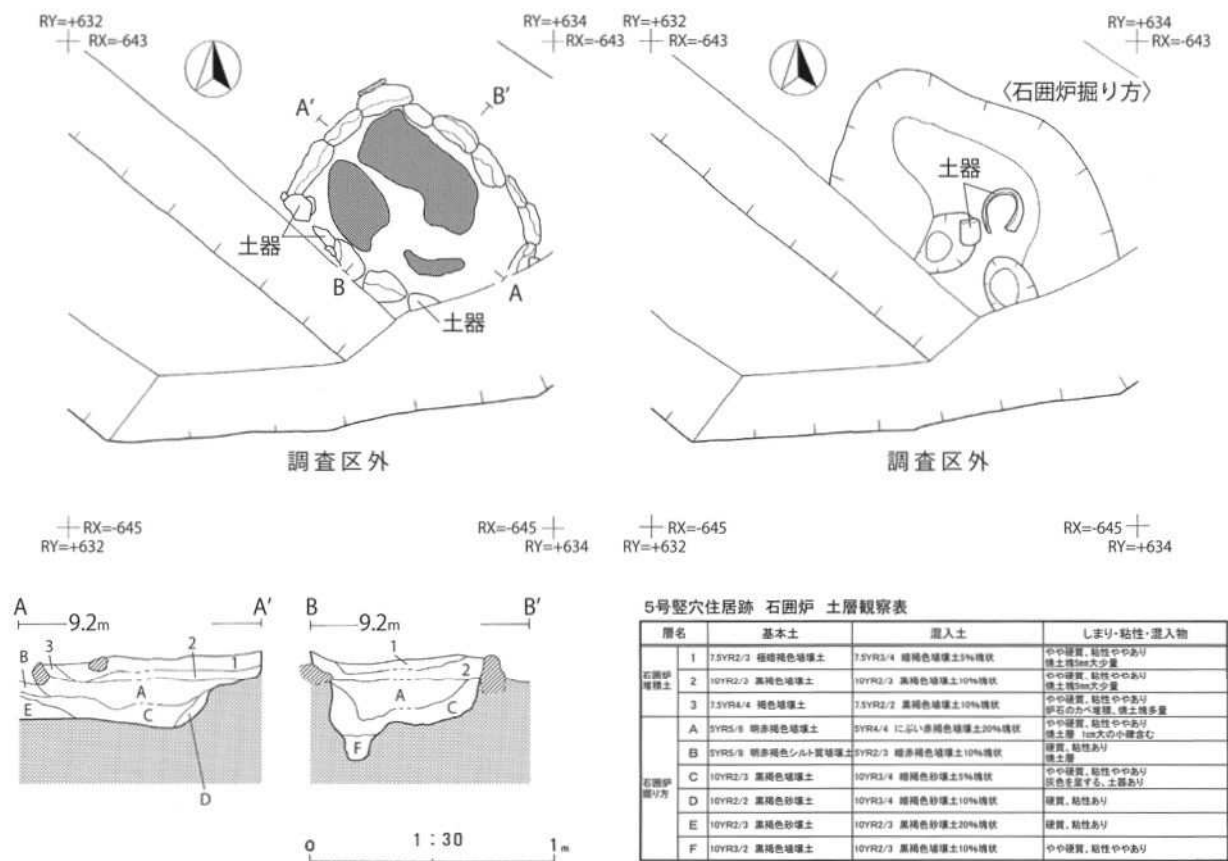
5号竪穴住居跡 ビット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR2/3 黒褐色砂礫土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 1cm大の小礫多量
p2	2 10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR2/3 暗褐色砂礫土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p3	1 10YR2/4 暗褐色砂礫土	10YR2/3 暗褐色砂礫土20%塊状	硬質、粘性あり
p4	2 10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR2/3 黒褐色砂礫土10%塊状	硬質、粘性あり
p5	1 10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR2/3 黒褐色砂礫土5%塊状	硬質、粘性あり 2cm大の白色粒、小礫多量
p6	2 10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR2/3 暗褐色砂礫土10%塊状	硬質、粘性あり 粘土層混入 硬質、粘性あり 2cm大の小礫
p7	1 10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR2/3 暗褐色砂礫土1%塊状	硬質、粘性あり 2cm大の炭化物少量
p8	1 10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR2/3 暗褐色砂礫土1%塊状	硬質、粘性あり 2cm大の炭化物少量

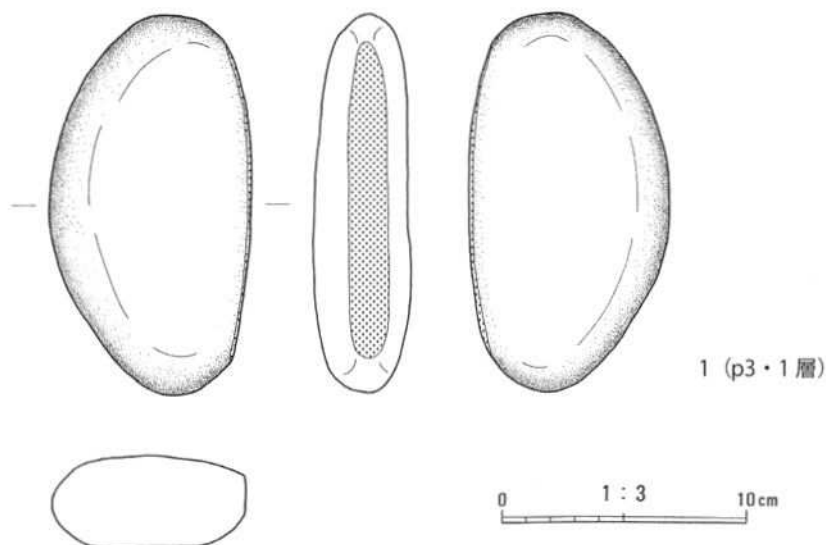
第25図 5号竪穴住居跡 平面図・断面図

4は縄文土器の深鉢底部の破片で、底部はどちらもナデ調整されている。第28図5は縄文土器の深鉢胴部破片で、R L単節斜縄文が施文されている。第28図6～9は縄文土器深鉢の口縁部や胴部破片で、粘土紐隆帯による渦巻き文様や縦方向の文様が施文されている。

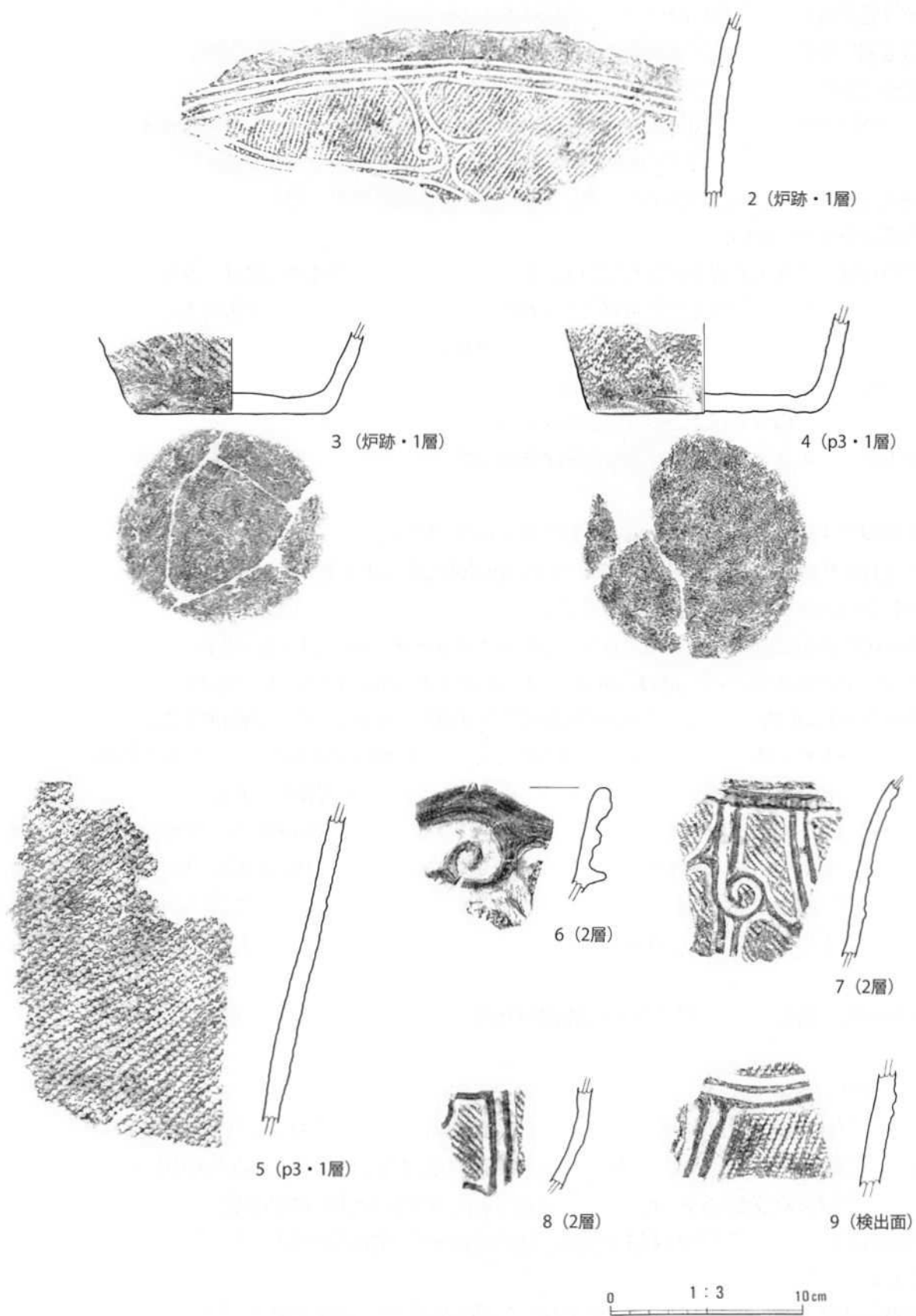
本遺構は、出土した縄文土器の文様や石囲炉の形態などから**所属時期**は縄文時代中期、大木8 b 式期と考えられる。



第26図 5号竪穴住居跡 石囲炉 平面図・断面図



第27図 5号竪穴住居跡 出土遺物 (1)



第 28 図 5 号竪穴住居跡 出土遺物 (2)

6号竪穴住居跡（第29・30・31図、写真図版34・35、84・93）

6号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅵ層上面である。層位的に2号・7号竪穴住居跡と重複し、2号竪穴住居跡よりも古く、7号竪穴住居跡よりも新しい。

住居跡の端部のみの検出であり、大部分は調査区外に延びているため、平面形は不明である。規模は東西（2.7）m、南北（2.7）mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は3層に分けられ、3層中に地山土がブロック状に含まれている。ピットは2基確認された。それぞれ不整楕円形を呈し、柱穴の形態は有していない。

遺物は縄文土器・石器を図示している。第30図1は縄文土器の深鉢口縁部～胴部で、R L単節斜縄文の地文の上に粘土紐隆帯により渦巻き文様が施されている。第30図2は縄文土器の深鉢口縁部～胴部破片で、横方向に刺突文が連続し、胴部には渦巻き文様がみられる。第30図3は縄文土器の胴部破片で、撚糸文の地文の上に沈線により区画された文様を作り出している。第31図4は石鏃である。凹基無茎を呈し、両面に細かな調整剥離がみられる。

本遺構は、縄文土器の文様などから所属時期は縄文時代中期、大木8b式期と考えられる。

7号竪穴住居跡（第31・32・33図、写真図版36・37、85・93）

7号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅲa層下層である。層位的に3号・6号竪穴住居跡と重複し、本遺構の方が古い。

住居跡の西側端部のみの検出であり、大部分は調査区外に延びている。平面形は不明であるが、円形を呈すると推測される。規模は南北（1.5）mの壁のみ確認している。壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は1層のみ確認し、1～2cm大の炭化物粒が多量に含まれている。地床炉と考えられる焼土が床面から検出され、長径50cm、短径30cmを測る。堆積土は2層に分けられる。ピットは6基確認された。分布に規則性はみられなかったが、断面形からp1・4・5は柱穴の可能性はある。

遺物は縄文土器・石器を図示している。第33図1は縄文土器の胴部破片で、斜縄文の上から渦巻き文様が施文されている。第33図2～6はピット内からの出土で、第33図4以外は口縁部破片である。キャリパー形や口縁がラッパ状に広がるなど多様な形態がみられる。粘土紐の隆帯や沈線などで、渦巻き文様などを作り出している。第31図5は石鏃で、凹基無茎を呈する。両面に細かな調整剥離が観察される。

本遺構は、縄文土器の文様などから所属時期は縄文時代中期、大木8b式期と考えられる。

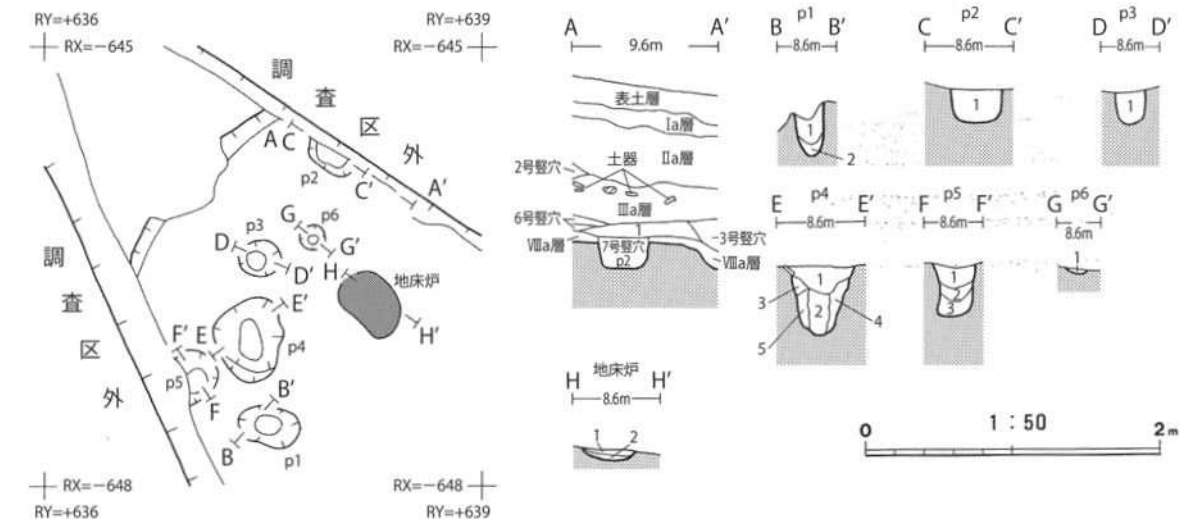
8号竪穴住居跡（第34・35図、写真図版38・39、85）

8号竪穴住居跡は調査区南東部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅲc層下層である。他の遺構との重複関係はみられない。壁の立ち上がりや床面は検出されず、石囲炉のみを確認している。

石囲炉の規模は長径65cm、短径（48）cmを測り、炉内の堆積土の壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、2層は焼土層である。掘り方はA～C層に分けられ、炉石を据えるために掘られたことが確認された。

遺物は縄文土器を図示している。第35図1は口縁部破片で、単節斜縄文と沈線で文様を作り出している。第35図2・3は胴部破片で、第35図2は単節斜縄文のみ、第35図3は単節斜縄文の地文に縦方向の沈線がみられる。

本遺構は、出土した遺物や石囲炉の検出などから所属時期は縄文時代中期と考えられる。



7号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
竪穴層土	1 10YR2/3 黒褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土10%混入	硬質、粘性あり 1~2mm大の炭化物少量

7号竪穴住居跡 地床炉 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
地床炉層土	1 2 10YR2/3 赤褐色砂質埴土	10YR3/4 暗褐色砂質埴土50%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大の炭化物(15%) 5~10mm大の炭化物(1%) 1~2mm大の炭化物少量(1%) 1~3mm大の炭化物(1%)
	2 10YR3/2 黒褐色シルト質埴土	10YR2/3 黒褐色シルト質埴土30%	硬質、粘性あり 1~3mm大の炭化物(15%) 1~2mm大の炭化物少量(5%)

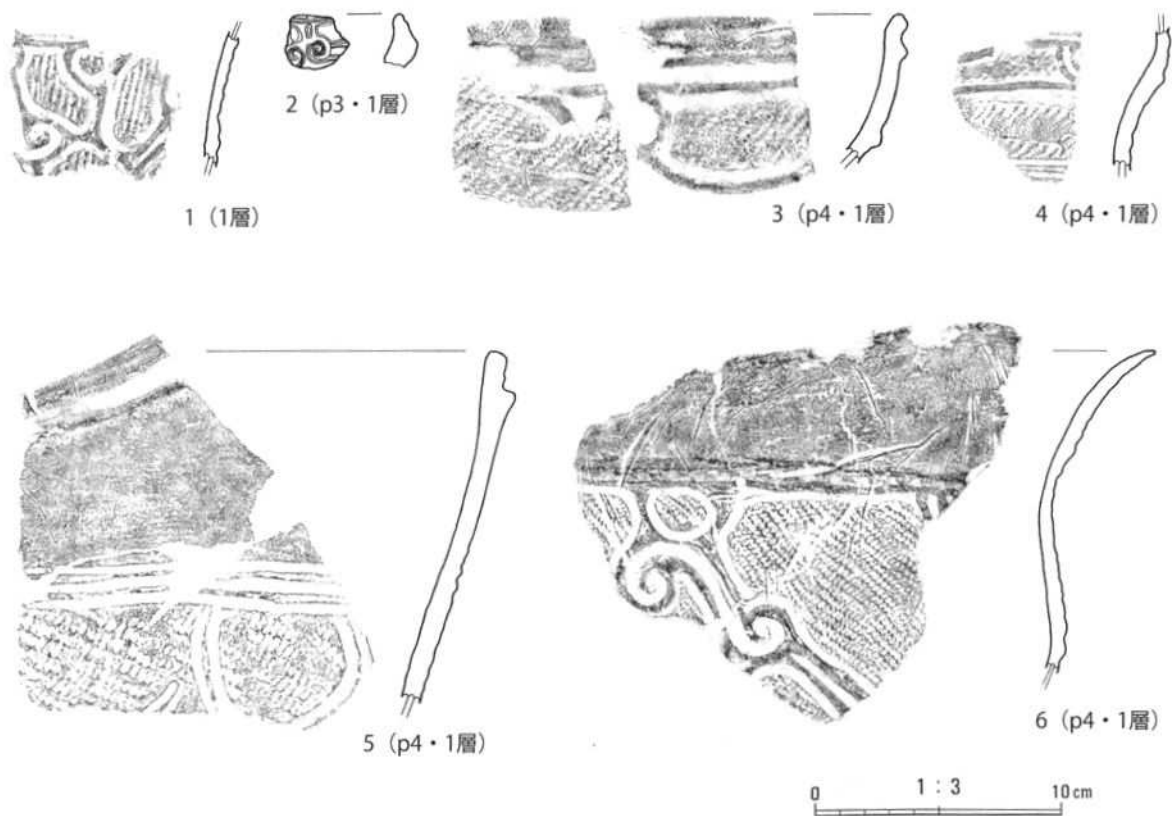
7号竪穴住居跡 ビット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR2/3 暗褐色シルト質埴土	10YR3/1 黒褐色シルト質埴土20%含む	軟質、粘性あり 1~3mm大の炭化物(20%) 硬質、粘性あり 1mm大の炭化物(15%) 1mm大の炭化物少量(5%)
	2 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土20%含む	

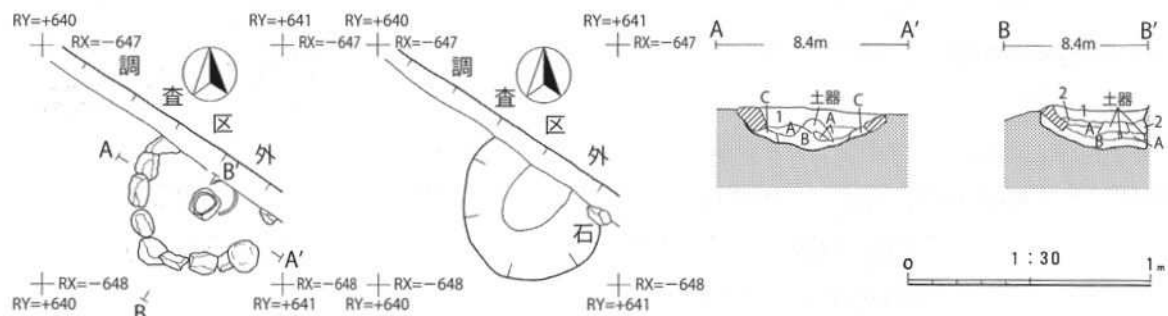
7号竪穴住居跡 ビット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p2	1 10YR2/3 黒褐色埴土	10YR3/4 暗褐色埴土10%混入	硬質、粘性あり
p3	1 10YR3/2 黒褐色シルト質埴土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴土10%	硬質、粘性あり 1~3mm大の炭化物少量(5%) 1~3mm大の炭化物(15%)
	2 10YR2/2 黒褐色シルト質埴土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴土10%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大の炭化物(20%) 1~3mm大の炭化物少量(5%)
p4	3 10YR2/3 黒褐色埴土	10YR3/4 暗褐色埴土20%含む	軟質、粘性あり 3mm大の炭化物少量 1~3mm大の炭化物(20%) 1~3mm大の炭化物(15%)
	4 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土	10YR4/4 暗褐色シルト質埴土ブロック状30%	硬質、粘性あり 1~3mm大の炭化物(15%) 1~3mm大の炭化物少量(5%)
p5	5 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土20%	硬質、粘性あり 1~3mm大の炭化物(20%) 2~5mm大の炭化物少量(10%)
	1 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土30%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大の炭化物(20%) 2~5mm大の炭化物少量(10%)
p6	2 10YR2/1 黒色砂質埴土	10YR3/2 暗褐色砂質埴土20%	軟質、粘性あり 1~3mm大の炭化物(20%) 1~3mm大の炭化物少量(10%)
	3 10YR3/2 黒褐色埴土	-	軟質、粘性あり
p7	1 10YR3/2 黒褐色埴土	10YR4/2 灰褐色埴土10%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大の炭化物少量(5%) 2~5mm大の炭化物(1%)
	2 10YR3/2 黒褐色埴土	-	

第32図 7号竪穴住居跡 平面図・断面図



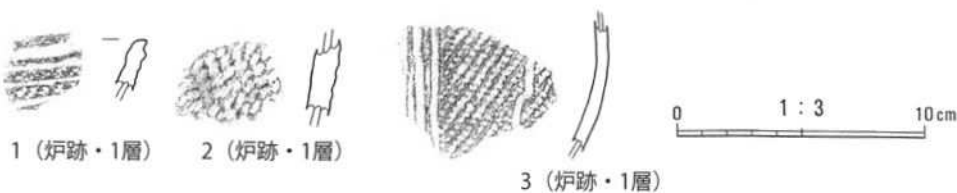
第33図 7号竪穴住居跡 出土遺物



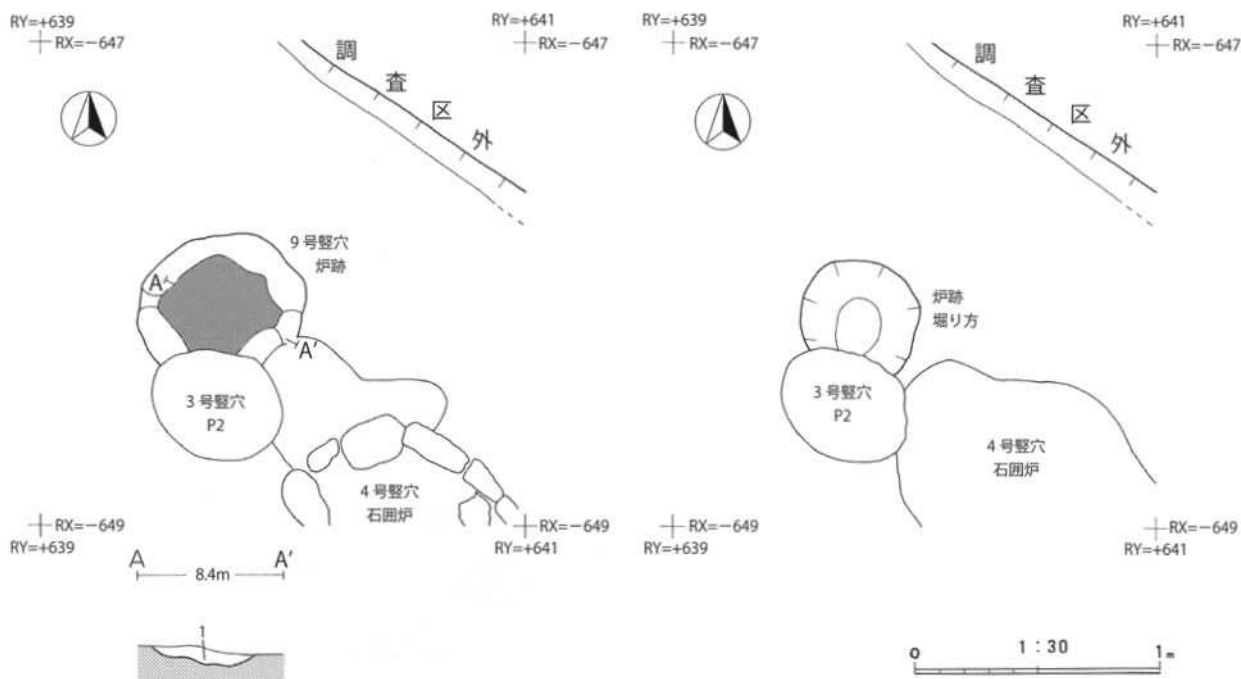
8号竖穴住居跡 石囲炉 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
石囲炉埋土	1 10YR2/3 黄褐色粘壤土	10YR3/4 暗褐色粘壤土10%塊状 10YR3/6 黄褐色シルト質粘壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 200μの黒点、100μの黒土塊少量
	2 7.5YR2/2 黄褐色粘壤土	7.5YR4/4 褐色粘壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 200μの黒点少量
石囲炉掘り方	A 5YR3/6 暗赤褐色砂壤土	5YR3/4 暗褐色粘壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 塊土層 500μの黒点少量
	B 7.5YR3/4 暗褐色砂壤土	7.5YR4/6 褐色粘壤土10%塊状	硬質、粘性あり 鉄屑のため変質、1~200μの小粒少量
	C 7.5YR2/2 黄褐色粘壤土	7.5YR3/3 暗褐色粘壤土5%塊状	硬質、粘性あり

第34図 8号竖穴住居跡 平面図・断面図



第35図 8号竖穴住居跡 出土遺物



9号竖穴住居跡 地床炉 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
地床炉埋土	1 5YR3/4 暗褐色砂壤土	5YR4/6 赤褐色粘壤土20%塊状	硬質、粘性あり

第36図 9号竖穴住居跡 平面図・断面図

9号竪穴住居跡（第36図、写真図版40・41）

9号竪穴住居跡は調査区南東部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅲc層下層である。3号・4号竪穴住居跡と重複し、本遺構の方が古い。

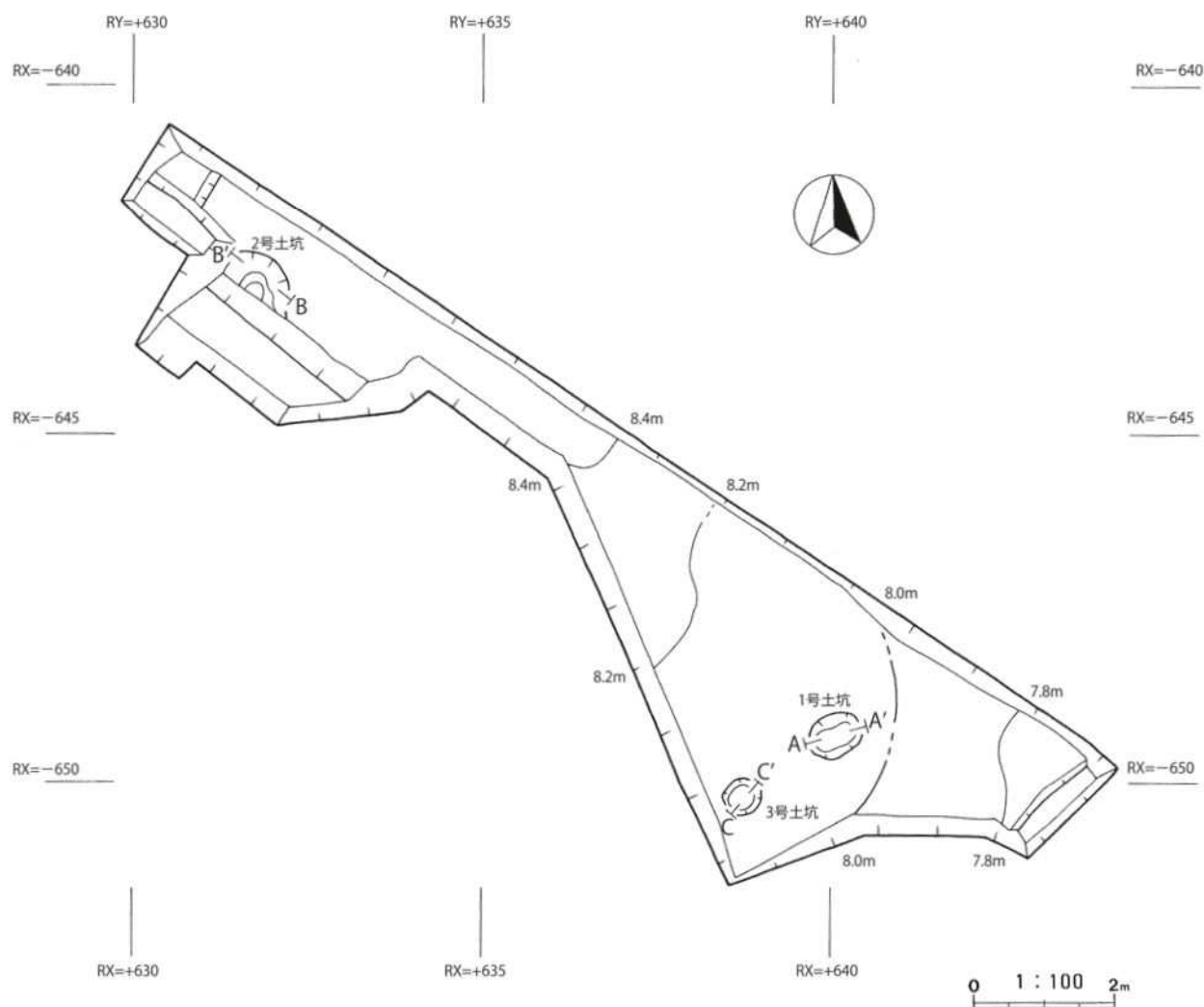
壁の立ち上がりは検出されず、地床炉のみを確認している。炉周辺のピットの分布状況や4号竪穴住居跡との重複関係から、発掘調査時に竪穴住居に伴う遺構と判断した。

地床炉の規模は長径68cm、短径（58）cmを測り、炉内の堆積土の壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は1層のみである。遺物は出土していない。

本遺構は、重複関係などから所属時期は縄文時代中期と考えられる。

第2節 土坑・ピット

土坑は合計3基確認されている。全て縄文時代に属するが、分布に規則性はみられない。1号土坑から出土した縄文時代中期、大木8b式期の口縁部が残存した縄文土器が特筆される。



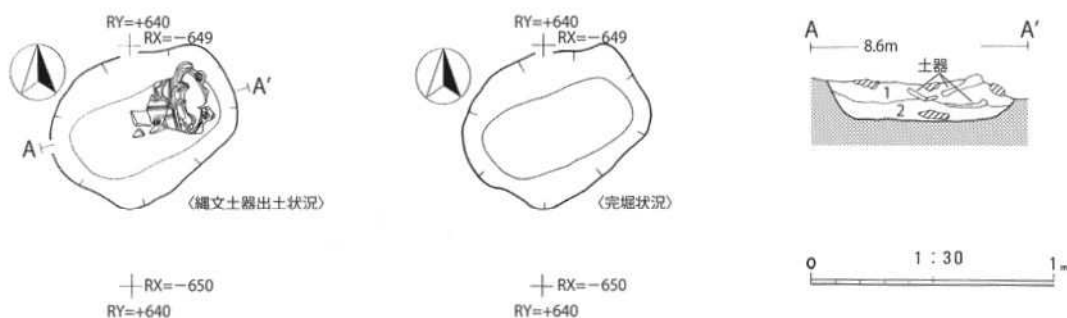
第37図 土坑 検出状況図

1号土坑（第37・38・39図、写真図版42～46、86）

1号土坑は調査区南東部で検出され、遺構検出面は基本土層 I b 層下層である。他の遺構との重複関係はみられない。平面形は不整な楕円形で、規模は長径77cm、短径60cm、検出面から底面までの深さは15cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は2層に分けられ、1層上面に自然礫が集中して出土している。遺物は縄文土器が1点出土している。第39図1は深鉢の口縁部から胴部にかけて残存し、特に口縁部の突起に欠損はみられない。本遺構は、縄文土器の文様・形態などから所属時期は縄文時代中期、大木8b式期と考えられる。

2号土坑（第37・40・41図、写真図版47、86）

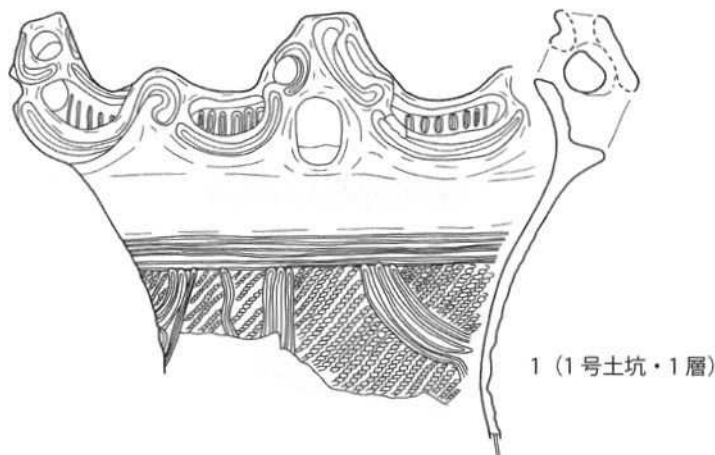
2号土坑は調査区北東部で検出され、遺構検出面は基本土層 V a 層下層である。5号竪穴住居跡の床面下層から検出され、本遺構の方が古い。平面形は不整な円形を呈し、半分は遺構外に延びている。規模は長径（100）cm、短径（60）cm、検出面から底面までの深さは50cmを測る。壁は段状に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は6層に分けられ、層中には縄文土器の破片や礫、炭化物などが混



1号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR3/4 暗褐色堆積土	10YR4/3 (C5L) 黄褐色堆積土10%含む	礫質、粘性ややあり 1～3mm大黄褐色粒含む(10%) 1～5mm大砂粒少量含む(2%) 上面に礫が集中する
2	10YR3/3 暗褐色堆積土	10YR3/2 黄褐色堆積土5% 少量含む	礫質、粘性ややあり 1～3mm大炭化物少量含む(2%) 1～3mm大褐色土少量含む(2%) 3～5mm大炭少量含む(2%)

第38図 1号土坑 平面図・断面図



第39図 1号土坑 出土土器

入している。遺物は縄文土器2点を図示している。第41図2は深鉢の口縁部破片で、単節斜縄文が施文されている。第41図3は底部破片で、外面に単節斜縄文が施文され、底部はナデ調整されている。

本遺構の所属時期は出土した縄文土器の文様・形態などから縄文時代中期と考えられる。

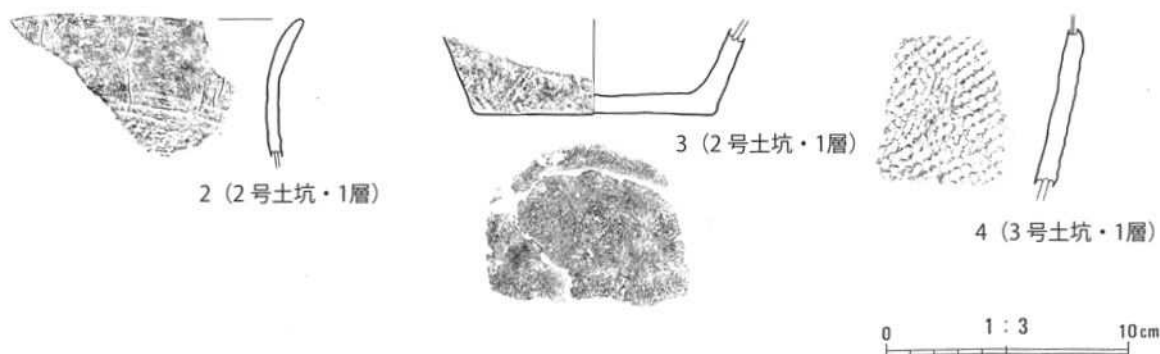
3号土坑（第37・40・41図、写真図版48、86）

3号土坑は調査区南東部で検出され、遺構検出面は基本土層Ⅲc層下層である。他の遺構との重複関係はみられない。平面形は円形で、規模は直径50cm、検出面から底面までの深さは20cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は4層に分けられ、1～3mmの花崗岩小粒が含まれている。遺物は縄文土器1点を図示している。第41図4は深鉢の胴部破片で、単節斜縄文が施文されている。本遺構の所属時期は出土した縄文土器の文様などから縄文時代中期と考えられる。

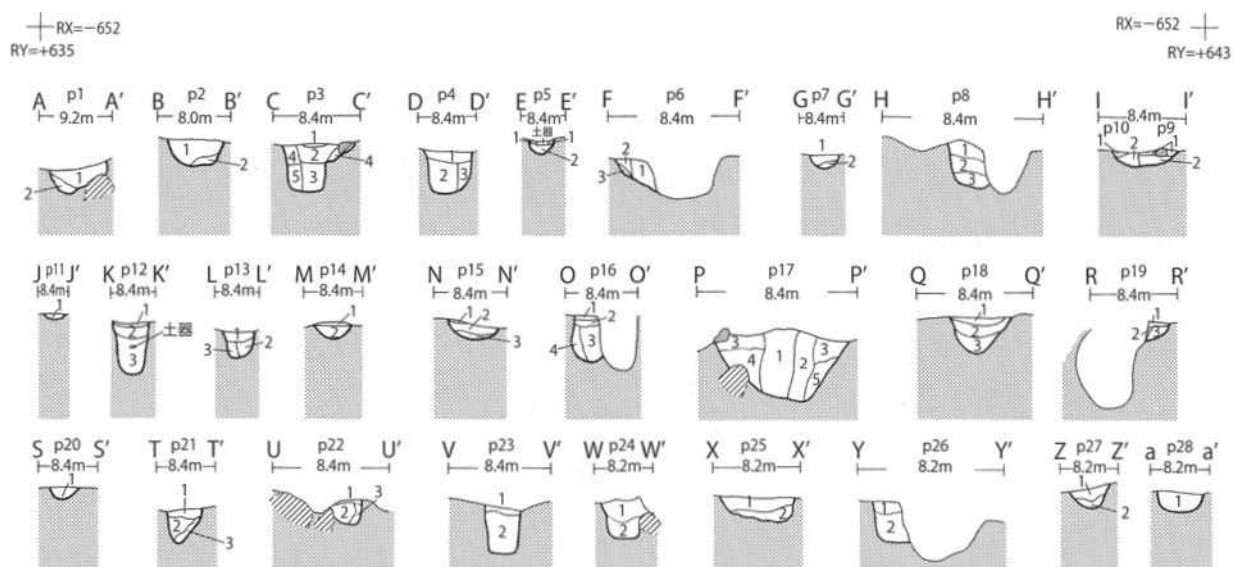
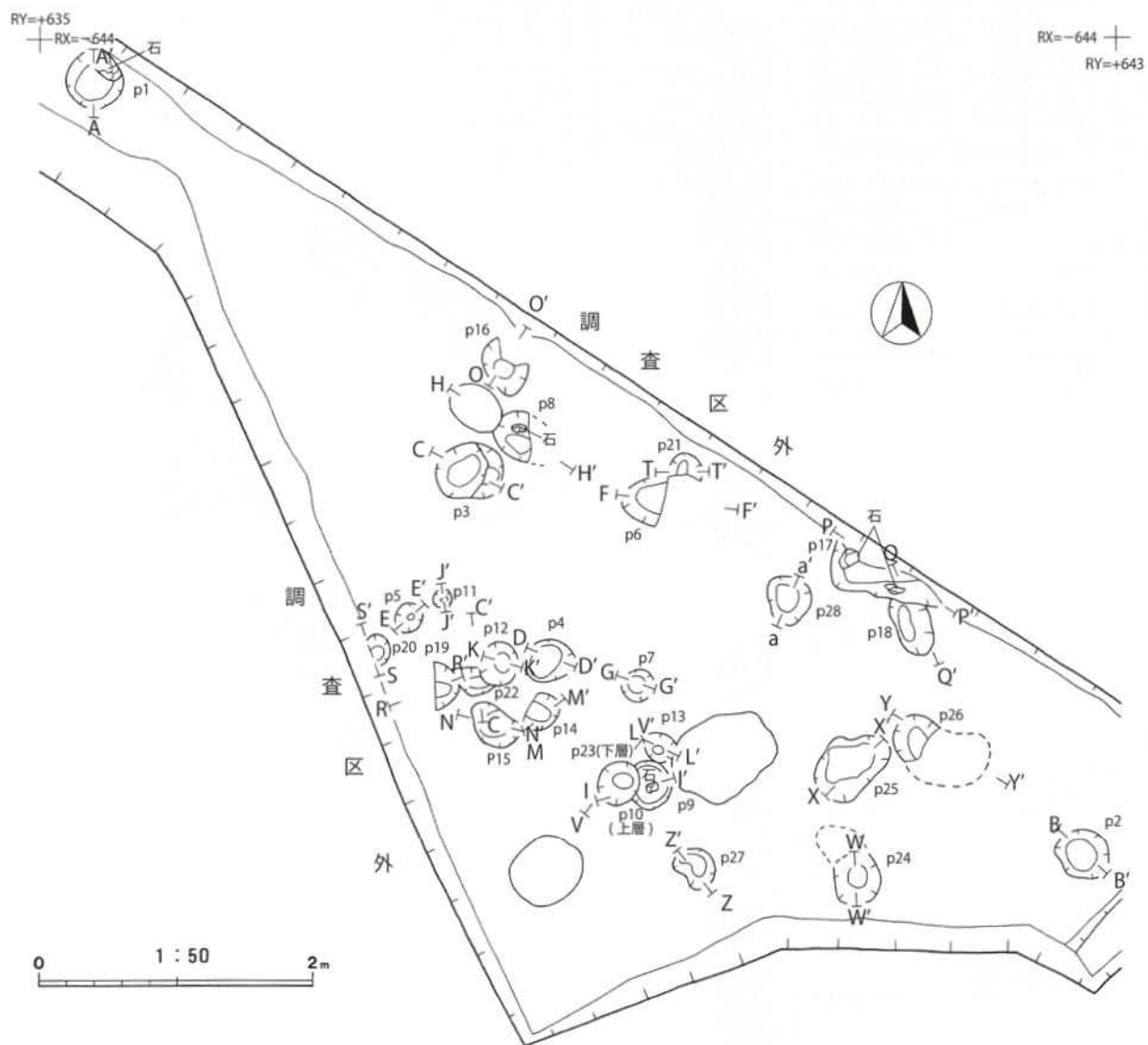
ピット（小穴）は合計28基検出された。調査区南東部に集中しているが、規模や平面形、配置などに規則性はみられなかった。なお、遺構検出面は全て基本土層Ⅲc層下層である。（第42・43図、写真図版49・50、86）



第40図 2号・3号土坑 断面図



第41図 2号・3号土坑 出土遺物

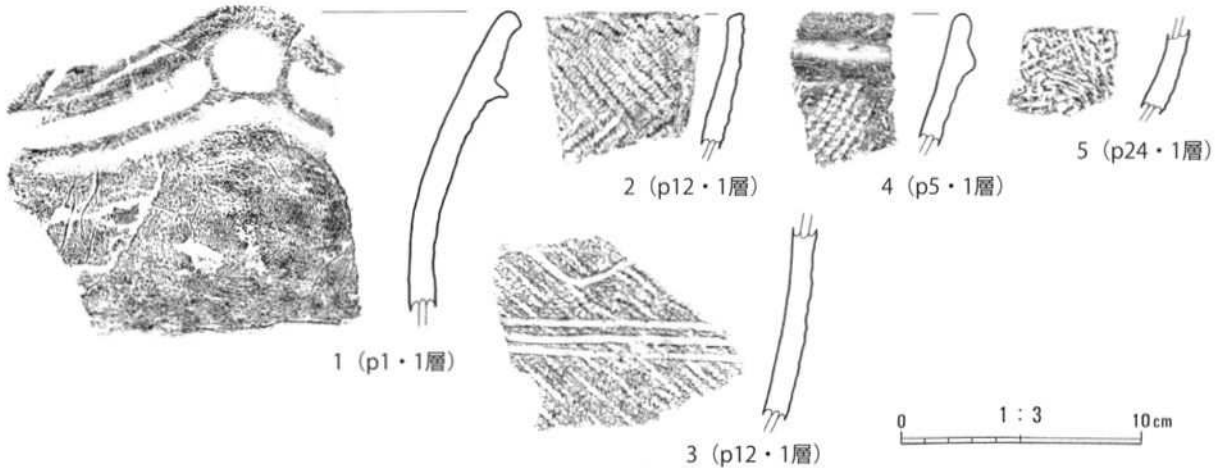


第42図 ピット 平面図・断面図

ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土20%混入	やや硬質、粘性ややあり
	2 10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR3/2 黒褐色砂壤土10%混入	硬質、粘性あり 混入土少量
p2	1 10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土20%混入	やや硬質、粘性ややあり
	2 10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR3/2 黒褐色砂壤土10%混入	硬質、粘性あり 混入土少量
p3	1 10YR5/5 黄褐色壤土	10YR5/3 に近い黄褐色壤土15%	硬質、粘性あり 2mm粒径、1~3mm大砂礫少量(3%)
	2 10YR3/2 暗褐色シルト質壤土	10YR4/2 灰黄褐色壤土20%	硬質、粘性あり 明黄褐色粘土ブロック含む(30%) 1~3mm大砂礫少量(5%)
	3 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土20%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大砂礫・黄褐色粘土含む(15%) 3~5mm大砂礫少量(5%)
	4 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土30%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒含む(15%)
	5 10YR2/2 黒褐色砂質壤土	10YR2/2 黒褐色砂質壤土30%含む	硬質、粘性ややあり 1~3mm大砂礫含む(15%) 1~3mm大砂礫少量(5%)
p4	1 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR2/2 黒褐色壤土30%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒含む(15%) 1~3mm大砂礫少量(5%)
	2 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土40%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒少量(15%) 1~3mm大砂礫わずかに(1%)
	3 10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色壤土20%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大砂礫少量含む(10%) 1~3mm大花崗岩粒含む(15%) 1~3mm大砂礫少量(10%)
p5	1 10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土20%含む	硬質、粘性あり 明黄褐色土10%含む(10YR6/6) 硬質、粘性あり
	2 10YR3/1 黒褐色シルト質壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質壤土10%含む	硬質、粘性あり 3~5mm大花崗岩粒少量(5%)
p6	1 10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質壤土20%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒少量(10%) 1~3mm大砂礫少量(10%)
	2 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土20%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒少量(10%) 1~3mm大砂礫少量(10%) 1~3mm大花崗岩粒わずかに(1%)
p7	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土10%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒少量(10%)
	2 10YR3/1 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土10%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒少量(10%) 1~3mm大砂礫わずかに(1%)
p8	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土20%混入	硬質、粘性あり
	2 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土10%混入	硬質、粘性あり
p9	1 10YR3/2 暗褐色シルト質壤土	10YR2/1 黒色シルト質壤土20%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒含む(20%) 1~3mm大砂礫少量(5%) 3~5mm大花崗岩粒わずかに(1%)
	2 10YR2/2 暗褐色シルト質壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質壤土10%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒含む(15%)
p10	1 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR6/6 明黄褐色壤土30%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒少量(5%)
	2 10YR2/2 暗褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土30%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒少量(5%) 1~3mm大砂礫わずかに(1%)
p11	1 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR4/2 灰黄褐色壤土10%含む	硬質、粘性あり 3~5mm大砂礫少量(5%) 1~3mm大花崗岩粒少量(10%)
	2 10YR5/5 黄褐色壤土	10YR5/5 に近い黄褐色壤土10%	軟質、粘性ややあり 1~3mm大砂礫少量(10%)
	3 10YR3/2 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土30%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒含む(15%)
p12	1 10YR2/2 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土20%含む	硬質、粘性あり 5~10mm大砂礫少量(5%) 1~3mm大砂礫少量(5%)
	2 10YR2/2 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土20%含む	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒含む(20%) 5~10mm大砂礫少量(5%)
	3 10YR3/1 黒褐色壤土	10YR3/2 暗褐色壤土30%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒多量(30%)
p13	1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土粗粒2%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒(5%)
	2 10YR2/2 暗褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土粗粒2%	硬質、粘性あり 5~10mm大砂礫少量(7%)
p14	1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土粗粒2%	硬質、粘性あり 5~10mm大砂礫少量(7%)
	2 10YR2/2 暗褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土粗粒2%	硬質、粘性あり 5~10mm大砂礫少量(7%)
	3 10YR1/1 黒色壤土	10YR2/2 暗褐色壤土ブロック状15%	やや硬質、粘性あり 炭化物少量含む 2mm大炭化物(2%)

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p16	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土40%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒含む(15%) 5~10mm大花崗岩粒わずかに(1%) 1~3mm大砂礫少量(5%) 1~3mm大花崗岩粒わずかに(1%)
	2 10YR3/2 暗褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土20%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒(15%) 1~3mm大砂礫少量(5%) 1~3mm大花崗岩粒わずかに(1%)
	3 10YR3/2 暗褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土10%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒少量(10%) 5~10mm大花崗岩粒わずかに(1%)
	4 10YR2/2 暗褐色壤土	10YR2/2 暗褐色壤土10%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒わずかに(1%) 5~10mm大花崗岩粒わずかに(1%)
p17	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土10%混入	やや硬質、粘性ややあり
	2 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土20%混入	硬質、粘性あり
	3 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/4 暗褐色砂質土10%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
	4 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR2/2 暗褐色壤土20%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
p18	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土20%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
	2 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR2/2 暗褐色壤土20%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
p19	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/2 暗褐色壤土20%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
	2 10YR3/2 暗褐色砂質壤土	10YR2/2 暗褐色砂質壤土30%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒(15%) 1~3mm大砂礫少量(5%)
p20	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/2 暗褐色砂質壤土10%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒多量(30%)
	2 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色砂質土10%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
p21	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/4 黄褐色砂質土20%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
	2 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR3/4 黄褐色砂質土20%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
p22	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/2 暗褐色壤土30%	硬質、粘性ややあり 1~3mm大花崗岩粒多量(40%) 5~10mm大花崗岩粒少量(5%)
	2 10YR3/2 暗褐色シルト質壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質壤土10%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒(15%) 1~3mm大砂礫少量(5%)
p23	1 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質壤土20%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒(15%)
	2 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質壤土20%	硬質、粘性あり 1~3mm大花崗岩粒(15%)
p24	1 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土10%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
	2 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR2/2 暗褐色壤土20%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
p25	1 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土10%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
	2 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR2/2 暗褐色砂質土10%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
p26	1 10YR2/2 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色砂質土10%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
	2 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR2/2 暗褐色砂質土10%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫
p27	1 10YR2/2 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色砂質土20%混入	硬質、粘性あり
	2 10YR3/2 暗褐色壤土	10YR2/2 暗褐色砂質土20%混入	硬質、粘性あり
p28	1 10YR2/2 暗褐色壤土	10YR3/3 暗褐色砂質土10%混入	硬質、粘性あり 3mm大の礫



第43図 ピット 出土遺物

1号ピット	(第42・43図)	平面形：円形、規模：長径44cm、短径42cm、深さ16cm
2号ピット	(第42図)	平面形：不整円形、規模：長径40cm、短径35cm、深さ18cm
3号ピット	(第42図)	平面形：不整円形、規模：長径50cm、短径40cm、深さ35cm
4号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径40cm、短径30cm、深さ29cm
5号ピット	(第42・43図)	平面形：楕円形、規模：長径22cm、短径20cm、深さ10cm
6号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径40cm、短径(30)cm、深さ20cm
7号ピット	(第42図)	平面形：円形、規模：径28cm、深さ10cm
8号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径32cm、短径(30)cm、深さ30cm
9号ピット	(第42図)	平面形：不整円形、規模：長径35cm、短径30cm、深さ10cm
10号ピット	(第42図)	平面形：円形、規模：径18cm、深さ10cm
11号ピット	(第42図)	平面形：円形、規模：径14cm、深さ5cm
12号ピット	(第42・43図)	平面形：楕円形、規模：長径30cm、短径27cm、深さ35cm
13号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径28cm、短径20cm、深さ17cm
14号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径30cm、短径22cm、深さ12cm
15号ピット	(第42図)	平面形：不整楕円形、規模：長径40cm、短径28cm、深さ10cm
16号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径42cm、短径32cm、深さ32cm
17号ピット	(第42図)	平面形：不整楕円形、規模：長径90cm、短径30cm、深さ50cm
18号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径45cm、短径28cm、深さ25cm
19号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径33cm、短径18cm、深さ12cm
20号ピット	(第42図)	平面形：円形、規模：長径20cm、短径(15)cm、深さ8cm
21号ピット	(第42図)	平面形：円形、規模：長径26cm、短径(15)cm、深さ22cm
22号ピット	(第42図)	平面形：不整楕円形、規模：長径30cm、短径20cm、深さ18cm
23号ピット	(第42図)	平面形：円形、規模：径33cm、深さ30cm
24号ピット	(第42・43図)	平面形：楕円形、規模：長径40cm、短径33cm、深さ28cm
25号ピット	(第42図)	平面形：不整楕円形、規模：長径60cm、短径40cm、深さ18cm
26号ピット	(第42図)	平面形：楕円形、規模：長径33cm、短径(25)cm、深さ28cm
27号ピット	(第42図)	平面形：不整円形、規模：長径35cm、短径25cm、深さ14cm
28号ピット	(第42図)	平面形：不整円形、規模：長径35cm、短径30cm、深さ15cm

第3節 遺物包含層（第44～75図、写真図版51～60、87～97）

遺物包含層は調査区全域で検出されている。第3章第3節でも前述しているが、基本土層の表土層・盛土層の直下で遺物包含層を確認し、遺物包含層Ⅰ層～Ⅶ層に大別される。さらにⅠa層・Ⅰb層、Ⅱa層～Ⅱf層、Ⅲa層～Ⅲc層、Ⅳa層・Ⅳb層、Ⅴa層・Ⅴb層に細別される。Ⅵ層中には十和田中振の火山灰ブロックが混入しており、この層を挟んで上層（Ⅰ層～Ⅴ層）と下層（Ⅶ層）に大きく分けられる。上層は、出土した遺物から縄文時代中期後半を主体とした遺物包含層と考えられ、下層は、一部土器の混入はみられるが、縄文時代前期の遺物包含層と考えられる。なお、Ⅷ層は無遺物層となり、礫が多量に含まれている。

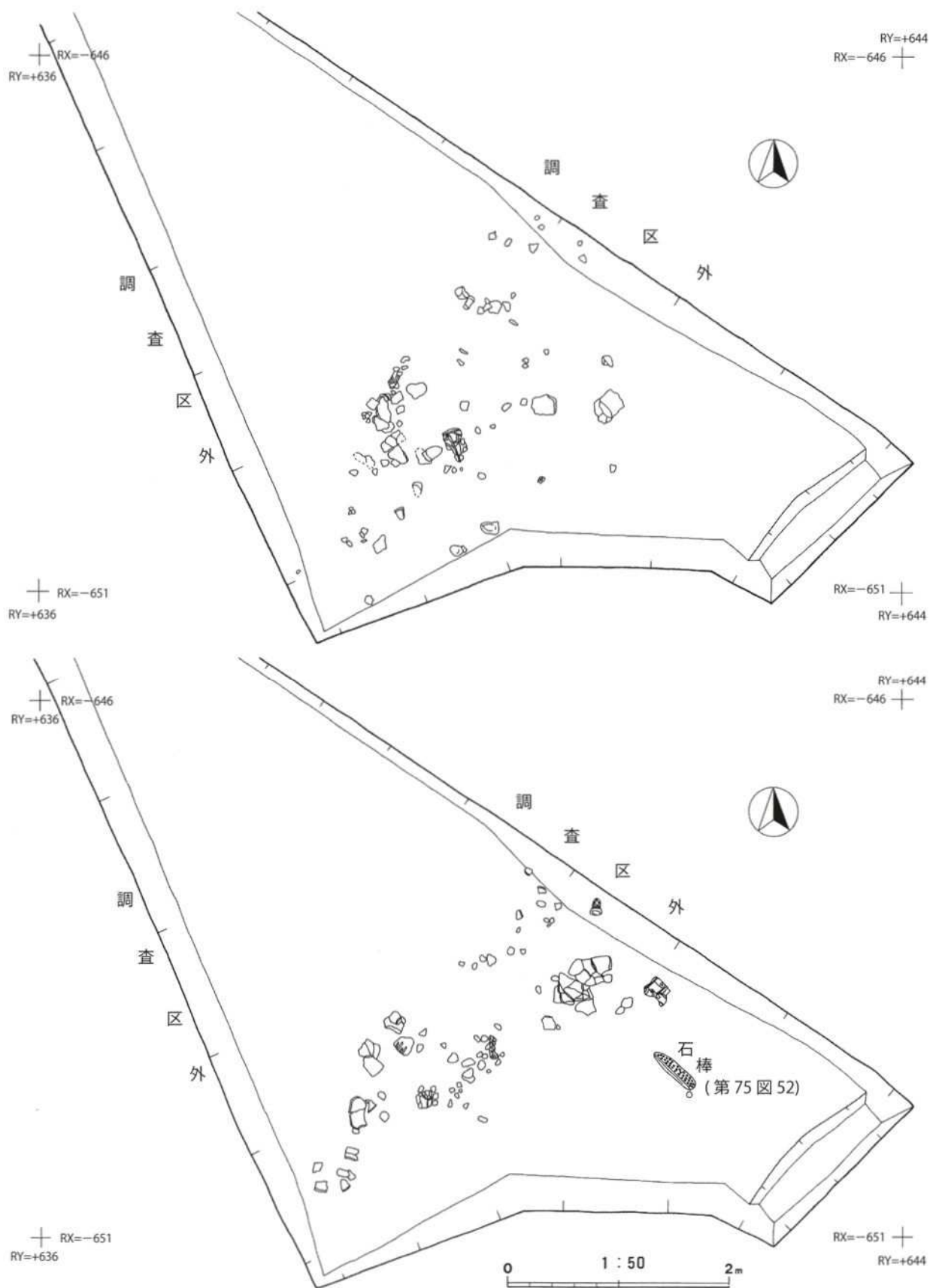
遺物包含層と竪穴住居跡との重複関係であるが、遺物包含層Ⅱ層を除去した時点で、まず1号・2号竪穴住居跡が検出されている。そして、間にⅢa層・Ⅲb層・Ⅲc層及びⅤa層を挟みながら、3号～9号竪穴住居跡が検出されており、さらにその下層に遺物包含層Ⅵ層・Ⅶ層が堆積している。このことから、土器捨てなどの行為により遺物包含層が形成されていく過程で、竪穴住居を構築し、さらに竪穴住居が自然及び人為的に埋没した後、再度遺物包含層が堆積していくという状況がうかがえる。このような状況は同じく縄文時代中期の拠点集落である田老地区の榎内Ⅰ遺跡の復興調査でも確認されている。

遺物包含層から出土した遺物は、縄文土器・石器を図示している。発掘調査や整理作業の過程の中で、遺物包含層の堆積状況と土器の文様・形態から見た年代観は一致せず、同一の層中に複数の型式の土器が混入するケースがみられたため、本報告書では、細別された層ごとに出土した遺物をそのまま掲載した。

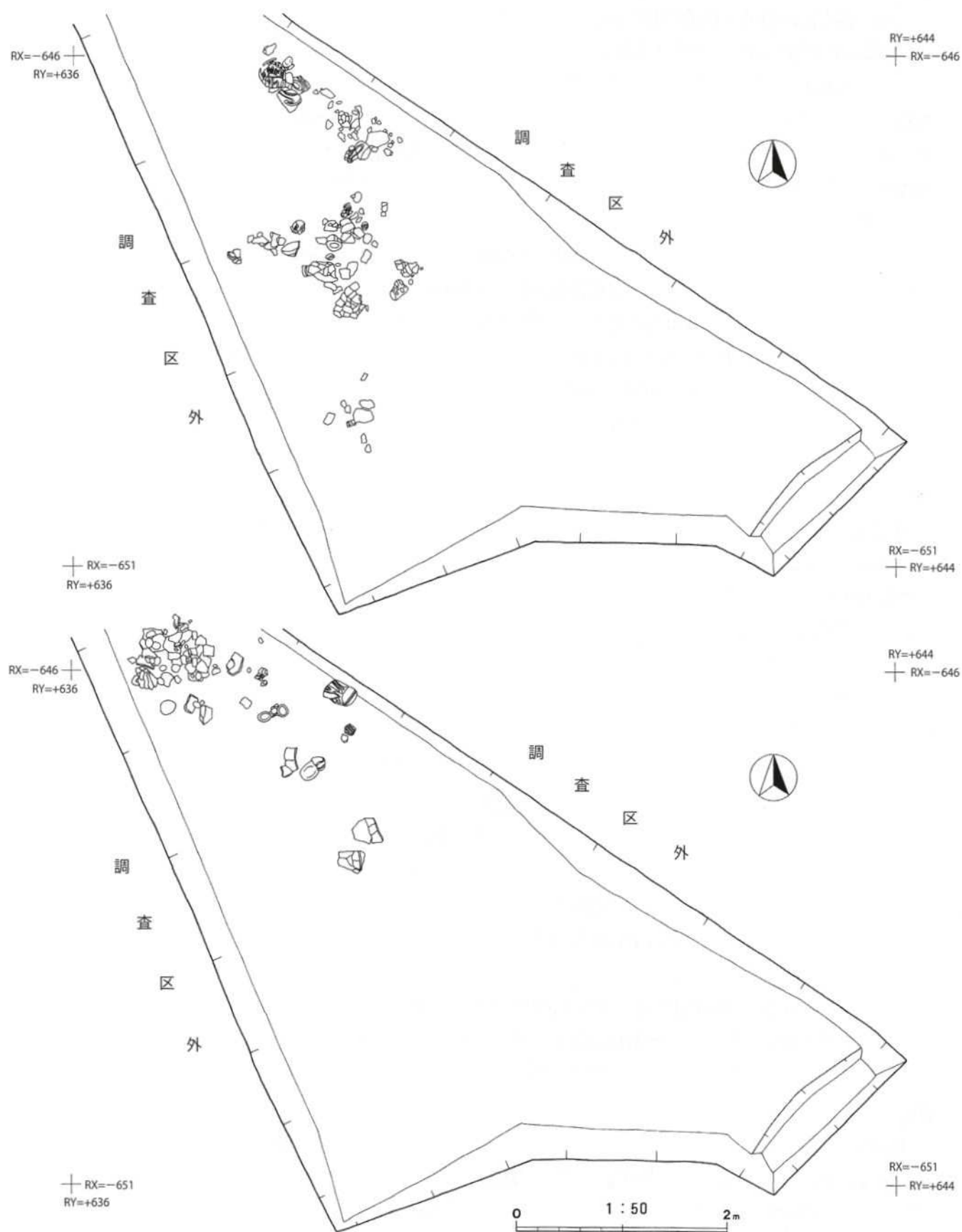
第47図1～7、第48図8～14は遺物包含層Ⅰa層から出土している。第47図1～6は大木8b式で、単節斜縄文を地文とし、連結した渦巻き文様や縦方向の粘土紐の隆帯が施文されている。第47図7は縦方向に長い楕円形の磨消縄文が連続しており、大木9式と考えられる。第48図8は渦巻き文様の突起がみられるが、胴部は楕円形や円形が連続する磨消縄文が施文され、大木9式と考えられる。第48図9～11・14は胴部に地文のみ施されている。第48図12・13は底部破片で、第48図12には網代痕がみられる。

第48図15・16、第49図17～21は遺物包含層Ⅰb層から出土している。第48図15・16、第49図17は、口縁部はナデによる無文部分となっているが、胴部には粘土紐の隆帯や沈線による渦巻き文様が施文されている。第49図18～21は口縁部にナデによる無文部分が施されているが、胴部は単節斜縄文や燃糸文などの地文のみ施されている。

第49図22・23、第50～59図は遺物包含層Ⅱa層から出土している。第49図22・23、第50～53図は大木8b式で、単節斜縄文の上から粘土紐により隆帯や沈線により渦巻き文様が施文されている。さらにそれぞれの渦巻き文様や縦方向の隆帯は連結し、複雑な文様を作り出しており、全く同じものがみられない。口縁部の形態は平縁や渦巻きの突起をもつもの、波状のもの、キャリパー形を呈するものなどのバリエーションがみられる。第52図45は高さ11.5cmと小型であるが、ヒビ割れもなく完形の状態で出土している。また第53図46は、底部は確認されなかったが、高さ約47cmと今回の調査



第45図 遺物含包層 出土状況図(1)



第 46 図 遺物含包層 出土状況図 (2)

では最大の大きさである。口縁部は半分のみ残存している。第54図47～51は主に底部周辺の破片になるが、縦方向の隆帯・沈線が施されている。第54図52・53、第55図55～60、第56図61～64・66、第57図67は平縁のほか、渦巻き文様の突起をもつが、胴部には円形や長楕円形の磨消縄文が連続しており、大木9式と考えられる。特に第55図55・56は同じ文様が施文され、頸部には横方向に連続する刺突及び沈線がみられる。第56図65、第57図68は磨消縄文が横方向に連結し、「C」字形を呈している。大木10式と考えられる。第58図69～71は楕円形の磨消縄文の他に刺突による楕円形の区画が施され、同一個体の可能性が高い。大木9式と考えられる。第58図72～77、第59図は単節斜縄文などの地文のみの個体で、口縁部にはナデによる無文部分が作られているものがある。第59図79は底部破片で、網代痕が観察される。第59図81～84の底部破片はナデ調整されている。

第60～61図、第62図103～108は遺物包含層Ⅱb層から出土している。第60図86・87は連結する渦巻き文様が施文され、大木8b式である。第60図89～93は縦方向の沈線や円形・長楕円形を呈する磨消縄文が連続しており、大木9式と考えられる。第61図95～98は波状の口縁をもち、口縁下部には連続する列点がみられる。胴部には横方向に連結する磨消縄文が施文され、大木10式と考えられる。第61図95・96は同一個体の可能性がある。第61図99～102、第62図103～106は単節斜縄文や撚糸文などの地文が施されている。第62図105・107は底部破片で、底部には木葉痕がみられる。第62図108は土製品で、キノコを模していると思われる。

第62図109・110は遺物包含層Ⅱd層から出土している。第62図109は胴部破片で、沈線による円形や縦方向の文様がみられる。

第63図111～115は遺物包含層Ⅱe層から出土している。第63図111～114は渦巻き文様や縦方向の粘土紐隆帯などがみられ、大木8b式である。第63図115は縦方向の長楕円形の磨消縄文の区画が連続しており、大木9式である。

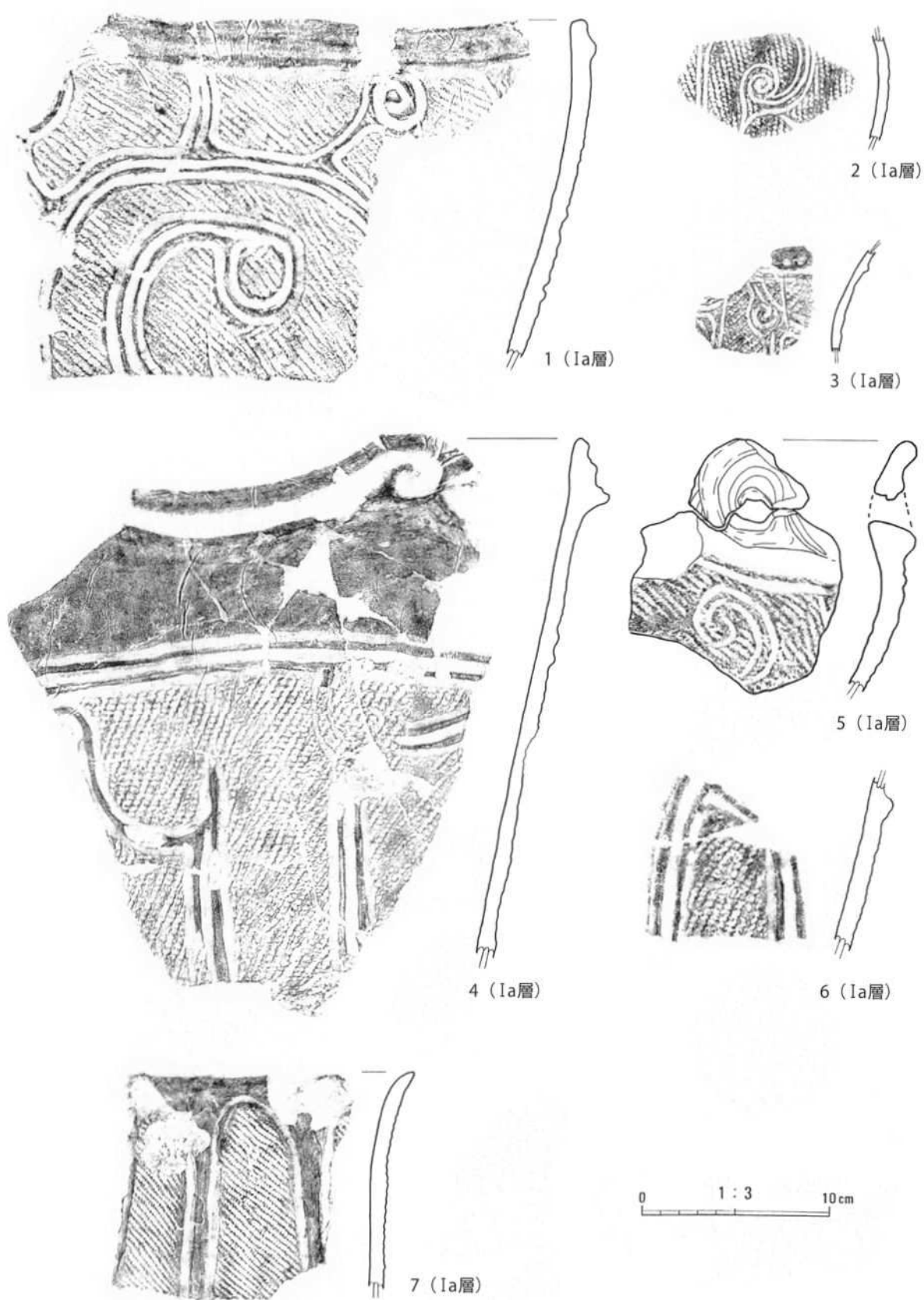
第63図116～121、第64～65図、第66図140～145は遺物包含層Ⅲa層から出土している。第63図116～121、第64図122～126は粘土紐及び沈線による渦巻き文や縦方向の文様を作り出しており、大木8b式である。第64図127～130は沈線や粘土紐で円形や縦方向の施文が施されている。第65図131～133は縦方向に延びる楕円形を呈する磨消縄文が施文され、大木9式である。第65図134は横方向に磨消縄文が施文され、大木10式と考えられる。第65図135～139、第66図140～145は単節斜縄文などの地文のみが施文されている。第66図143～145の底部はナデ調整されている。

第66図146～148は遺物包含層Ⅲb層から出土している。第66図146はキャリパー形を呈し、渦巻き文様が施されているため、大木8b式と考えられる。第66図147は口縁部破片で、縦方向の粘土紐の貼り付けがみられる。

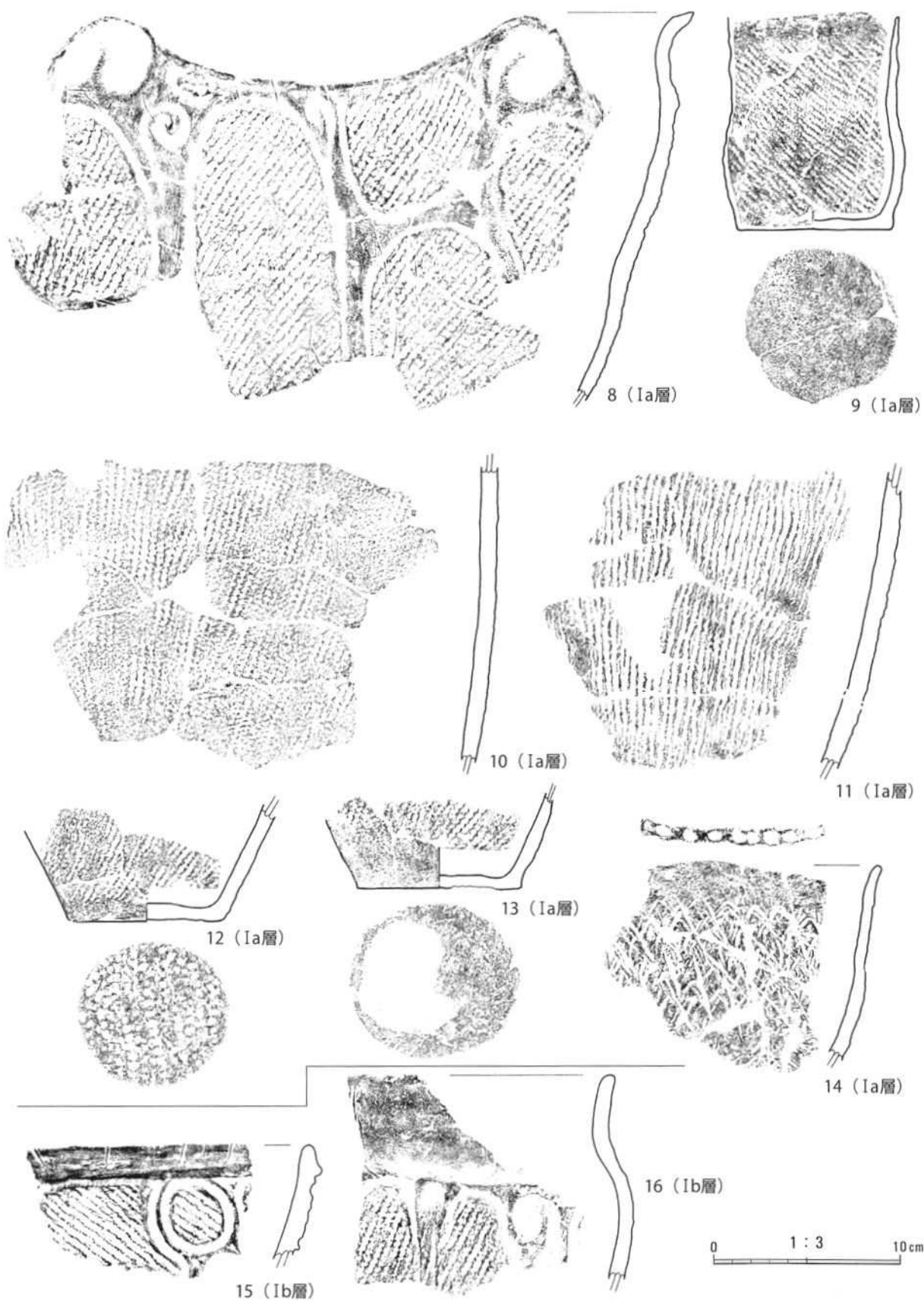
第66図149～151、第67図152・153は遺物包含層Ⅳa層から出土している。波状の粘土紐の貼り付けや渦巻き文様、長楕円形の磨消縄文など、複数の時期の土器が混在している。

第67図154・155は遺物包含層Ⅴa層から出土している。第67図155は孔をもつ突起を有し、粘土紐による隆帯が施文されている。

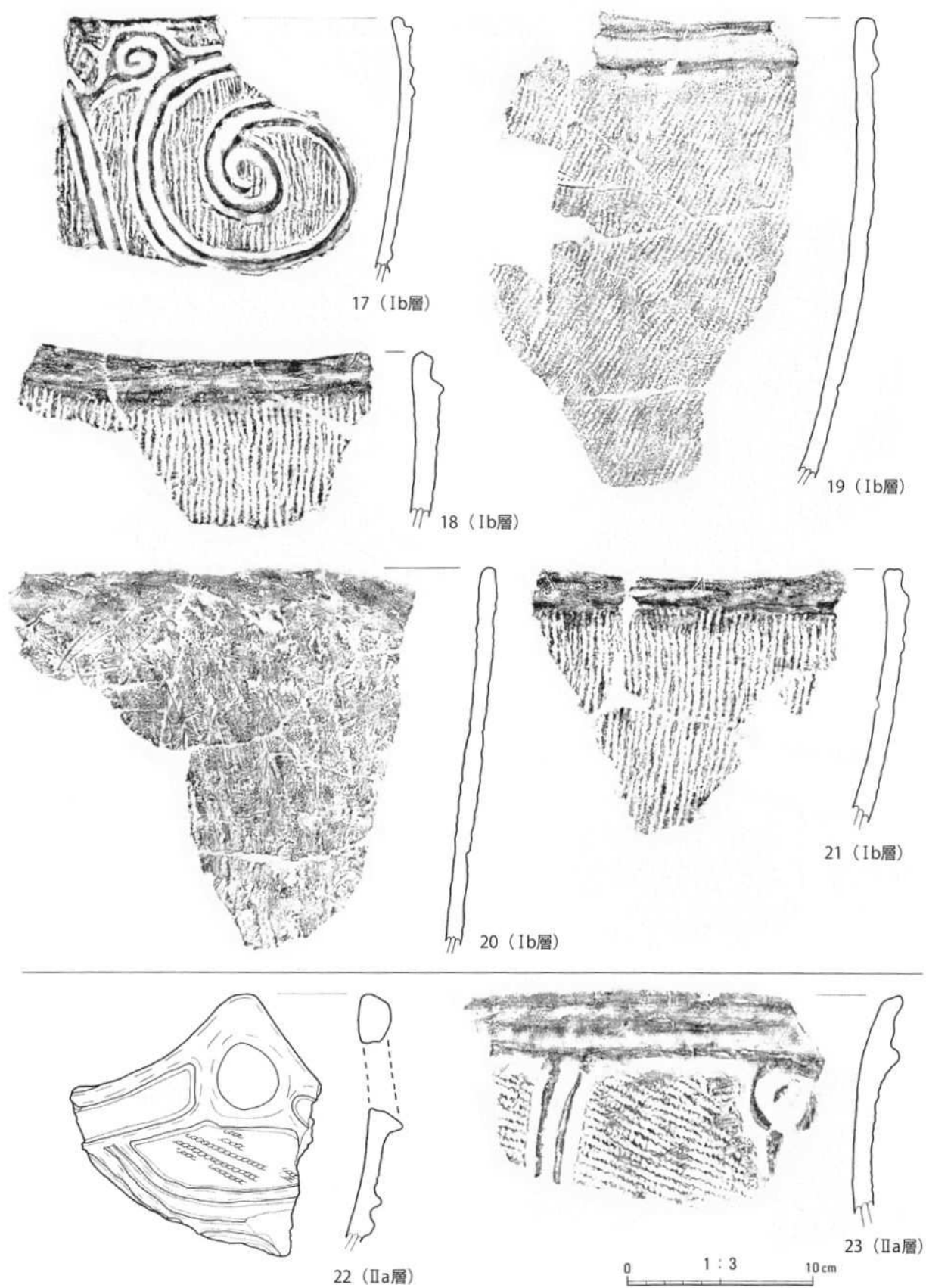
第67図156～163は遺物包含層Ⅶ層から出土している。第67図156は口縁部に不整撚糸文が施文されている。第67図157は羽状縄文が施文され、第67図156～161の胎土には繊維が含まれている。第67図162は円形や横方向に連結した磨消縄文がみられるため、大木10式と考えられ、上層からの混入と推測される。第67図163は粘土紐を貼り付け、その上に列点が施されている。



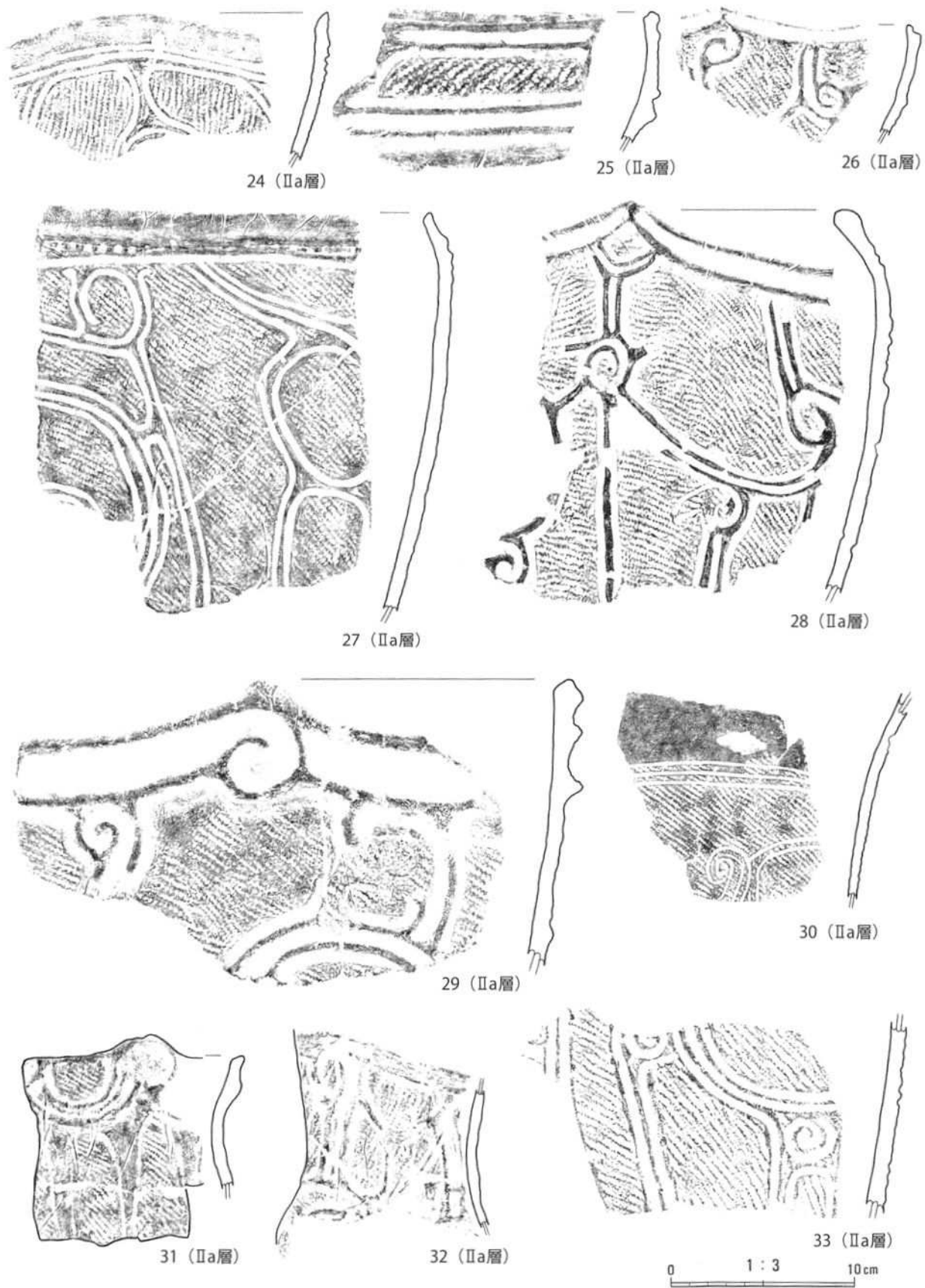
第47図 遺物含包層 出土土器(1)



第48図 遺物含包層 出土土器(2)



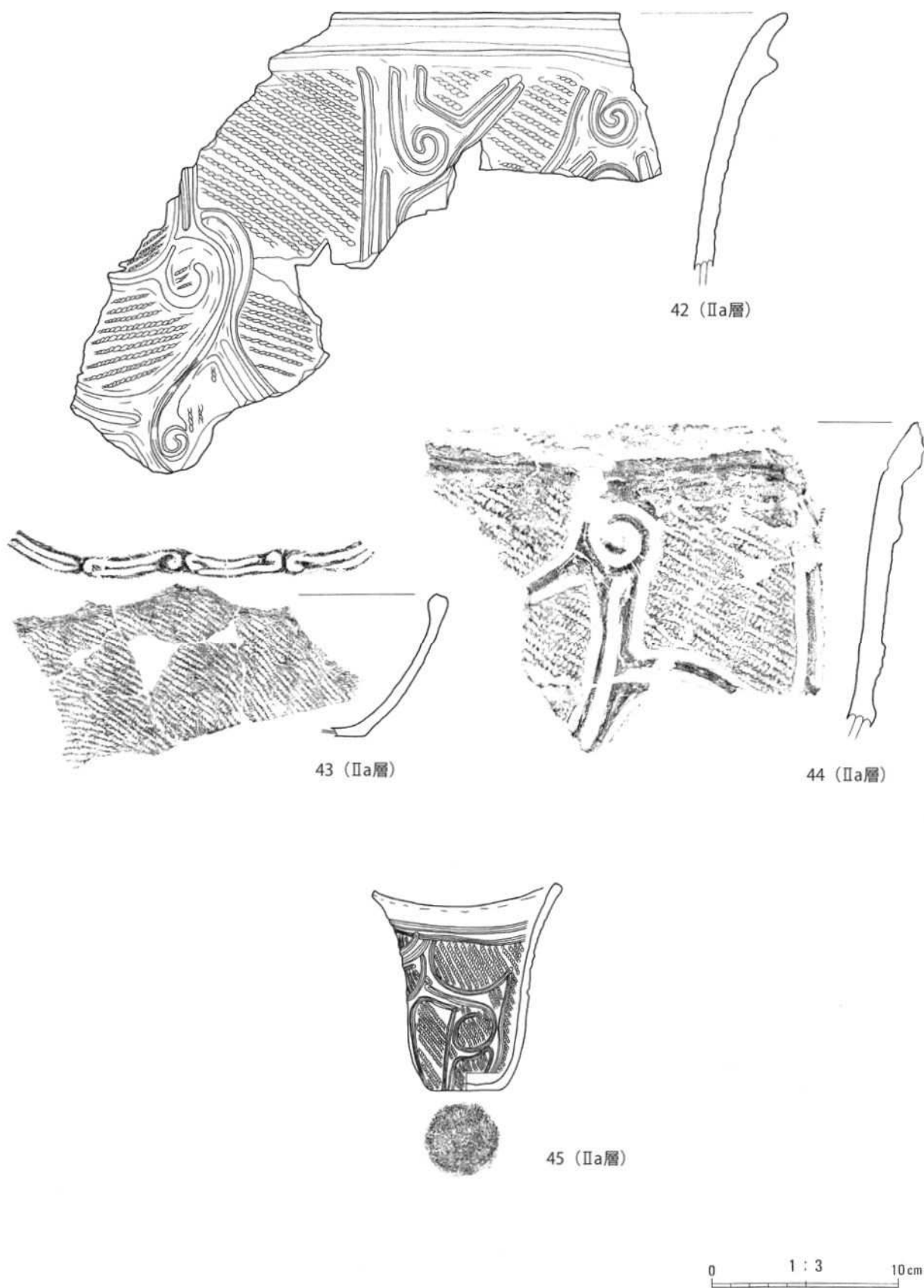
第49図 遺物含包層 出土土器(3)



第 50 図 遺物含包層 出土土器 (4)



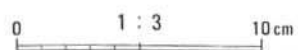
第 51 図 遺物含包層 出土土器 (5)



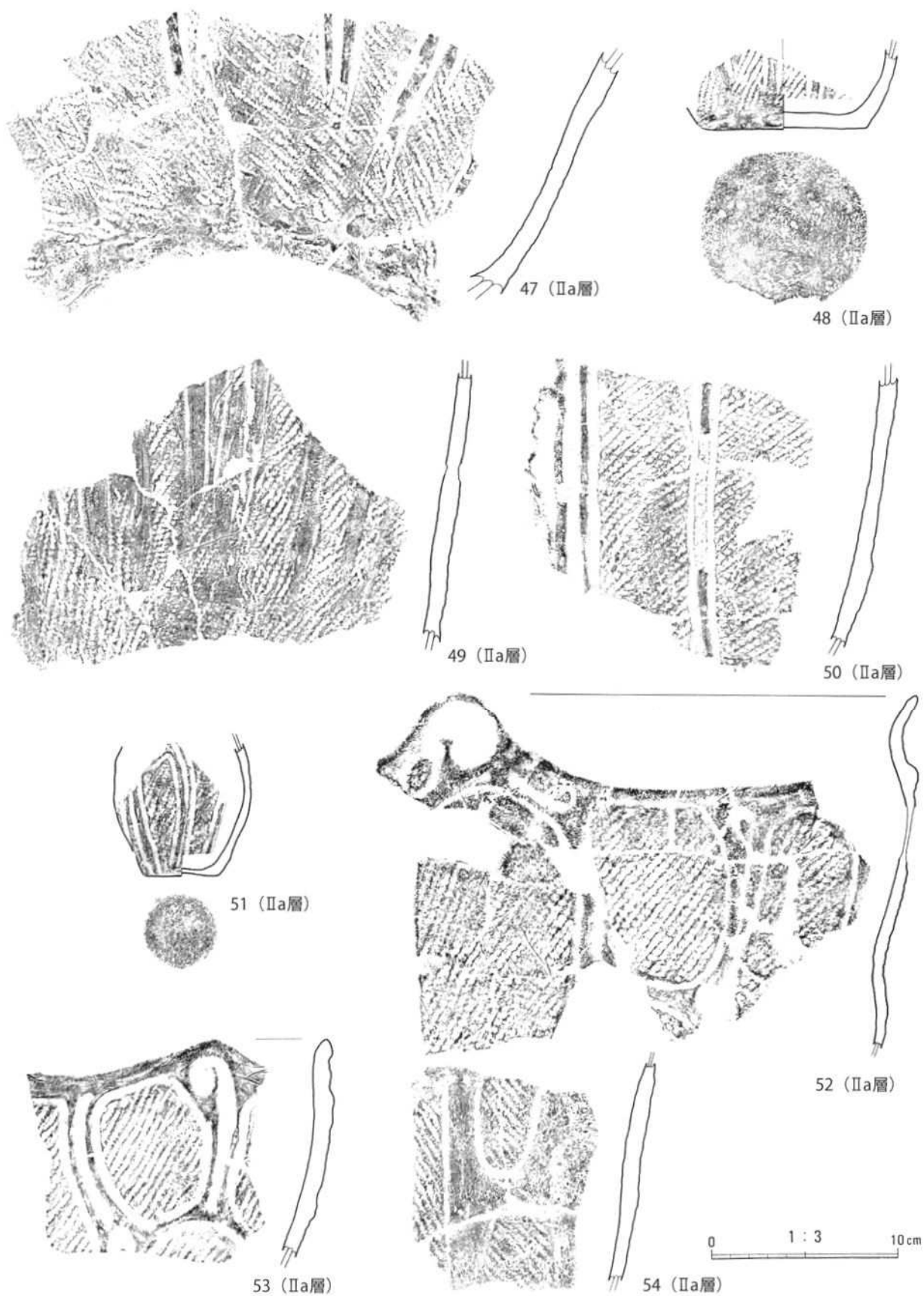
第 52 図 遺物含包層 出土土器 (6)



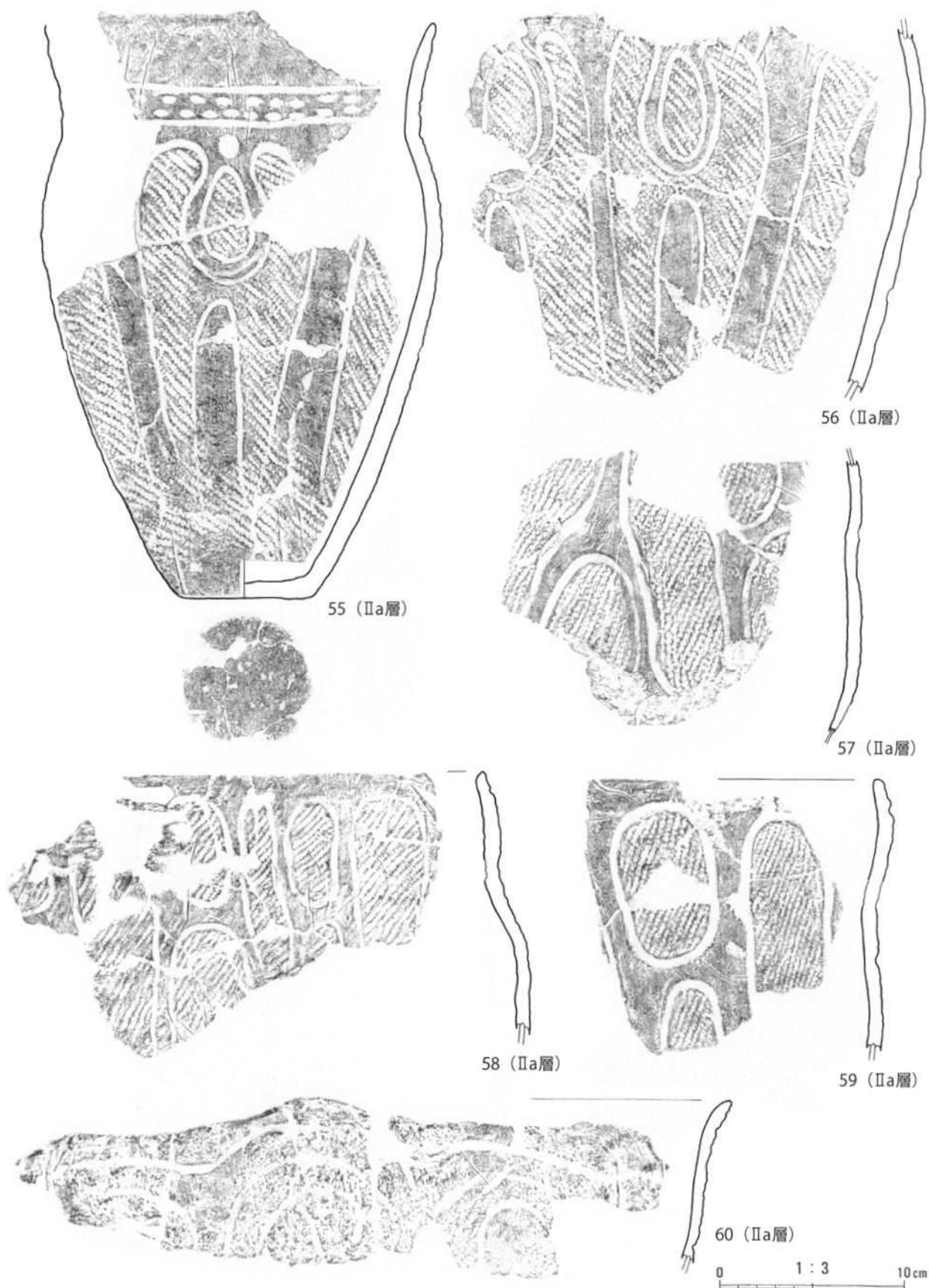
46 (IIa層)



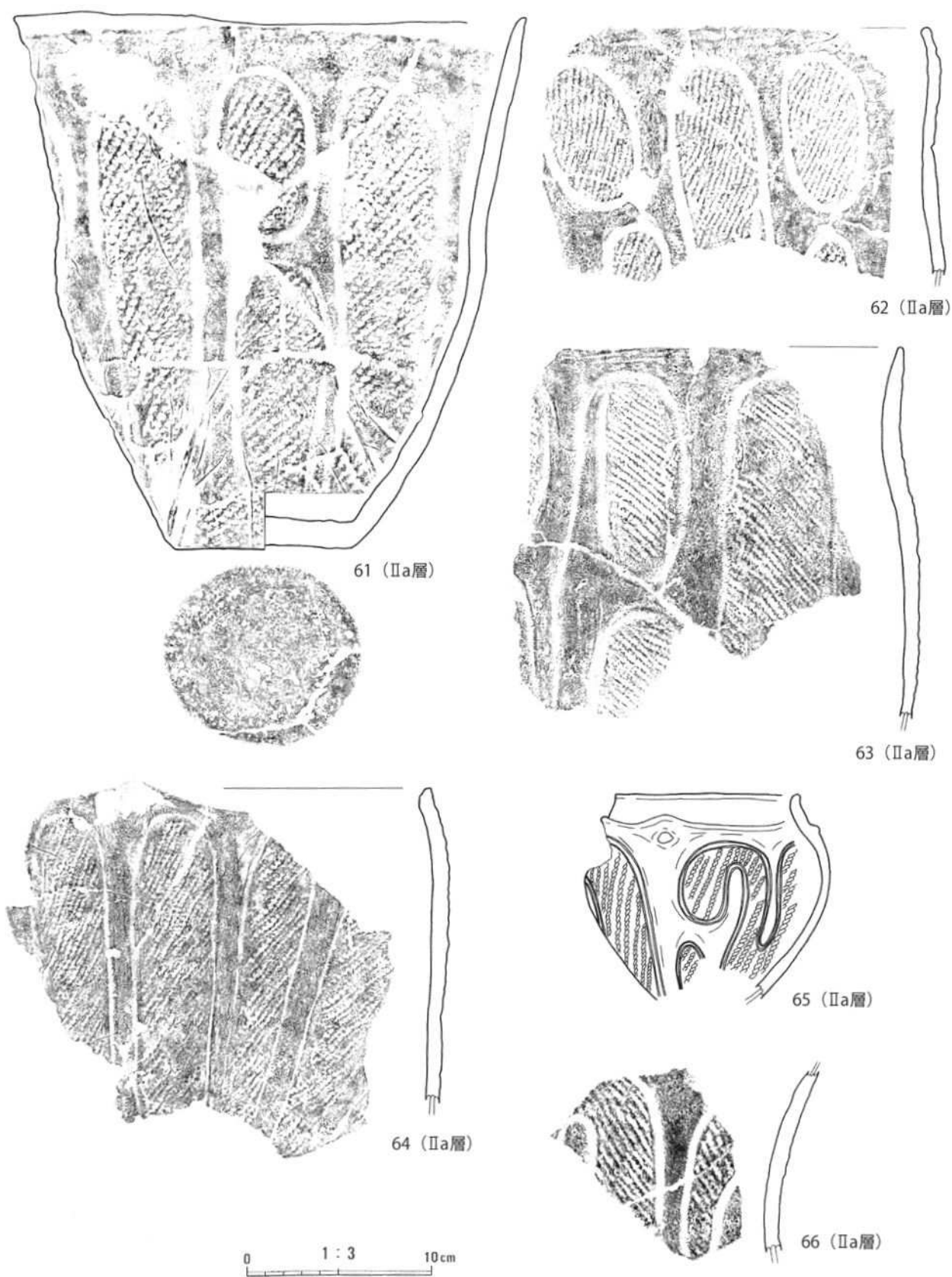
第 53 図 遺物含包層 出土土器 (7)



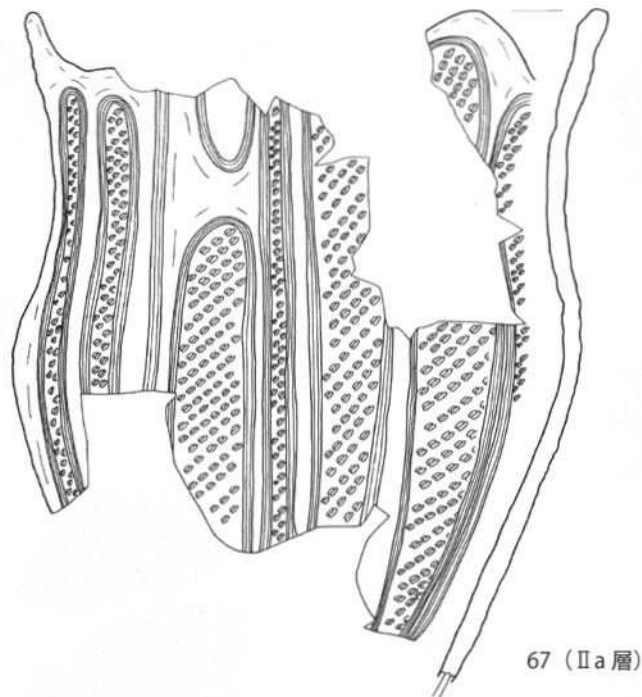
第 54 図 遺物含包層 出土土器 (8)



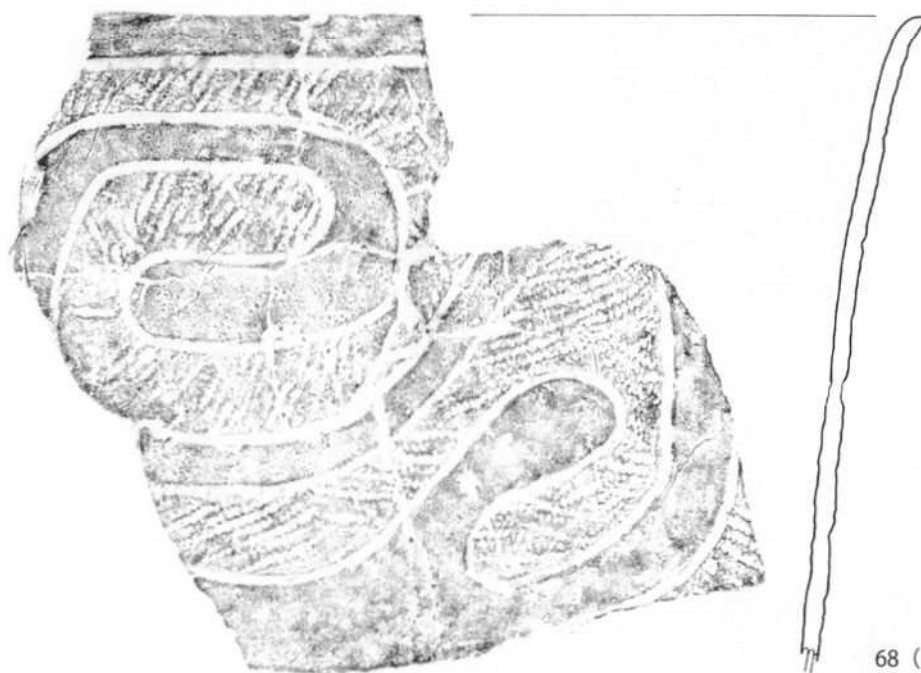
第55図 遺物含包層 出土土器(9)



第 56 図 遺物含包層 出土土器 (10)



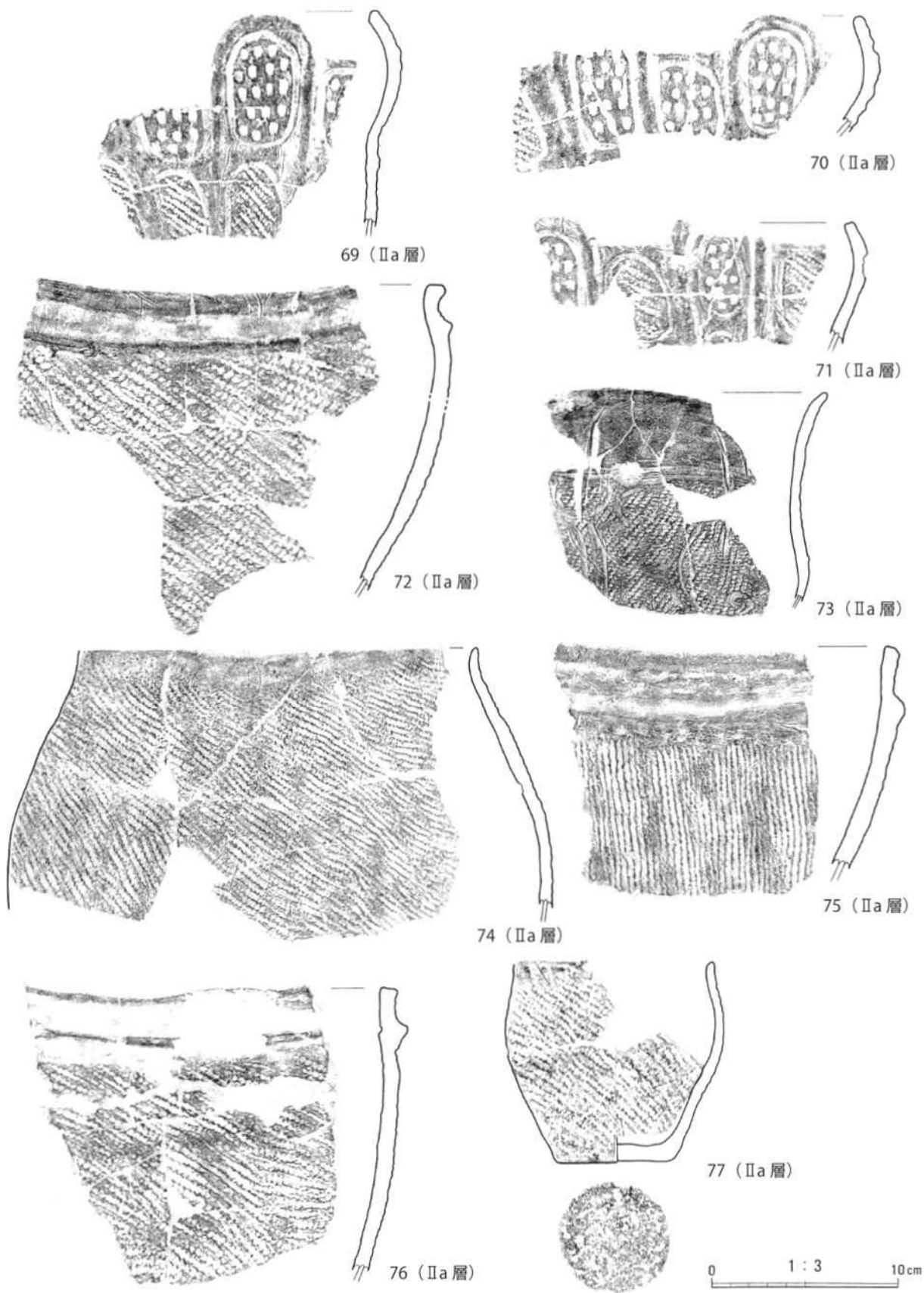
67 (Ⅱa層)



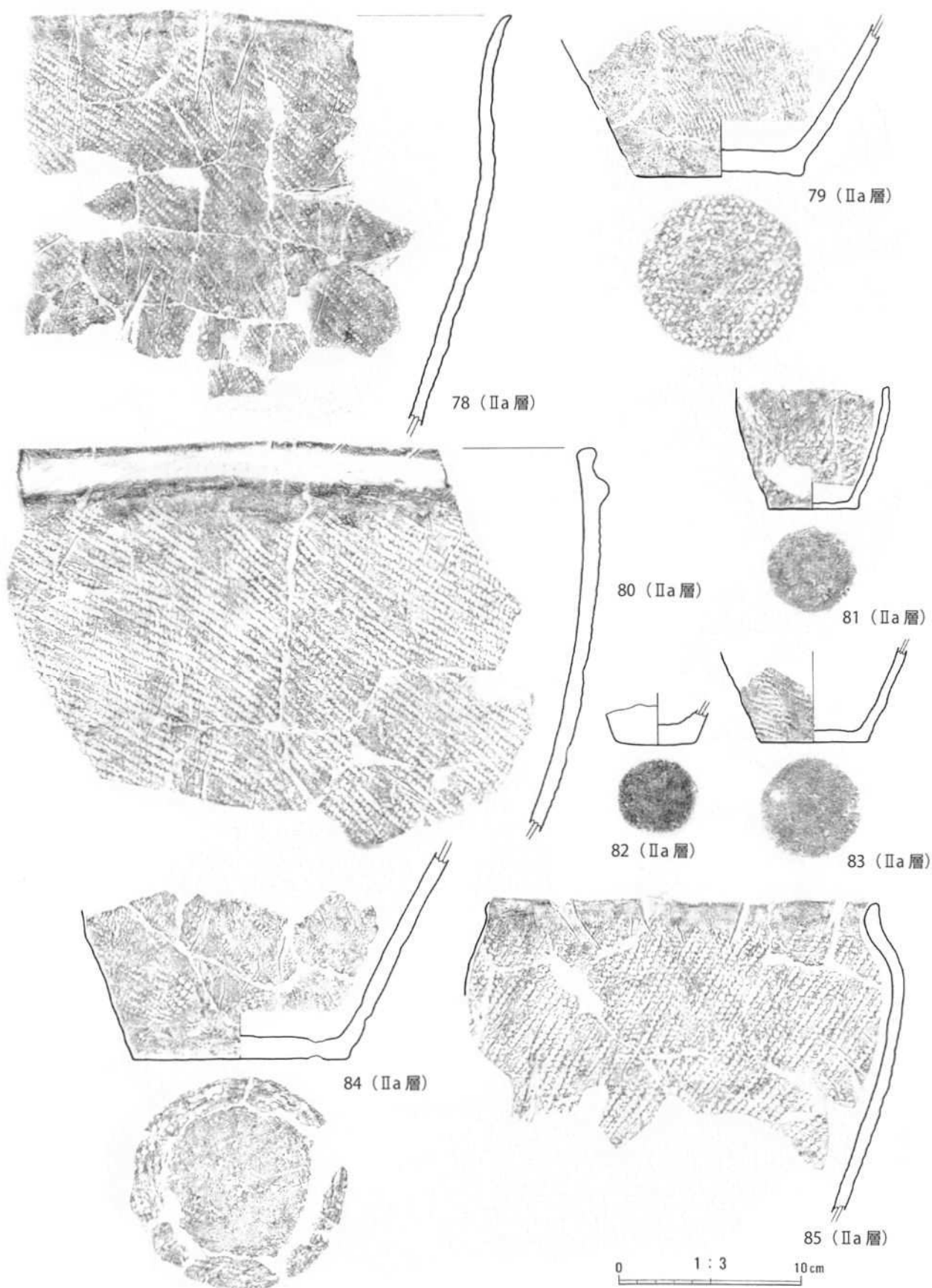
68 (Ⅱa層)

0 1 : 3 10cm

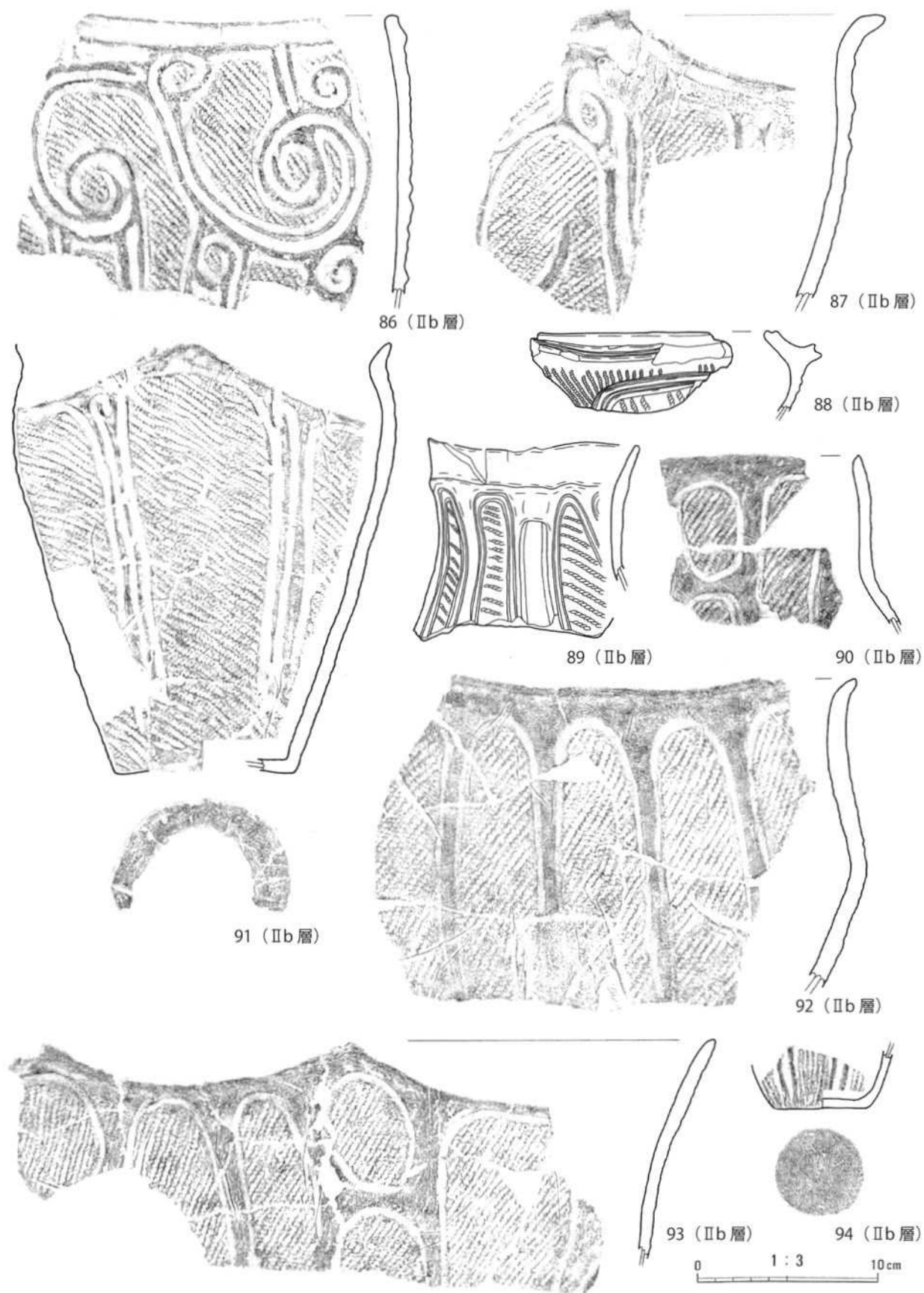
第 57 図 遺物含包層 出土土器 (11)



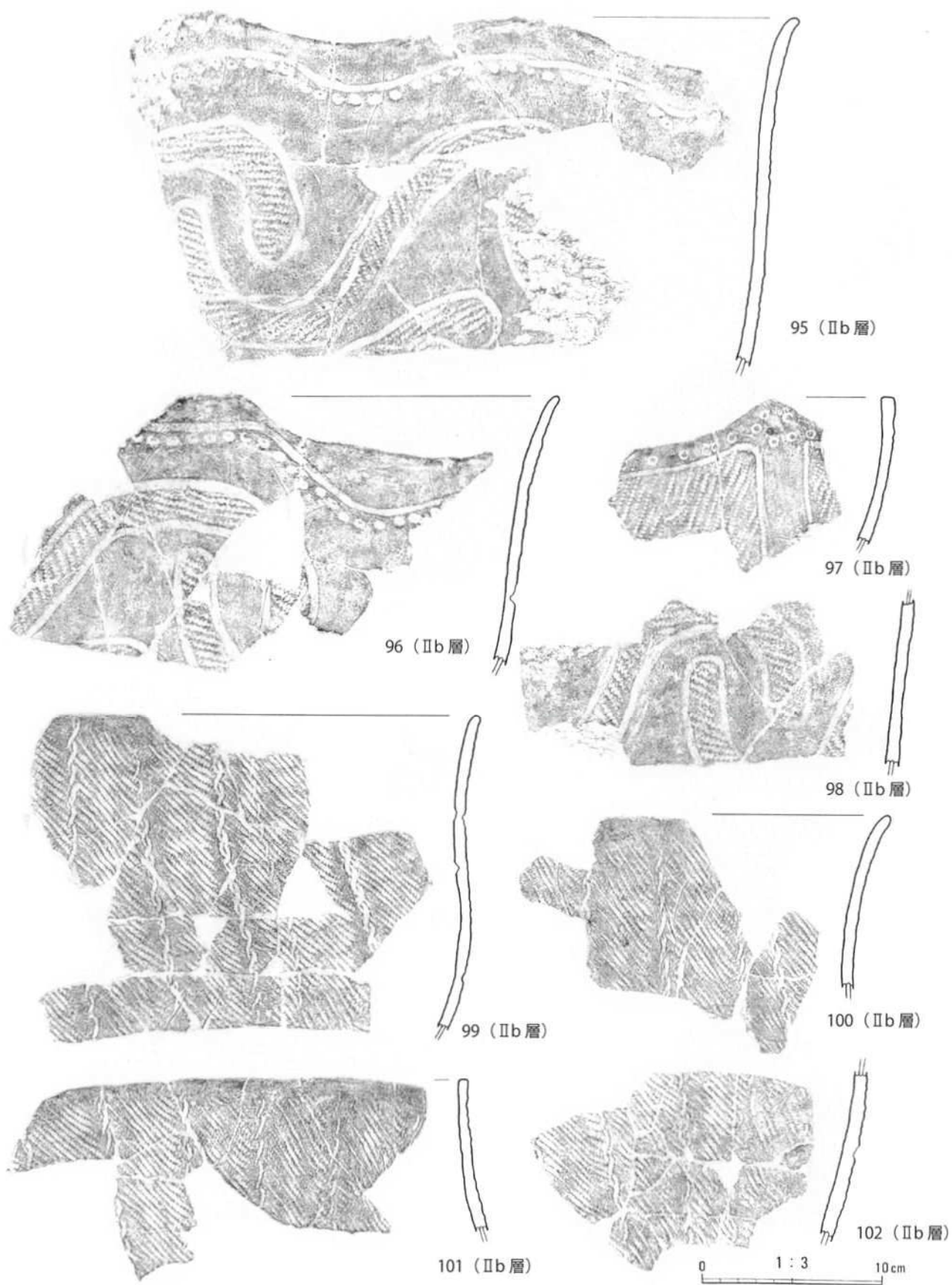
第 58 図 遺物含包層 出土土器 (12)



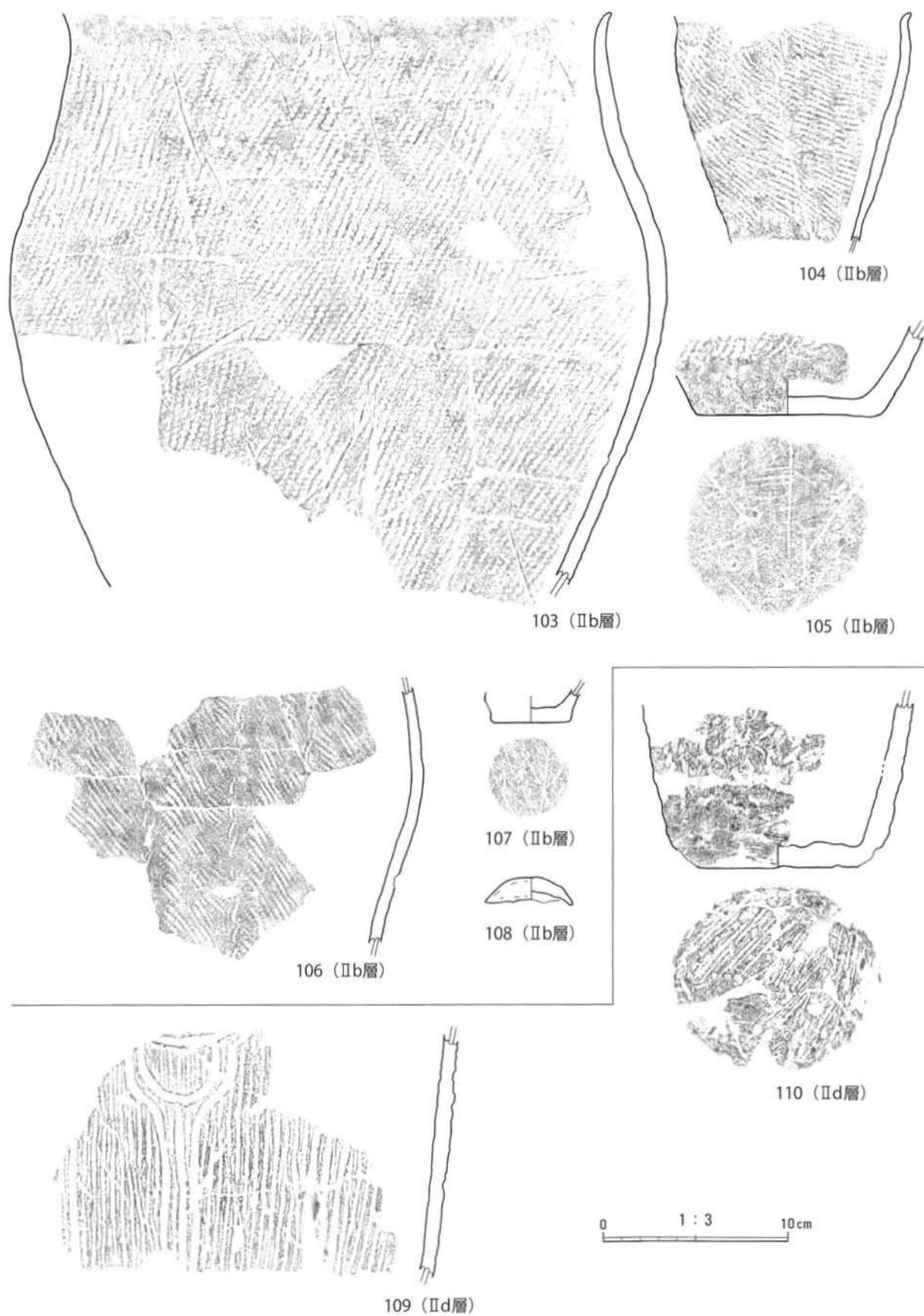
第59図 遺物含包層 出土土器(13)



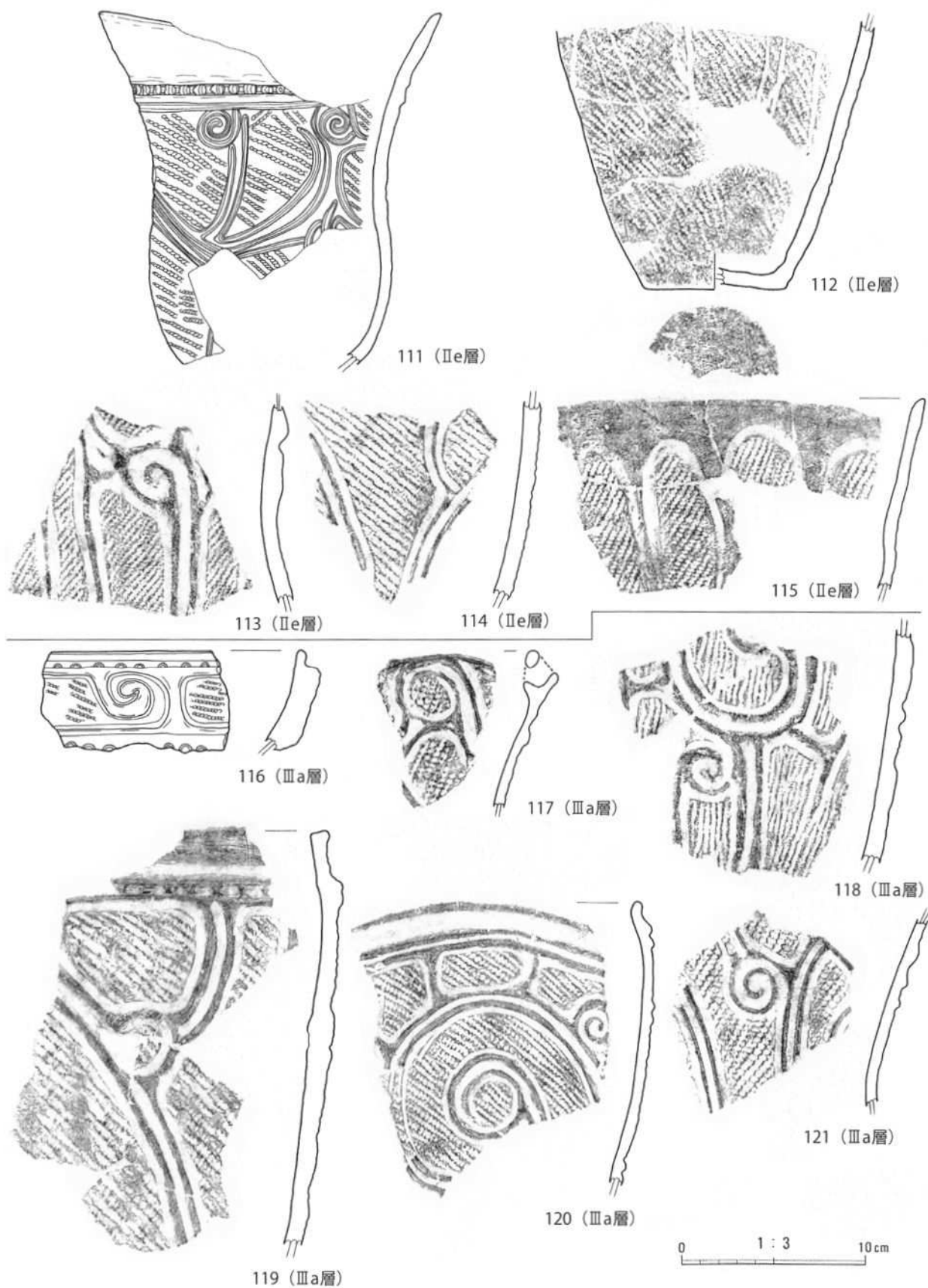
第 60 図 遺物含包層 出土土器 (14)



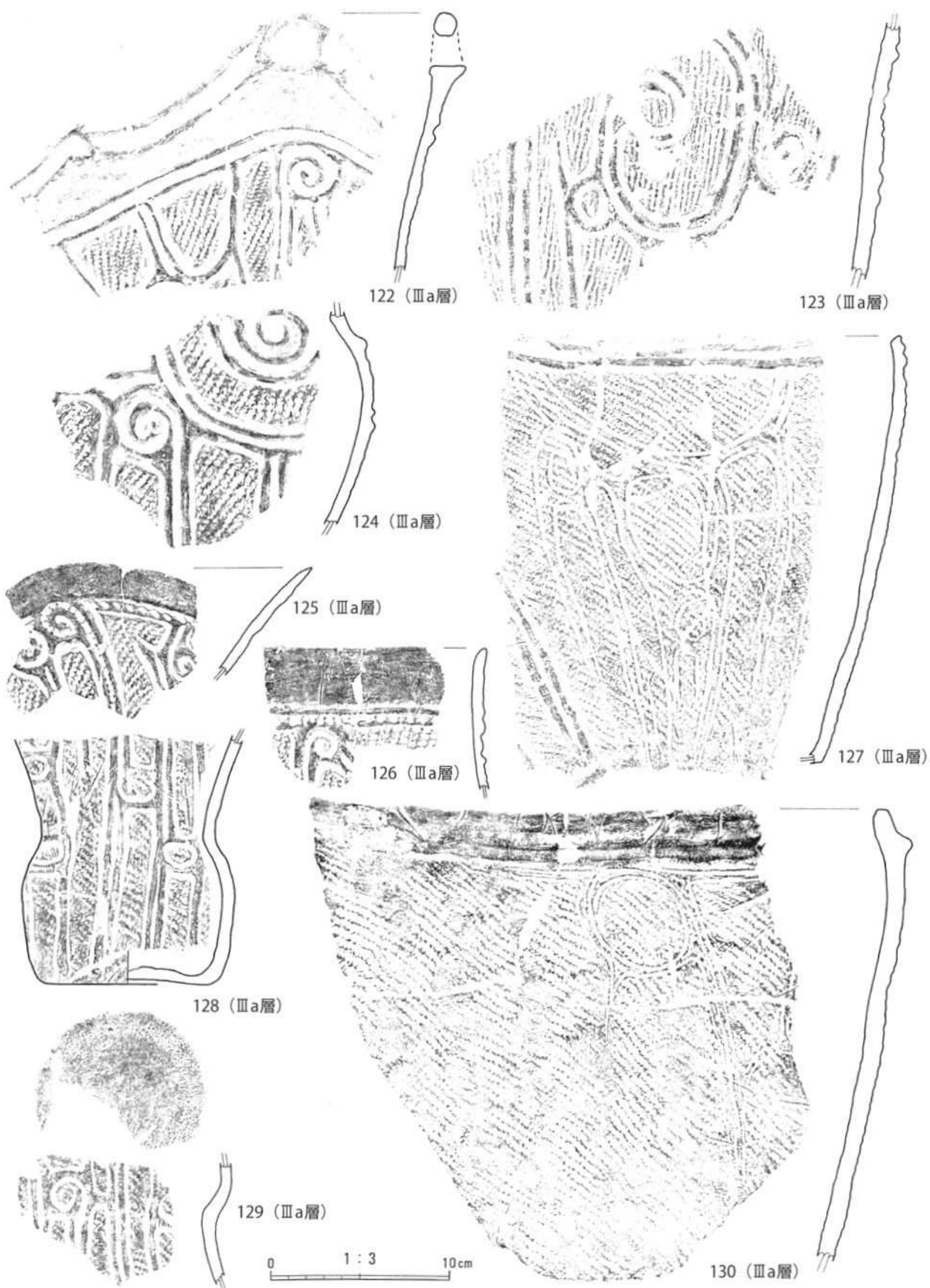
第 61 図 遺物含包層 出土土器 (15)



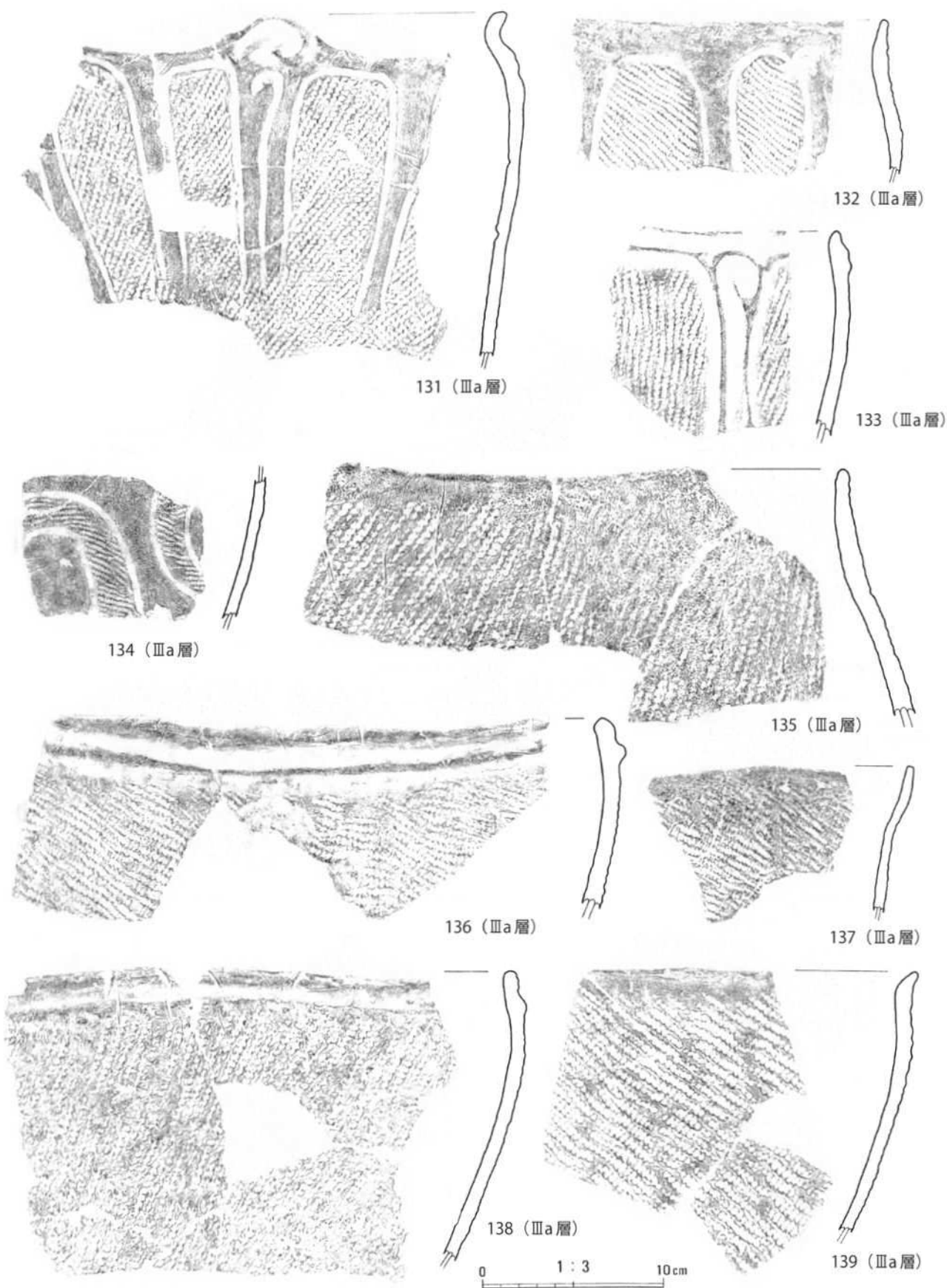
第 62 図 遺物含包層 出土土器 (16)



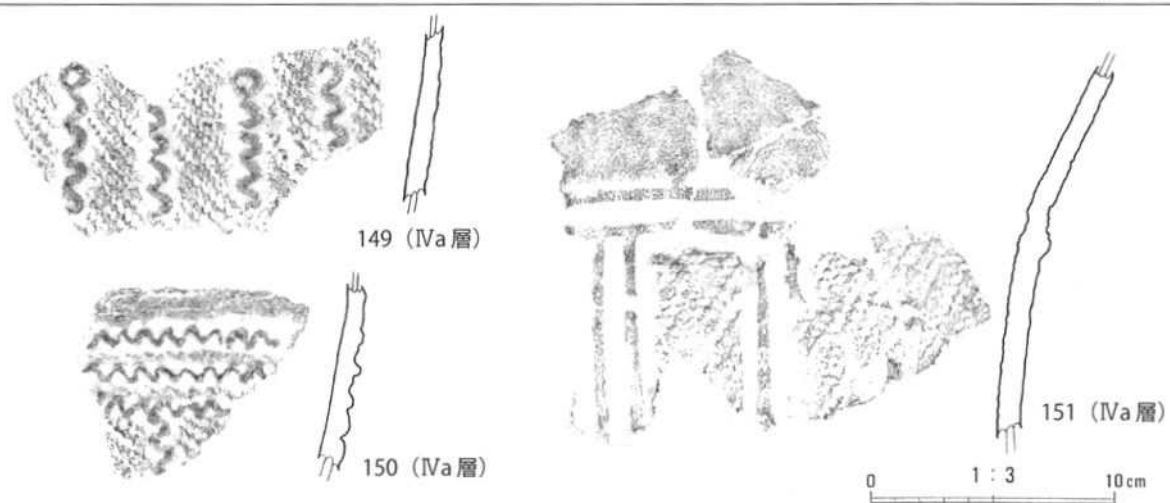
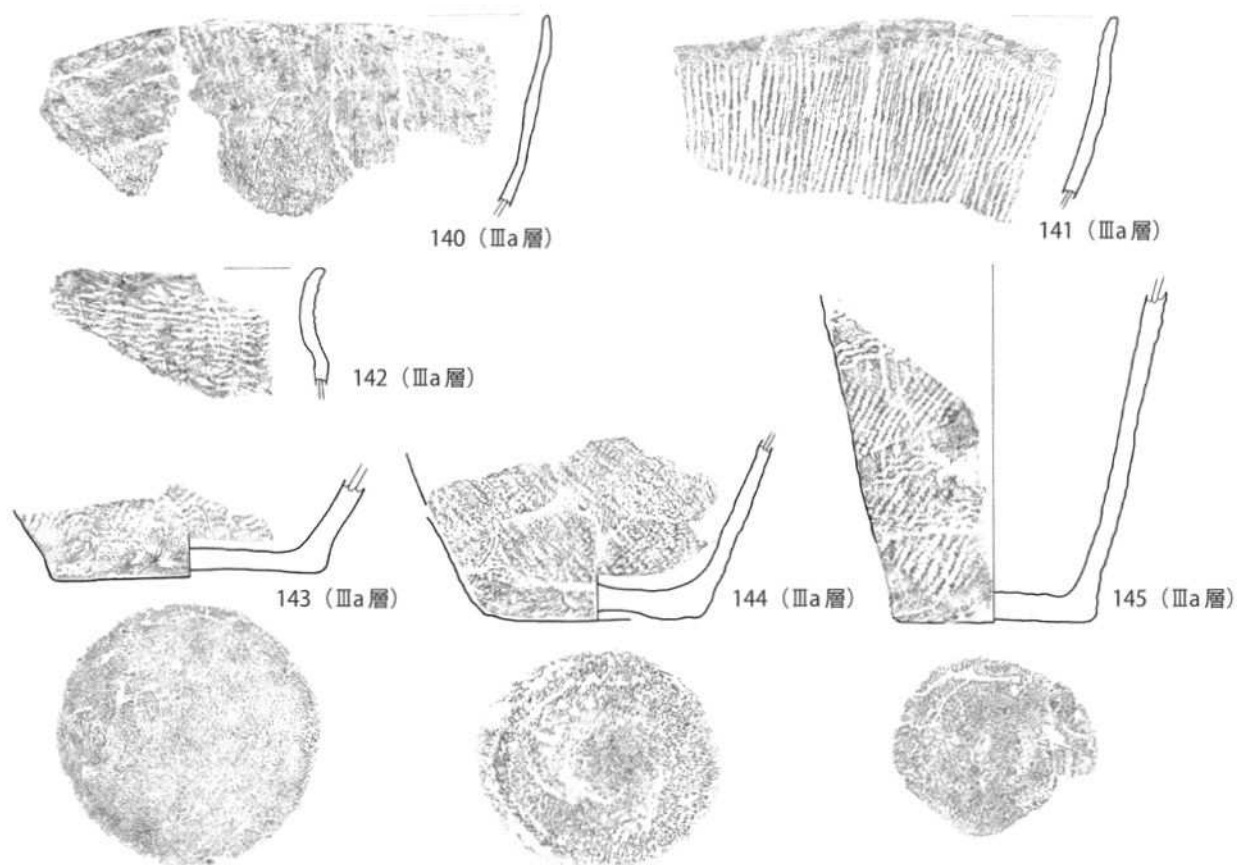
第 63 図 遺物含包層 出土土器 (17)



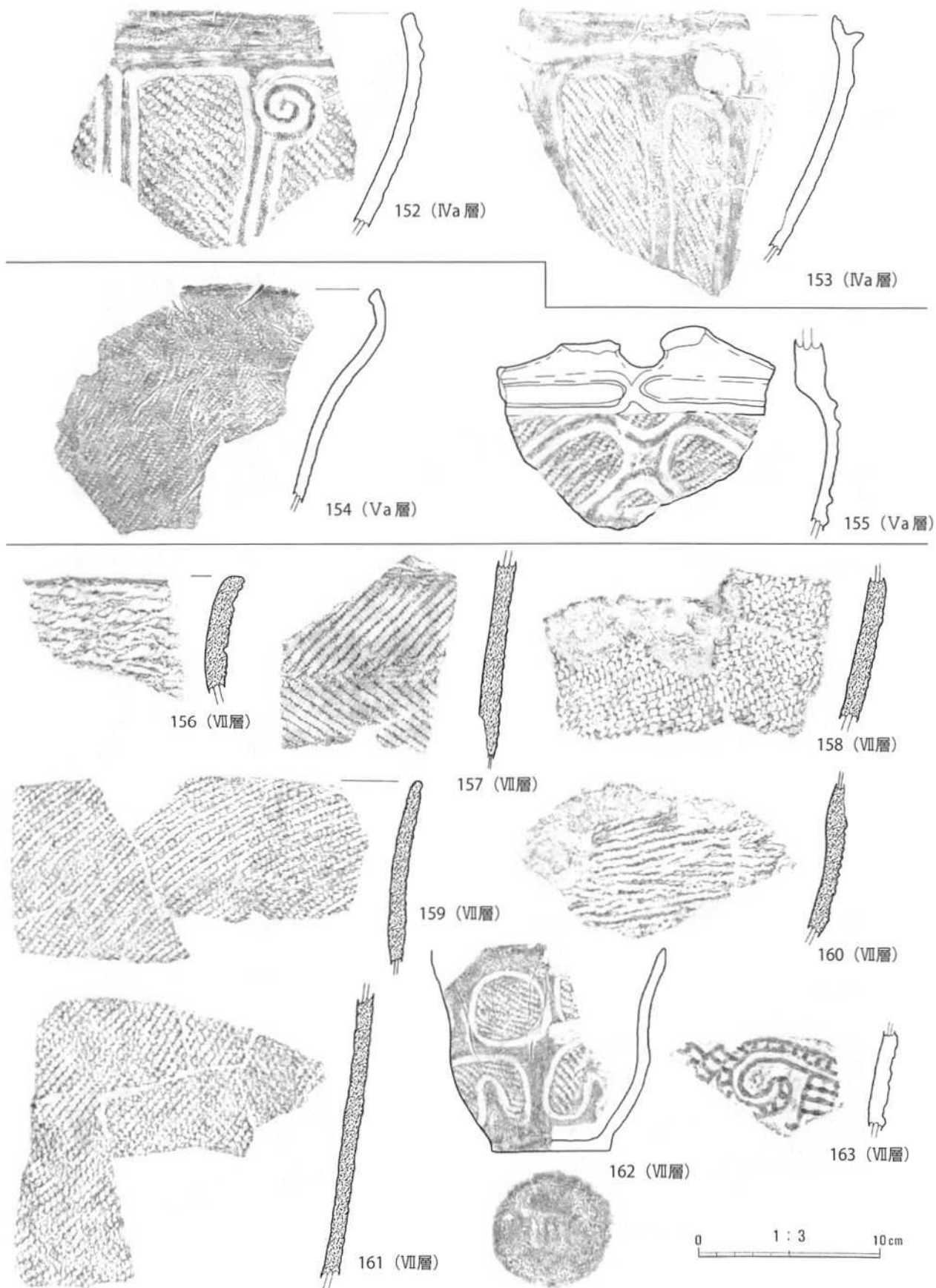
第 64 図 遺物含包層 出土土器 (18)



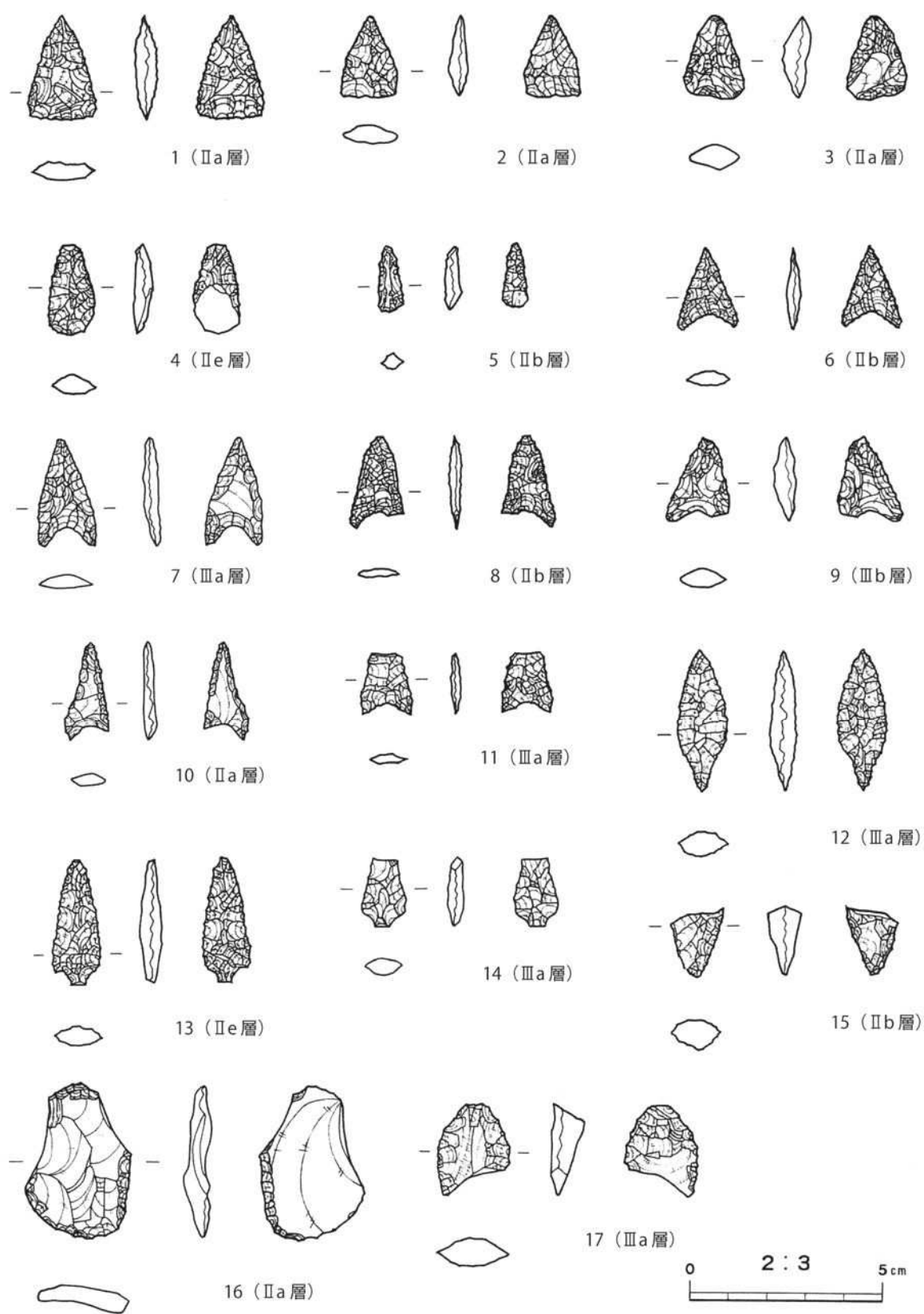
第 65 図 遺物含包層 出土土器 (19)



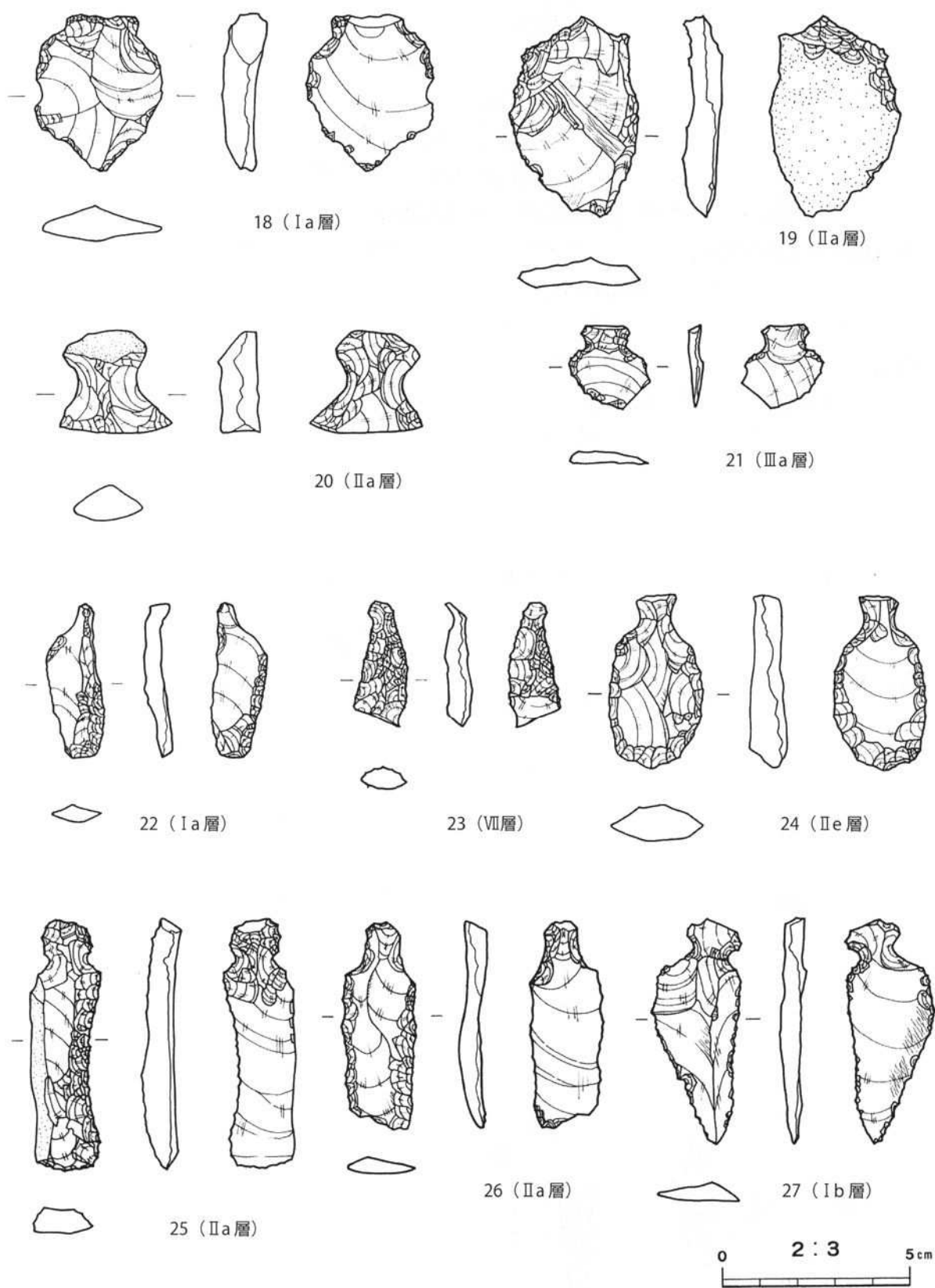
第 66 図 遺物含包層 出土土器 (20)



第 67 図 遺物含包層 出土土器 (21)



第 68 図 遺物含包層 出土石器 (1)



第 69 図 遺物含包層 出土石器 (2)

第68～75図は遺物包含層から出土した石器である。石器は種別ごとに掲載している。第68図1～15は石鏃である。第68図1～3は平基、第68図4・5は凸基無茎、第68図6～11は凹基無茎、第68図12～14は平基有茎、第68図15は欠損が大きく形態は不明である。

第68図16・17、第69図18・19は搔器である。両面及び片面に調整剥離を行い、刃部を作り出している。

第69図20～27、第70図28～30は石匙である。第69図20～27は縦型で、第70図28・30は横型である。第70図29はつまみ部を作り出しているが、両面に調整剥離がみられる。

第70図31～33は石錐である。第70図31にはつまみ部も作り出している。

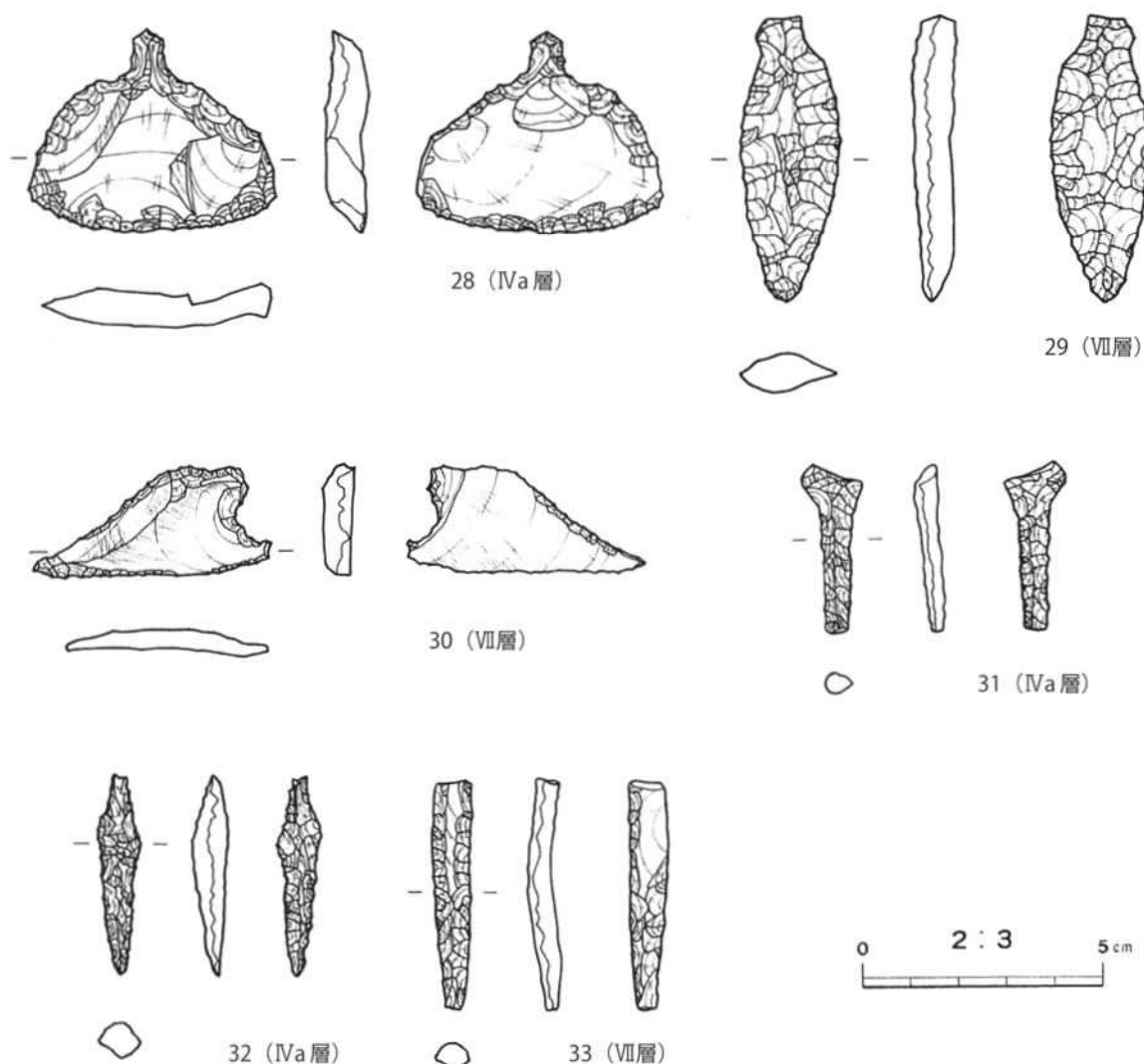
第71図34～37は磨製石斧で、特に第71図34は実用品とは異なる小型磨製石斧である。

第71図38は石皿である。大部分は欠損している。

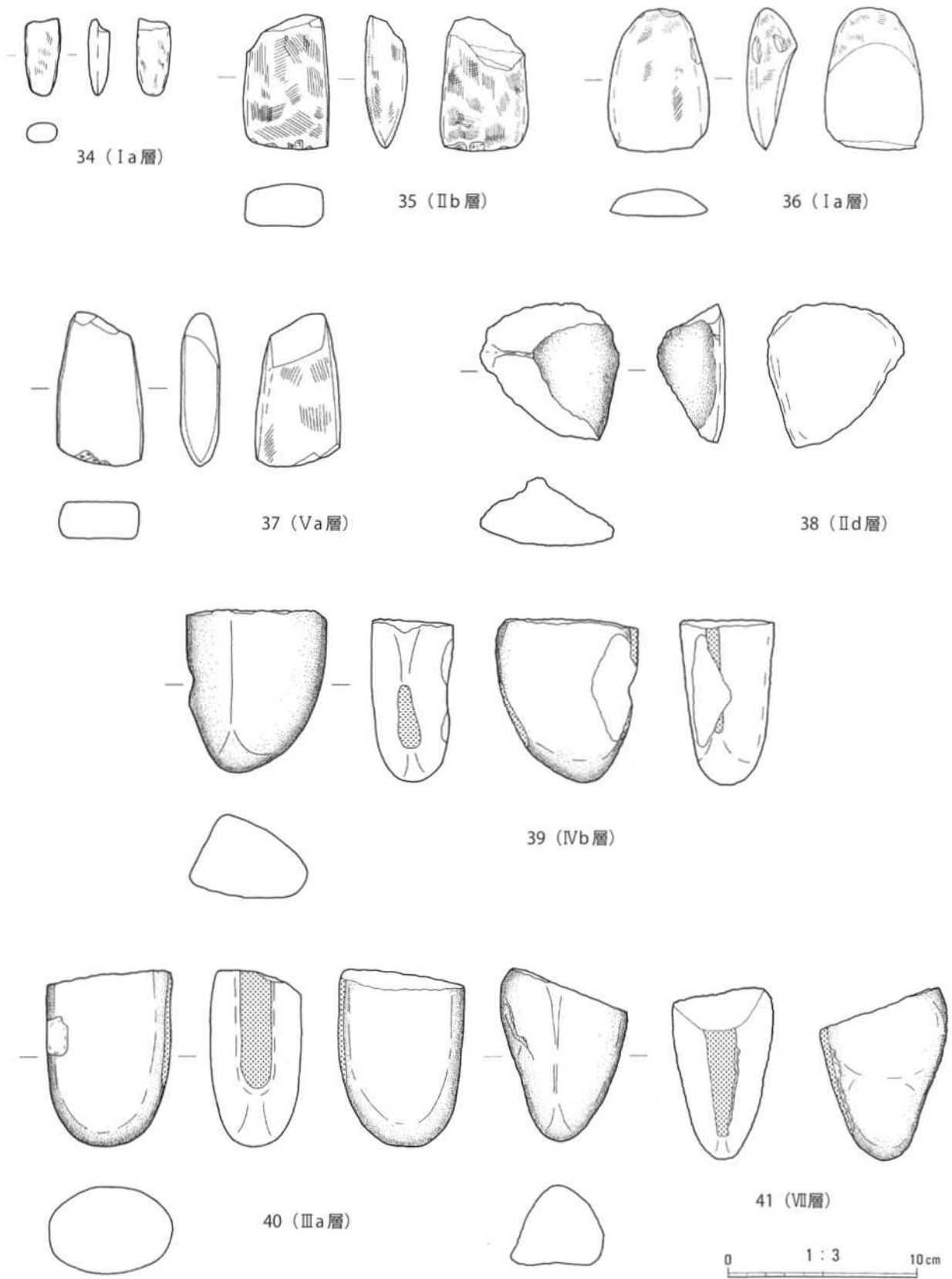
第71図39～41、第72図、第73図46・47は磨石で、1面ないし2面に機能面が観察される。

第73図48、第74・75図は石棒で、第74図49・第75図52のみ完形品で出土している。大部分は砥石に転用されている。第75図52は長さ51.5cm、幅13.3cmを測り、重さ11kgを超える大型の石棒である。

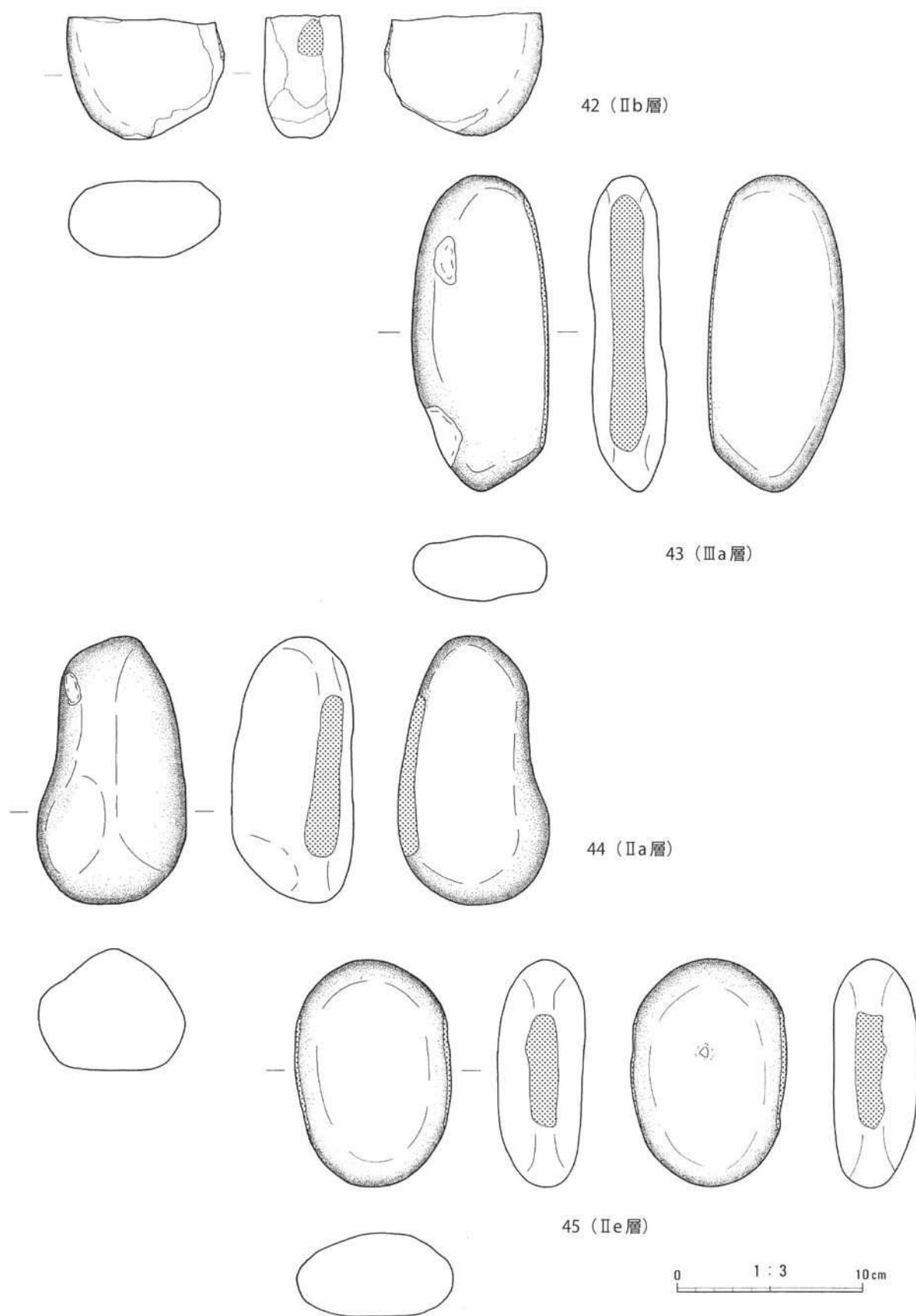
写真図版98の軽石は、図示していないが、面取りされ穿孔がみられる。軽石は合計21点出土している。



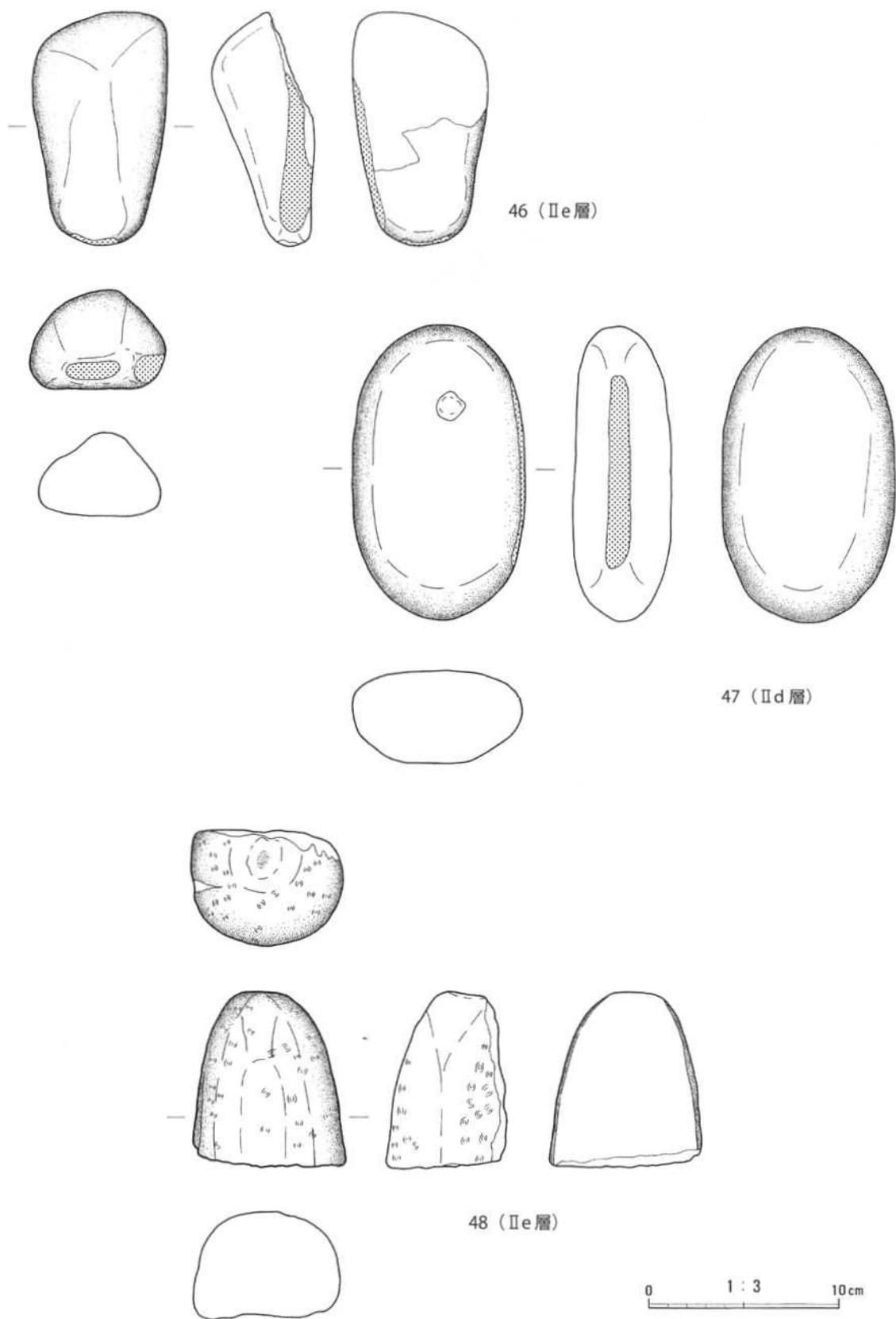
第70図 遺物包含層 出土石器 (3)



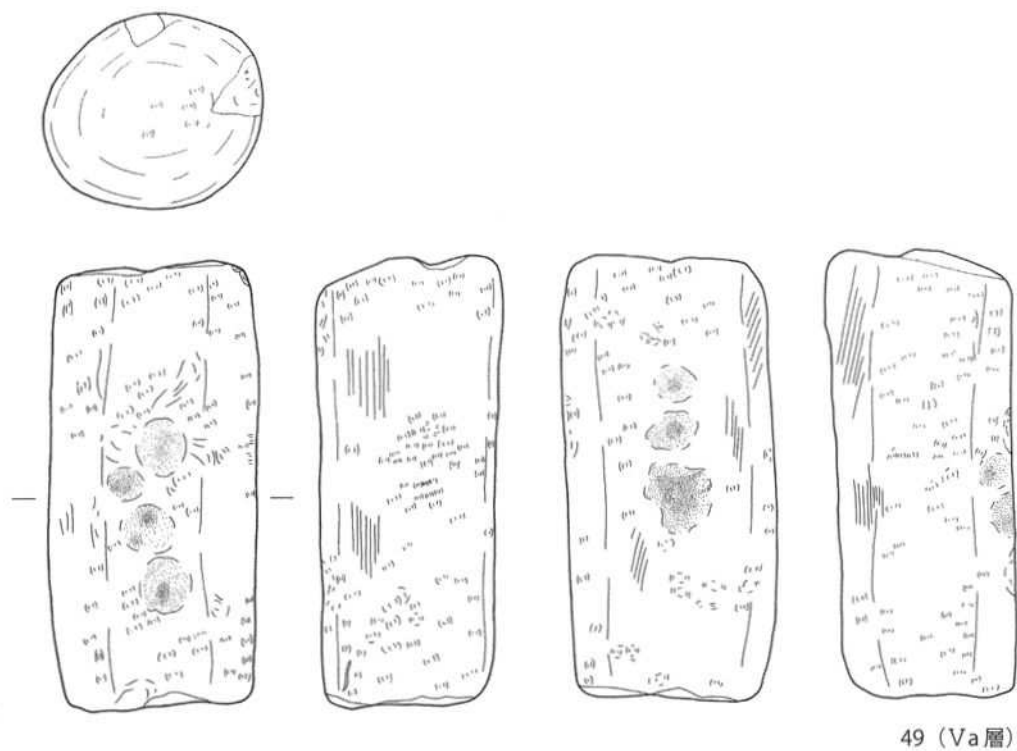
第 71 図 遺物含包層 出土石器 (4)



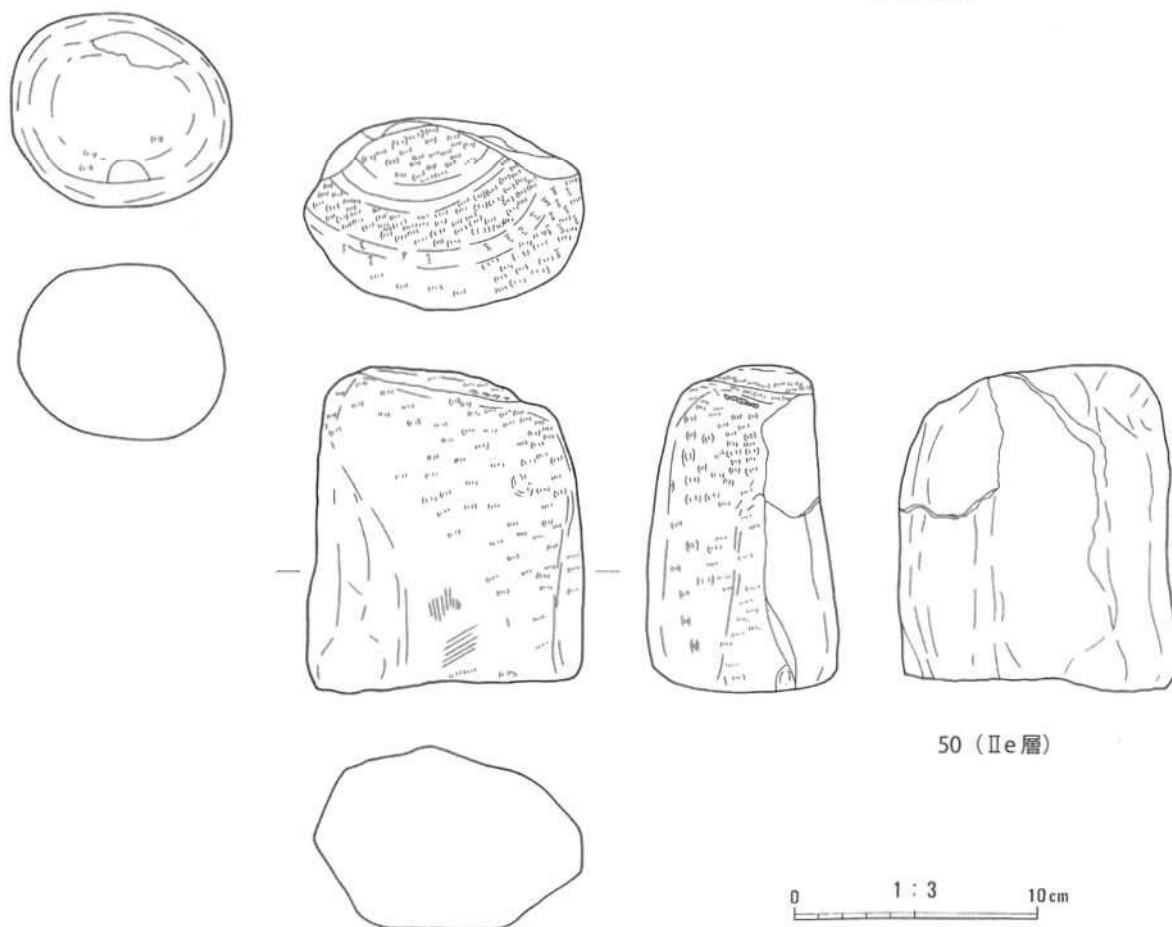
第 72 図 遺物含包層 出土石器 (5)



第 73 図 遺物含包層 出土石器 (6)

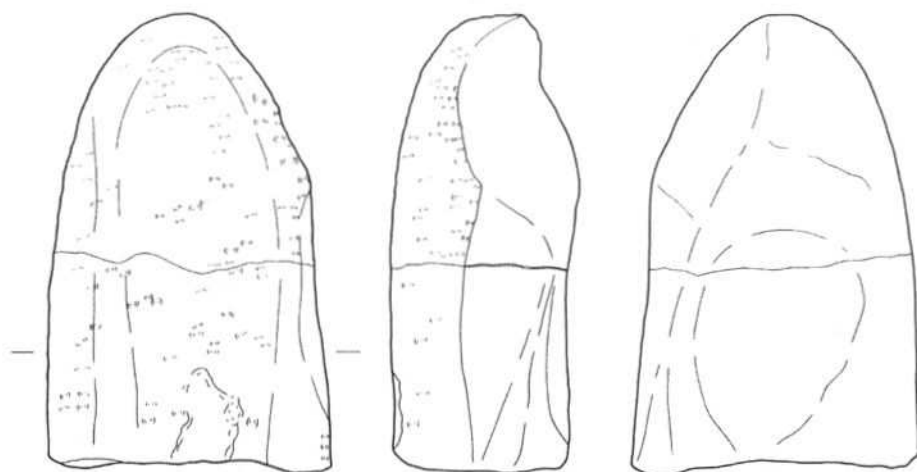


49 (Va層)

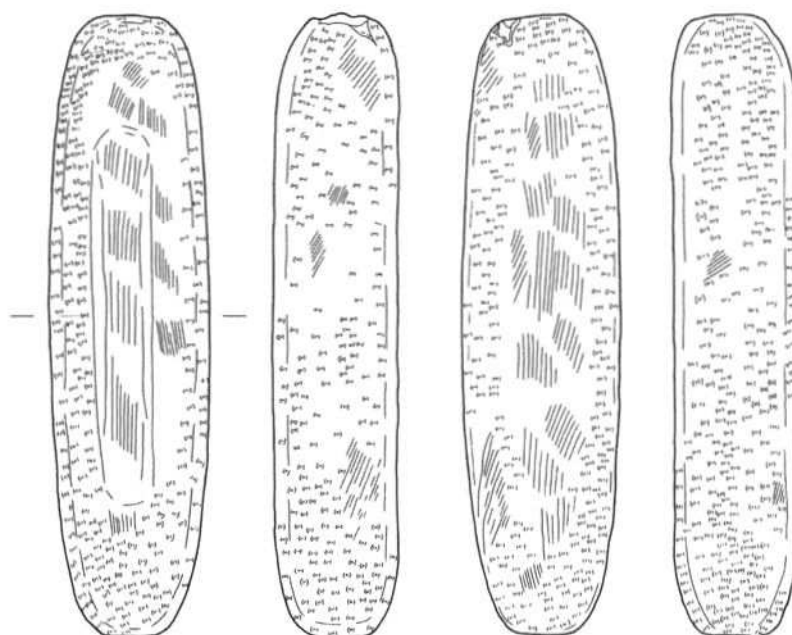
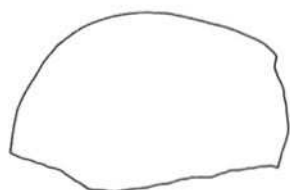


50 (Ile層)

第74図 遺物含包層 出土石器(7)



51 (Ib層)



52 (IIIb層)



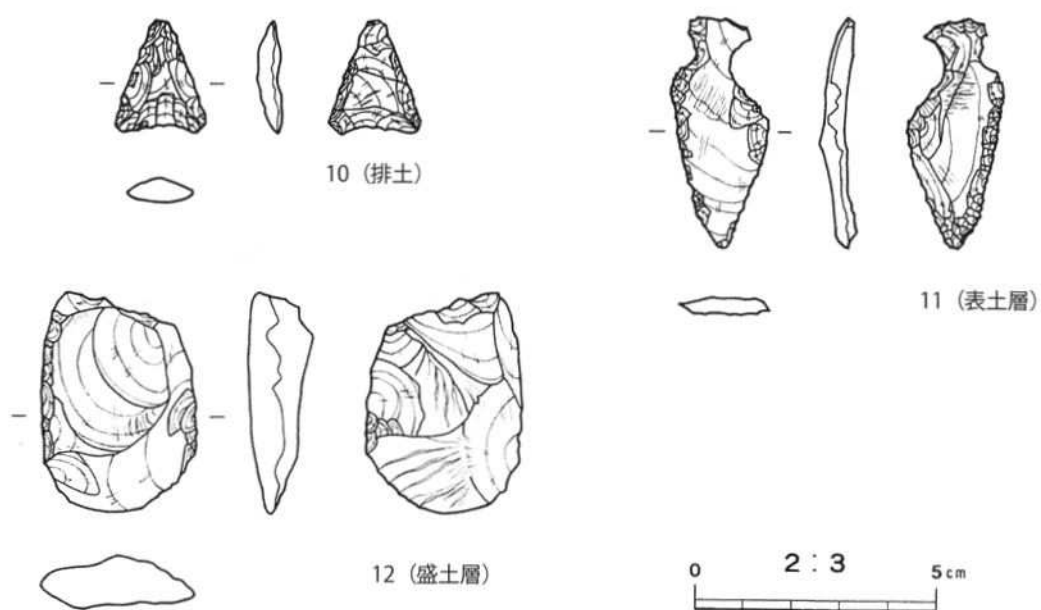
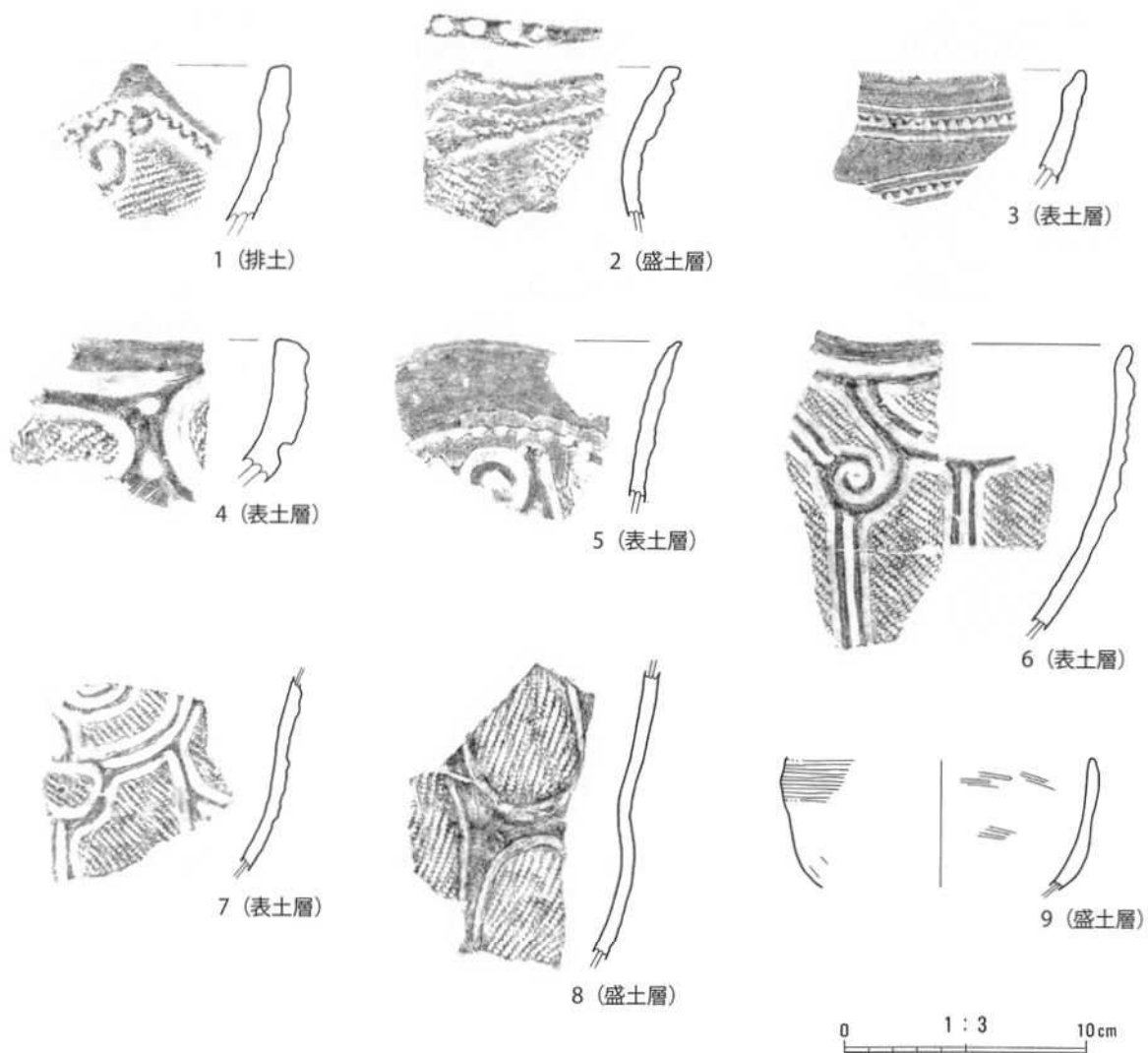
第75図 遺物含包層 出土石器(8)

第4節 遺構外出土遺物（第76・77図、写真図版92・94・98）

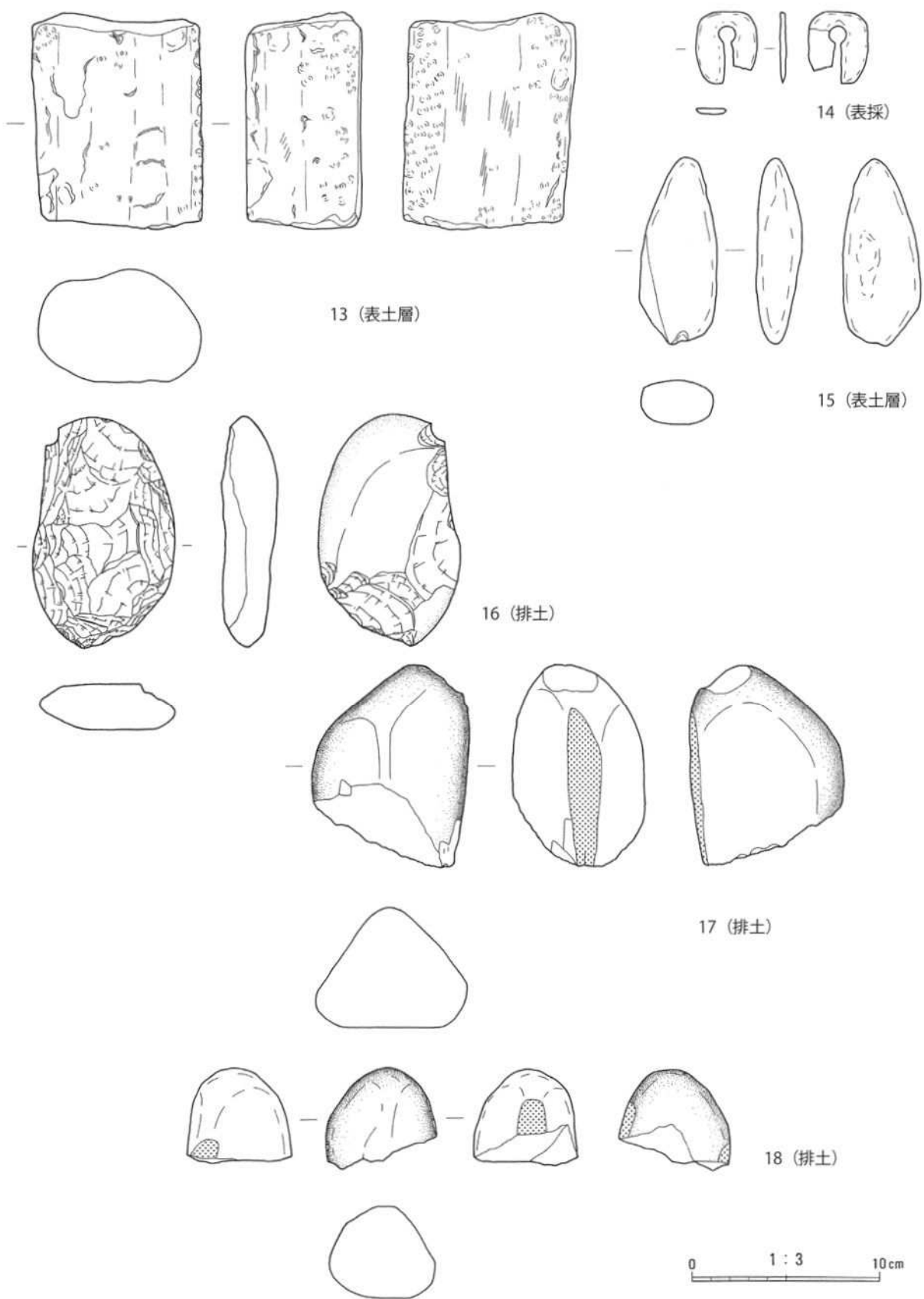
遺構外からは縄文土器・石器・土師器が出土している。図示できた遺物は基本土層の表土層・盛土層及び排土からの出土で、1点のみ表採遺物を掲載している。

第76図1～8は縄文土器である。第76図1～3は口縁部破片で、粘土紐の貼り付けや縄文原体圧痕などにより文様を作り出している。第76図4～6は口縁部破片で、地文である単節斜縄文を施文後、沈線や粘土紐による隆帯で、渦巻き文様や磨消縄文が施文されている。第76図7・8は胴部破片で、単節斜縄文の地文の上に粘土紐隆帯や磨消縄文による区画された文様がみられる。第76図9は土師器坏で、口縁部から体部の一部が残存している。口縁部は横ナデ、体部は内外面ともナデ調整されている。

第76図10は石鏃で、先端部の一部が欠損している。両面に丁寧な調整剥離が施されている。第76図11は石匙で、表裏両面に一次剥離面が残存している。第76図12は搔器で、調整剥離により作り出した刃部が観察される。第77図13は石棒で、端部は欠損しており、砥石として転用されている。第77図14は表採遺物であるが、玦状耳飾りである。一部欠損している。第77図15・16は打製石斧で、第77図16は片面に自然面が残存している縄文時代前期に特徴的な石斧である。第77図17・18は磨石で、ともに中央部で破損している。第77図17は1面に機能面が観察され、第77図18は2面に機能面が観察される。



第76図 遺構外出土遺物 (1)



第 77 図 遺構外出土遺物 (2)

第1表 高浜V下地神遺跡 土器・土製品観察表(1)

神図番号	番号	出土地点	層位	種別	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第10図	2	1号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部	刺突、沈降、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第10図	3	1号壺穴住居跡	伊跡、1層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	補修孔あり
第10図	4	1号壺穴住居跡	伊跡、1層	縄文深鉢	胴部	R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第10図	5	1号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土紐降帯、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第10図	6	1号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯（渦巻き文）、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第10図	7	1号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	底状口縁
第10図	8	1号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯（渦巻き文）、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第10図	9	1号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第10図	10	1号壺穴住居跡	検出面	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）、複部縄文	ナデ	砂粒含む	底状口縁
第10図	11	1号壺穴住居跡	検出面	縄文深鉢	口縁部	刺突、粘土紐降帯（渦巻き文）、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第10図	12	1号壺穴住居跡	検出面	縄文深鉢	口縁部	不整断面文	ナデ	砂粒含む	
第12図	1	2号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	底部	ナデ	底部ナデ	砂粒含む	
第12図	2	2号壺穴住居跡	2層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、L.R.単部縄文、沈降	ナデ	砂粒含む	
第12図	3	2号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第12図	4	2号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第12図	5	2号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	R.L.単部縄文、磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第12図	6	2号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第12図	7	2号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第12図	8	2号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第12図	9	2号壺穴住居跡	1層	縄文ミニチュア土器	底部	ナデ	底部ナデ	砂粒含む	
第15図	1	3号壺穴住居跡	床面下層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土紐降帯（渦巻き文）、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	大型、埋没
第16図	2	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）、沈降、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第16図	3	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土紐降帯、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第16図	4	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	底状口縁
第16図	5	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土紐降帯、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第16図	6	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土紐降帯（渦巻き文）、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第16図	7	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈降、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第17図	8	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土紐降帯、沈降、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第17図	9	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯	ナデ	砂粒含む	
第17図	10	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	胴部～底部	沈降、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第17図	11	3号壺穴住居跡	床面	縄文深鉢	胴部	磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第17図	12	3号壺穴住居跡	8層	縄文深鉢	胴部	R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第17図	13	3号壺穴住居跡	p3・1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	無文	ナデ	砂粒含む	口唇部に刻み
第17図	14	3号壺穴住居跡	p6・1層	縄文深鉢	底部	L.R.単部縄文	底部縄文	砂粒含む	底底
第17図	15	3号壺穴住居跡	p7・1層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）	ナデ	砂粒含む	
第17図	16	3号壺穴住居跡	4層	縄文深鉢	底部	粘土紐降帯、沈降、L.R.単部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第17図	17	3号壺穴住居跡	4層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）、無文	ナデ	砂粒含む	
第17図	18	3号壺穴住居跡	4層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯（渦巻き文）、無文	ナデ	砂粒含む	
第18図	19	3号壺穴住居跡	3層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土紐降帯（渦巻き文）、複部縄文	ナデ	砂粒含む	補修突起、赤彩
第18図	20	3号壺穴住居跡	3層	縄文深鉢	胴部～底部	粘土紐降帯、無文	ナデ	砂粒含む	
第18図	21	3号壺穴住居跡	3層	縄文深鉢	底部	R.L.単部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第18図	22	3号壺穴住居跡	3層	縄文深鉢	胴部	無文	ナデ	砂粒含む	
第18図	23	3号壺穴住居跡	3層	縄文深鉢	胴部	L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第18図	24	3号壺穴住居跡	3層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）、刺突	ナデ	砂粒含む	
第18図	25	3号壺穴住居跡	2層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）、刺突、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第18図	26	3号壺穴住居跡	2層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯（渦巻き文）、L.R.単部縄文	ナデ	砂粒含む	突起
第19図	27	3号壺穴住居跡	2層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土紐降帯（渦巻き文）、刺突、無文	ナデ	砂粒含む	
第19図	28	3号壺穴住居跡	2層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、無文	ナデ	砂粒含む	
第19図	29	3号壺穴住居跡	2層	縄文深鉢	胴部～底部	磨滅不明	底部ナデ	砂粒含む	
第19図	30	3号壺穴住居跡	2層	縄文深鉢	底部	粘土紐降帯、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第19図	31	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	R.L.単部縄文（結束）	ナデ	砂粒含む	
第19図	32	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部～底部	R.L.単部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第19図	33	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第19図	34	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	底部	磨滅不明	底部ナデ	砂粒含む	
第19図	35	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	底部	磨滅不明	底部ナデ	砂粒含む	
第20図	36	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R.L.単部縄文、磨滅不明	ナデ	砂粒含む	底状口縁（孔あり）
第20図	37	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	沈降（渦巻き文）、無文	ナデ	砂粒含む	
第20図	38	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	沈降（渦巻き文）、無文	ナデ	砂粒含む	
第20図	39	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第20図	40	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈降、R.L.単部縄文、刺突	ナデ	砂粒含む	
第20図	41	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第20図	42	3号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部	粘土紐降帯、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第24図	1	4号壺穴住居跡	伊跡・1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第24図	2	4号壺穴住居跡	p5・2層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯（渦巻き文）、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	
第24図	3	4号壺穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土紐降帯、R.L.単部縄文	ナデ	砂粒含む	

第1表 高浜V下地神遺跡 土器・土製品観察表(2)

探検番号	番号	出土地点	層位	種別	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第24図	4	4号竪穴住居跡	伊勢・A層	縄文深鉢	胴部	L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第24図	5	4号竪穴住居跡	検出面	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)	ナデ	砂粒含む	
第28図	2	5号竪穴住居跡	伊勢・1層	縄文深鉢	胴部	沈線 (渦巻き文)、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第28図	3	5号竪穴住居跡	伊勢・1層	縄文深鉢	底部	磨滅不明	底部ナデ	砂粒含む	
第28図	4	5号竪穴住居跡	p3・1層	縄文深鉢	底部	磨滅不明	底部ナデ	砂粒含む	
第28図	5	5号竪穴住居跡	p3・1層	縄文深鉢	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒含む	
第28図	6	5号竪穴住居跡	2層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)	ナデ	砂粒含む	
第28図	7	5号竪穴住居跡	2層	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第28図	8	5号竪穴住居跡	2層	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第28図	9	5号竪穴住居跡	検出面	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第30図	1	6号竪穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第30図	2	6号竪穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部	沈線、L.R.単節縄文、斜突	ナデ	砂粒含む	
第30図	3	6号竪穴住居跡	p1・1層	縄文深鉢	胴部	沈線、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第33図	1	7号竪穴住居跡	1層	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第33図	2	7号竪穴住居跡	p3・1層	縄文ミニチュア土器	口縁部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)	ナデ	砂粒含む	
第33図	3	7号竪穴住居跡	p4・1層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第33図	4	7号竪穴住居跡	p4・1層	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第33図	5	7号竪穴住居跡	p4・1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈線、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第33図	6	7号竪穴住居跡	p4・1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、斜突、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第35図	1	8号竪穴住居跡	伊勢・1層	縄文深鉢	口縁部	磨滅不明、沈線	ナデ	砂粒含む	
第36図	2	8号竪穴住居跡	伊勢・1層	縄文深鉢	胴部	R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第37図	3	8号竪穴住居跡	伊勢・1層	縄文深鉢	胴部	沈線、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第39図	1	1号土坑	1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈線、粘土粒隆帯 (渦巻き文)、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	横状突起
第41図	2	2号土坑	1層	縄文深鉢	口縁部	R.L.単節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	
第41図	3	2号土坑	1層	縄文深鉢	底部	磨滅不明	底部ナデ	砂粒含む	
第41図	4	3号土坑	1層	縄文深鉢	胴部	L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第43図	1	P1	1層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯、磨滅不明	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第43図	2	P12	1層	縄文深鉢	口縁部	羽状縄文	ナデ	砂粒含む	
第43図	3	P12	1層	縄文深鉢	胴部	L.R.単節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	
第43図	4	P5	1層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第43図	5	P24	1層	縄文深鉢	胴部	磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第47図	1	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈線 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第47図	2	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	胴部	沈線 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第47図	3	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	胴部	沈線 (渦巻き文)、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第47図	4	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第47図	5	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	口縁部	沈線 (渦巻き文)、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	横状突起
第47図	6	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第47図	7	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈線、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第48図	8	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	口縁部～胴部	渦巻き文、沈線、複節縄文	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第48図	9	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	胴部～底部	R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第48図	10	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	胴部	R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第48図	11	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	胴部	横糸文	ナデ	砂粒含む	
第48図	12	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	底部	磨滅不明	底部網代痕	砂粒含む	
第48図	13	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	底部	R.L.単節縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第48図	14	遺物包含層	I a層	縄文深鉢	口縁部	不明	ナデ	繊維含む	
第48図	15	遺物包含層	I b層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第48図	16	遺物包含層	I b層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、複節縄文	ナデ	砂粒含む	
第49図	17	遺物包含層	I b層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第49図	18	遺物包含層	I b層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第49図	19	遺物包含層	I b層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第49図	20	遺物包含層	I b層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第49図	21	遺物包含層	I b層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第49図	22	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	直状口縁 (孔あり)
第49図	23	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第50図	24	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部	沈線、斜突、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第50図	25	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第50図	26	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第50図	27	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈線 (渦巻き文)、斜突、R.L.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第50図	28	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第50図	29	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第50図	30	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	胴部	沈線 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第50図	31	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部	粘土粒隆帯、磨滅縄文、地文磨滅不明	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第50図	32	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、地文磨滅不明	ナデ	砂粒含む	直状口縁
第50図	33	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第51図	34	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土粒隆帯、沈線 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	
第51図	35	遺物包含層	II a層	縄文深鉢	胴部	粘土粒隆帯 (渦巻き文)、L.R.単節縄文	ナデ	砂粒含む	

第1表 高浜V下地神遺跡 土器・土製品観察表(3)

神田番号	番号	出土地点	層位	種別	部位	文 様 (内面)	内面調整	胎 土	備 考
第51図	36	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部～底部	粘土結隆帯。地文磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第51図	37	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯。沈線 (渦巻き文)。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第51図	38	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)	ナデ	砂粒含む	
第51図	39	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	砂粒含む	突起の一部 (孔あり)
第51図	40	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	キャリバー形
第51図	41	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯 (渦巻き文)	ナデ	砂粒含む	
第52図	42	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第52図	43	遺物包含層	II a 層	縄文浅鉢	口縁部	L R 卑部縄文。口唇部渦巻き文	ナデ	砂粒含む	波状口縁
第52図	44	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第52図	45	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～底部	沈線。R L 卑部縄文。底部ナデ	ナデ	砂粒含む	定形
第53図	46	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)。刺突。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	大型土器
第54図	47	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部～底部	粘土結隆帯。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第54図	48	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	底部	磨消縄文。R L 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第54図	49	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部	沈線。磨消縄文。燃糸文	ナデ	砂粒含む	
第54図	50	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯。複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第54図	51	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部～底部	沈線。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第54図	52	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	波状口縁
第54図	53	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	波状口縁
第54図	54	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部	磨消縄文。地文磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第55図	55	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～底部	磨消縄文。刺突。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第55図	56	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部	磨消縄文。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第55図	57	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部	磨消縄文。複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第55図	58	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第55図	59	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第55図	60	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部	磨消縄文。地文磨滅不明	ナデ	砂粒含む	波状口縁
第55図	61	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第56図	62	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第56図	63	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第56図	64	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。地文磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第56図	65	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。R L 卑部縄文。輝状の隆帯	ナデ	砂粒含む	
第56図	66	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部	磨消縄文。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第57図	67	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。複部縄文	ナデ	砂粒含む	波状口縁
第57図	68	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第58図	69	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。L R 卑部縄文。刺突	ナデ	砂粒含む	
第58図	70	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部	磨消縄文。L R 卑部縄文。刺突	ナデ	砂粒含む	
第58図	71	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部	磨消縄文。L R 卑部縄文。刺突	ナデ	砂粒含む	
第58図	72	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第58図	73	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈線。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第58図	74	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第58図	75	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯。燃糸文	ナデ	砂粒含む	
第58図	76	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第58図	77	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～底部	L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第59図	78	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第59図	79	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部～底部	R L 卑部縄文	底部網代底	砂粒含む	
第59図	80	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第59図	81	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～底部	R L 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第59図	82	遺物包含層	II a 層	縄文ミニチュア土器	底部	ナデ	底部ナデ	砂粒含む	
第59図	83	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	底部	L R 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第59図	84	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	胴部～底部	L R 卑部縄文	底部網代底	砂粒含む	
第59図	85	遺物包含層	II a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第60図	86	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第60図	87	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)。複部縄文	ナデ	砂粒含む	波状口縁
第60図	88	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第60図	89	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯。L R 卑部縄文。輝状突起	ナデ	砂粒含む	
第60図	90	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第60図	91	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	沈線。L R 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第60図	92	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第60図	93	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	波状口縁
第60図	94	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	底部	粘土結隆帯。R L 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第61図	95	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。L R 卑部縄文。刺突	ナデ	砂粒含む	波状口縁
第61図	96	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文。L R 卑部縄文。刺突	ナデ	砂粒含む	
第61図	97	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部	磨消縄文。R L 卑部縄文。刺突	ナデ	砂粒含む	
第61図	98	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	胴部	磨消縄文。L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第61図	99	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R L 卑部縄文 (結束)	ナデ	砂粒含む	
第61図	100	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R L 卑部縄文 (結束)	ナデ	砂粒含む	
第61図	101	遺物包含層	II b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R L 卑部縄文 (結束)	ナデ	砂粒含む	

第1表 高浜V下地神遺跡 土器・土製品観察表(4)

探検番号	番号	出土地点	層位	種別	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第6 1 図	102	遺物包含層	Ⅱ b 層	縄文深鉢	胴部	R L 卑部縄文 (結束)	ナデ	砂粒含む	
第6 2 図	103	遺物包含層	Ⅱ b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 2 図	104	遺物包含層	Ⅱ b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 2 図	105	遺物包含層	Ⅱ b 層	縄文深鉢	底部	R L 卑部縄文	底部木葉痕	砂粒含む	
第6 2 図	106	遺物包含層	Ⅱ b 層	縄文深鉢	胴部	R L 卑部縄文 (結束)	ナデ	砂粒含む	
第6 2 図	107	遺物包含層	Ⅱ b 層	縄文ミニチュア土器	底部	ナデ	底部木葉痕	砂粒含む	
第6 2 図	108	遺物包含層	Ⅱ b 層	土製品	—	ナデ	ナデ	砂粒含む	キノコ形
第6 2 図	109	遺物包含層	Ⅱ d 層	縄文深鉢	胴部	沈線、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第6 2 図	110	遺物包含層	Ⅱ d 層	縄文深鉢	胴部～底部	磨滅不明	底部擦痕	砂粒含む	
第6 3 図	111	遺物包含層	Ⅱ e 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、刺突、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	112	遺物包含層	Ⅱ e 層	縄文深鉢	胴部～底部	R L 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	113	遺物包含層	Ⅱ e 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	114	遺物包含層	Ⅱ e 層	縄文深鉢	胴部	沈線、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	115	遺物包含層	Ⅱ e 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	116	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	117	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯、複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	118	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	119	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、刺突、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 3 図	120	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	底状口縁
第6 3 図	121	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 4 図	122	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	底状口縁 (孔あり)
第6 4 図	123	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第6 4 図	124	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 4 図	125	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯、R L 卑部縄文、刺突	ナデ	砂粒含む	
第6 4 図	126	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、R L 卑部縄文、刺突	ナデ	砂粒含む	
第6 4 図	127	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯、沈線、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 4 図	128	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	胴部～底部	粘土結隆帯、L R 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第6 4 図	129	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 4 図	130	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯、沈線、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 5 図	131	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文、複部縄文	ナデ	砂粒含む	底状口縁
第6 5 図	132	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 5 図	133	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 5 図	134	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	胴部	磨消縄文、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 5 図	135	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 5 図	136	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 5 図	137	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 5 図	138	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯、複部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 5 図	139	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	140	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	ナデ (輪指み痕あり)	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	141	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	横糸文	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	142	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	口縁部	横糸文	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	143	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	底部	R L 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	144	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	底部	L R 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	145	遺物包含層	Ⅲ a 層	縄文深鉢	胴部～底部	L R 卑部縄文	底部ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	146	遺物包含層	Ⅲ b 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	147	遺物包含層	Ⅲ b 層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯、沈線	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	148	遺物包含層	Ⅲ b 層	縄文深鉢	胴部	磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	149	遺物包含層	Ⅳ a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結貼付 (波状)、横糸文	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	150	遺物包含層	Ⅳ a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結貼付 (波状)	ナデ	砂粒含む	
第6 6 図	151	遺物包含層	Ⅳ a 層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 7 図	152	遺物包含層	Ⅳ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、刺突、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 7 図	153	遺物包含層	Ⅳ a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯、磨消縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 7 図	154	遺物包含層	V a 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 7 図	155	遺物包含層	V a 層	縄文深鉢	胴部	沈線、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	突起
第6 7 図	156	遺物包含層	VII 層	縄文深鉢	口縁部	不整横糸文	ナデ	繊維含む	
第6 7 図	157	遺物包含層	VII 層	縄文深鉢	胴部	羽状縄文 (結束)	ナデ	繊維含む	
第6 7 図	158	遺物包含層	VII 層	縄文深鉢	胴部	L R 卑部縄文	ナデ	繊維含む	
第6 7 図	159	遺物包含層	VII 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 卑部縄文	ナデ	繊維含む	
第6 7 図	160	遺物包含層	VII 層	縄文深鉢	胴部	横糸文	ナデ	繊維含む	
第6 7 図	161	遺物包含層	VII 層	縄文深鉢	胴部	L R 卑部縄文	ナデ	繊維含む	
第6 7 図	162	遺物包含層	VII 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	磨消縄文、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第6 7 図	163	遺物包含層	VII 層	縄文深鉢	胴部	粘土結貼付 (渦巻き文)	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	1	遺構外	排土	縄文深鉢	口縁部	粘土結貼付 (波状)、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	2	遺構外	盛土層	縄文深鉢	口縁部	L R 卑部縄文、縄文圧痕	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	3	遺構外	表土層	縄文深鉢	口縁部	沈線、刺突	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	4	遺構外	表土層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯、刺突、地文磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	5	遺構外	表土層	縄文深鉢	口縁部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、刺突	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	6	遺構外	表土層	縄文深鉢	口縁部～胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	7	遺構外	表土層	縄文深鉢	胴部	粘土結隆帯 (渦巻き文)、L R 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	8	遺構外	盛土層	縄文深鉢	胴部	磨消縄文、R L 卑部縄文	ナデ	砂粒含む	
第7 6 図	9	遺構外	盛土層	土師器坏	口縁部～底部	口縁部横ナデ、底部ナデ	ナデ調整	砂粒含む	内面黒色地埋

第2表 高浜V下地神遺跡 石器観察表(1)

神田 番号	番 号	出土地点	層 位	種別	現存する大きさ				備 考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
第9図	1	1号竪穴住居跡	1層	石棒	13.8	11.6	9.7	1890	両端欠損
第12図	10	2号竪穴住居跡	1層	磨石	16.2	8	5.6	1210	2面に機能面
第21図	43	3号竪穴住居跡	3層	石鏃	2.3	1.55	0.45	1	凹基無茎
第21図	44	3号竪穴住居跡	床面	石鏃	3.1	1.9	0.5	1.5	凹基無茎
第21図	45	3号竪穴住居跡	p1・2層	磨石	14.6	6.6	4.8	700	1面に機能面
第24図	6	4号竪穴住居跡	床面	磨石	12.7	9.1	5.8	1,045	2面に機能面
第27図	1	5号竪穴住居跡	p3・1層	磨石	15.7	8.2	3.8	755	1面に機能面
第31図	4	6号竪穴住居跡	1層	石鏃	1.45	1.3	0.25	0.3	凹基無茎
第31図	5	7号竪穴住居跡	1層	石鏃	1.6	1.5	0.3	4	凹基無茎
第68図	1	遺物包含層	II a層	石鏃	2.8	1.8	0.6	2.2	平基無茎
第68図	2	遺物包含層	II a層	石鏃	2.12	1.45	0.5	1	平基無茎
第68図	3	遺物包含層	II a層	石鏃	2.2	1.6	0.7	1.6	平基無茎
第68図	4	遺物包含層	II e層	石鏃	2.4	1.2	0.5	1.2	平基無茎
第68図	5	遺物包含層	II b層	石鏃	1.7	0.7	0.5	0.4	平基無茎
第68図	6	遺物包含層	II b層	石鏃	2.2	1.6	0.4	0.6	凹基無茎
第68図	7	遺物包含層	III a層	石鏃	2.7	1.5	0.4	1.2	凹基無茎
第68図	8	遺物包含層	II b層	石鏃	2.4	1.5	0.3	0.7	凹基無茎
第68図	9	遺物包含層	III b層	石鏃	2.2	1.7	0.6	1.3	凹基無茎
第68図	10	遺物包含層	II a層	石鏃	2.6	1.15	0.33	0.6	凹基無茎
第68図	11	遺物包含層	III a層	石鏃	1.6	1.4	0.3	0.5	凹基無茎
第68図	12	遺物包含層	III a層	石鏃	3.7	1.3	0.8	2.6	凸基有茎
第68図	13	遺物包含層	II e層	石鏃	3.3	1.3	0.6	2	凸基有茎
第68図	14	遺物包含層	III a層	石鏃	1.8	1.15	0.4	0.8	凸基有茎
第68図	15	遺物包含層	II b層	石鏃?	1.8	1.5	1	1.3	
第68図	16	遺物包含層	II a層	搔器	4.1	2.7	0.65	5.2	
第68図	17	遺物包含層	III a層	搔器?	2.5	2	1	3.2	
第69図	18	遺物包含層	I a層	搔器	4.2	3.3	1	9.8	
第69図	19	遺物包含層	II a層	搔器	5.4	3.5	1.1	14.3	
第69図	20	遺物包含層	II a層	石匙	2.7	3	1.05	7.4	横型?
第69図	21	遺物包含層	III a層	石匙	2.2	2.2	0.3	1.2	横型?
第69図	22	遺物包含層	I a層	石匙	4.12	1.35	0.52	2.4	縦型
第69図	23	遺物包含層	VII層	石鏃	3.4	1.4	0.7	2.4	縦型
第69図	24	遺物包含層	II e層	石匙	4.65	2.5	1	9.9	縦型
第69図	25	遺物包含層	II a層	石匙	6.7	2.0	1.1	10.3	縦型
第69図	26	遺物包含層	II a層	石匙	5.5	2	0.6	6.6	縦型
第69図	27	遺物包含層	I b層	石匙	6	2.4	0.9	6	縦型
第70図	28	遺物包含層	IV a層	石匙	4.3	5.3	0.95	13.8	横型
第70図	29	遺物包含層	VII層	石匙	6	2.05	0.85	9.6	縦型
第70図	30	遺物包含層	VII層	石匙	5.1	2.3	0.7	4.4	横型
第70図	31	遺物包含層	IV a層	石鏃	3.55	1.25	0.5	1.2	
第70図	32	遺物包含層	IV a層	石鏃	4.2	0.9	0.8	2	
第70図	33	遺物包含層	VII層	石鏃	4.85	0.8	0.5	2.1	
第71図	34	遺物包含層	I a層	小型磨製石斧	4.2	1.8	1	10	
第71図	35	遺物包含層	II b層	磨製石斧	7.3	4.4	2.2	115	
第71図	36	遺物包含層	I a層	磨製石斧	7.7	5.3	1.4	140	
第71図	37	遺物包含層	V a層	磨製石斧	8.2	4.2	2	125	
第71図	38	遺物包含層	II d層	石皿	7.4	7.5	3.6	85	1面に擦面
第71図	39	遺物包含層	IV b層	磨石	8.8	7.7	4.5	425	2面に機能面
第71図	40	遺物包含層	III a層	磨石	9.5	4.9	4.7	465	1面に機能面
第71図	41	遺物包含層	VII層	磨石	9.3	4.3	6.9	325	1面に機能面
第72図	42	遺物包含層	II b層	磨石	6.6	8.4	4.1	370	1面に機能面
第72図	43	遺物包含層	III a層	磨石	17.12	7.3	3.5	733.8	1面に機能面
第72図	44	遺物包含層	II a層	磨石	14.5	8.1	8.6	1045	1面に機能面
第72図	45	遺物包含層	II e層	磨石・くぼみ石	12.3	8.3	4.5	730	2面に機能面
第73図	46	遺物包含層	II e層	磨石・叩き石	12.3	7	4.3	460	1面に機能面
第73図	47	遺物包含層	II d層	磨石	15.5	9	4.9	1110	1面に機能面
第73図	48	遺物包含層	II e層	石棒	9.1	7.6	5.7	540	端部欠損

第2表 高浜Ⅴ下地神遺跡 石器観察表(2)

検出 番号	番 号	出土地点	層 位	種別	残存する大きさ				備 考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
第74図	49	遺物包含層	V a層	石棒	18.5	8.6	7.3	1880	完形、くぼみ石転用
第74図	50	遺物包含層	II e層	石棒	13.5	8	8.5	1575	端部欠損
第75図	51	遺物包含層	I b層	石棒	19.2	10.5	7.7	2136	端部欠損、2点接合
第75図	52	遺物包含層	III b層	石棒	51.5	13.3	10.2	11290	完形、砥石転用
第76図	10	遺構外出土遺物	排土	石鏃	2.35	1.9	0.48	1.5	凹基無茎
第76図	11	遺構外出土遺物	表土層	石匙	4.9	2	0.9	3.6	縦型
第76図	12	遺構外出土遺物	盛土層	搔器	4.6	3.2	1.3	15.7	
第77図	13	遺構外出土遺物	表土層	石棒	11.1	8.9	6	1010	端部欠損、砥石転用
第77図	14	遺構外出土遺物	表土層	片状耳飾り	3.9	3.3	0.3	10	一部欠損
第77図	15	遺構外出土遺物	表土層	打製石斧	10.2	4	2.4	140	
第77図	16	遺構外出土遺物	排土	打製石斧	12.5	7.6	2.5	315	片面に自然面残存
第77図	17	遺構外出土遺物	排土	磨石	10.5	8.2	6.5	710	1面に機能面
第77図	18	遺構外出土遺物	排土	磨石	5	5.8	5	170	2面に機能面

第5章 まとめ

東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う倉庫建築関係の高浜V下地神遺跡の発掘調査は、平成25年度に試掘調査及び発掘調査が行われた。調査面積は約45㎡と狭小であったが、縄文時代中期の竪穴住居跡9棟、土坑3基、ピット28基、縄文時代中期を主体とする遺物包含層が検出され、縄文土器や石器が大量に出土している。ここでは、高浜V下地神遺跡から検出された遺構・遺物の概要と、3号竪穴住居跡の床面下層から出土した埋甕について取り上げ、まとめたい。

1. 高浜V下地神遺跡において検出された遺構・遺物の概要

今回の高浜V下地神遺跡の発掘調査で検出された遺構は、45㎡という調査面積を考えると、想定を超える遺構数といえる。特に竪穴住居跡は、面的な重複関係ではなく、間に遺物包含層を挟むという層位的な重複関係がみられ、縄文時代中期後半において、同じ場所に繰り返し住居跡を構築していたことがうかがえる。さらに現在は、切土・盛土や国道45号の切通しにより凹凸の激しい地形となっているが、調査区内の竪穴住居跡の分布に偏りなどはみられなかったため地形の制約を受けていないと思われ、丘陵裾部であった当該地は、縄文時代においては宮古湾内に向かってなだらかな地形が続いていたと推測される。

竪穴住居跡は9棟検出されたが、壁の立ち上がりや炉跡などが明確に分かったものは3棟（1号・3号・4号竪穴住居跡）のみである。他は、石囲炉・地床炉のみの検出（5号・8号・9号竪穴住居跡）や逆に炉跡が確認できず壁の立ち上がりのみで竪穴住居跡と判断したもの（2号・6号・7号竪穴住居跡）である。このように通常の遺跡のように、地山面での検出ではなく遺物包含層中の検出ということもあり、個々の竪穴住居跡の全体像をつかむのは困難であった。さらに調査区の範囲外にも同様に遺物包含層が広がり、竪穴住居跡も重複して残存していると考えられる。このような状況から縄文時代中期後半に集中的に居住空間として利用されていたことがうかがえる。

次に遺物包含層であるが、現代の盛土層下層において検出され、Ⅰ層～Ⅴ層、Ⅶ層に大別される。Ⅰ層からⅦ層まで層位的に堆積しているが、包含された縄文土器の年代をみると、かなりの混在が確認された。特にⅠ層からⅤ層は、縄文時代中期の大木8b式・大木9式・大木10式の土器がどの層からも出土している状況であった。このことから、土器捨て場のような状況で遺物包含層が堆積していく過程で、人為的な攪乱が生じていると推測される。前述の竪穴住居が、遺物包含層が堆積していく途中で構築されていることとも関係していると考えられ、複雑な堆積過程がうかがえる。十和田中掘の火山灰ブロックが含まれているⅥ層を間に挟んだ下層であるⅦ層については、一部混入がみられたが、概ね縄文時代前期初頭の土器に収まっている。さらにその下層は無遺物層となるため、当該地の縄文集落の始まりは縄文時代前期初頭に求めることができる。

出土した遺物で特筆されるのは、後述する3号竪穴住居跡から出土した埋甕、1号土坑から出土した立体的な突起をもつ大木8b式の土器、遺物包含層から出土した大型の石棒が挙げられる。1号土坑から出土した土器は、口縁部～胴部が残存し、底部は周辺からも出土しなかったため、何らかの意図的な行為が考えられる。口縁部の突起は4箇所作り出され、さらにその間に小突起が4箇所確認できる。大型の石棒は、竪穴住居や土坑に伴うものではなく、遺物包含層中の縄文土器と同様の状態で出土している。周辺の状況からも意図的な行為はみられなかった。砥石として転用されている点も特徴である。

2. 縄文時代の埋甕について

今回の発掘調査で3号竪穴住居跡の床面下層から埋甕が1基検出された。平成27年に実施された隣接した地点の発掘調査でも3基の埋甕が出土しているため、高浜Ⅴ下地神遺跡を特徴付ける1つの要素として取り上げたい。

3号竪穴住居跡の埋甕は、貼床された床面の中央部において、円形状に貼床されていない範囲を確認したために、柱穴やピットと同様に掘り下げを行ったところ、床面から約45cmの深さで大型の縄文土器が出土した。直径約40cmで、胴部のほぼ中央部で割れており、胴部～底部は残存していない。さらに土器よりも少し大きめに掘られた土坑状の掘り方の中に口縁部を下に向けた状態で埋設されている状況が確認された。内部の土壌及び土器周辺の土壌も持ち帰り調べたが、微細遺物は検出できなかった。

土器は大型の深鉢で、口縁部がやや内湾している。緩やかな波状の口縁が4箇所観察され、それぞれ円形の粘土紐による隆帯がみられる。胴部はR L単節斜縄文を地文とし、沈線や粘土紐の隆帯による渦巻き文様などが連結して施文されている。文様の特徴から縄文時代中期の大木8b式期である。なお、隣接した地点で出土した3基の埋甕と文様の付け方を比較すると、各所で文様のぶれが確認され稚拙な施文技術であることが分かり、土器製作者の個性が垣間見える資料でもある。

埋甕について言及されている『総覧 縄文土器』『埋甕（東北地方）』阿部勝則氏によると、縄文時代中期中頃（大木8a式・8b式期）に盛岡市周辺域を中心に底部穿孔の埋甕が盛行するとしている。今回の埋甕もこの時期に相当すると考えられ、底部穿孔ではないが、胴部から底部を欠損する行為は同様の意味合いが読み取れる。最後に埋甕の用途であるが、大きく幼児埋葬説と胎盤収納説があるとされる。しかし、今回のように土器内部に遺物がない事例が多く、さらなる調査研究が必要になろう。

3. 総括

今回の高浜Ⅴ下地神遺跡の発掘調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡と縄文時代中期を主体とする遺物包含層が検出され、狭小な調査面積に対して大量の縄文土器や石器が出土した。遺構の重複関係や出土した土器の分量などからも縄文時代中期後半の拠点的な集落跡と考えられ、国指定崎山貝塚や榎内Ⅰ遺跡（田老地区）、上村貝塚（磯鶏地区）と同様、周辺地域の小規模な集落をまとめる中心的な位置付けが想定される。しかし、今回のように調査地点は限られており、貝塚の位置や分布が不明である点など、集落の総体としての把握にはまだまだ情報が不足していると言わざるを得ない。それでも平成23年の東日本大震災以後の復興調査によって、市内各所でも調査事例が急増し、新たな発見も相次いでいる。今後は個々の遺跡を超えて、周辺の遺跡も含めた多面的な見方をしていく必要があるだろう。

<引用・参考文献>

『総覧 縄文土器』小林達雄編

2018『高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡－災害公営住宅整備事業（高浜）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』

宮古市埋蔵文化財調査報告書94

2006『高浜Ⅵ地神遺跡－高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書－』宮古市埋蔵文化財調査報告書65

写 真 图 版



1. 高浜V下地神遺跡 航空写真（南→）



2. 高浜V下地神遺跡 航空写真（東→）



3. 発掘調査状況（東→）



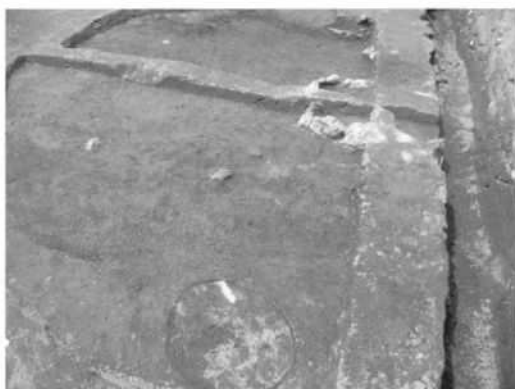
4. 発掘調査状況（西→）



5. 1号竖穴住居跡 完掘状況（北東→）



6. 1号竖穴住居跡 石囲炉 検出状況（北東→）



7. 1号竖穴住居跡 堆積状況 (東→)



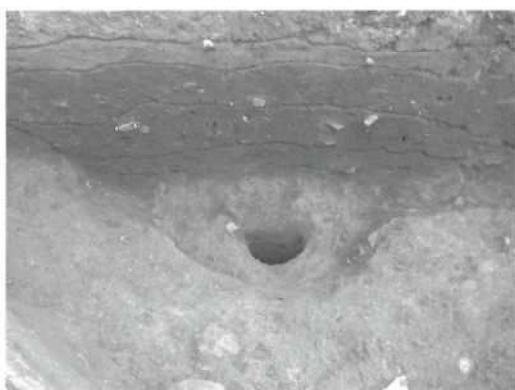
8. 1号竖穴住居跡 石囲炉 堆積状況 (東→)



9. 1号竖穴住居跡 石囲炉 焼土(東→)



10. 1号竖穴住居跡 石囲炉 礫状況(東→)



11. 2号竖穴住居跡 ピット堆積状況(南→)



12. 2号竖穴住居跡 完掘状況(南→)



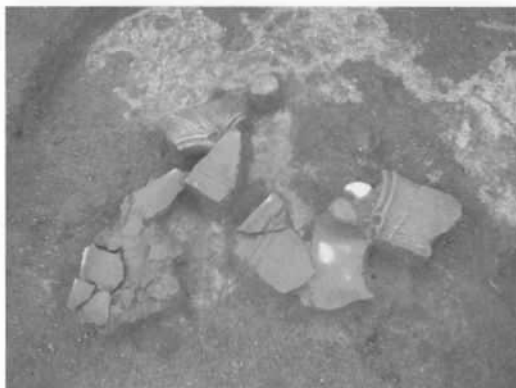
13. 3号竖穴住居跡 堆積状況 (東→)



14. 3号竖穴住居跡 堆積状況 (南→)



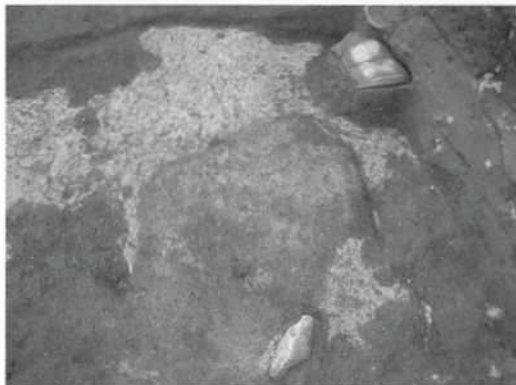
15. 3号竖穴住居跡 土器出土状況(南→)



16. 3号竖穴住居跡 土器出土状況(東→)



17. 3号竖穴住居跡 土器出土状況(北→)



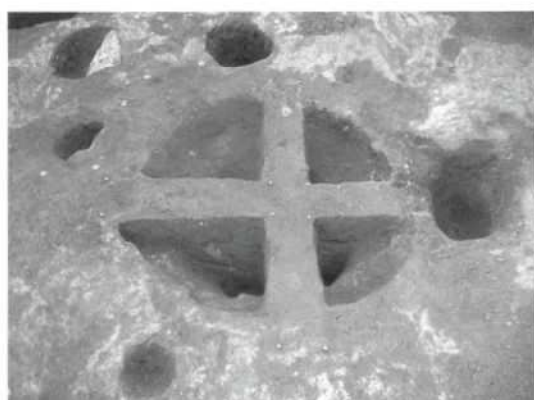
18. 3号竖穴住居跡 焼土分布状況(南→)



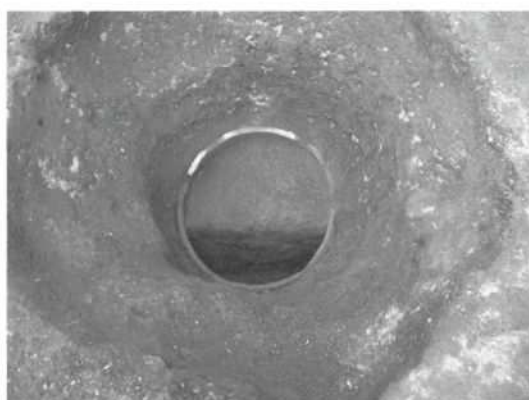
19. 3号竖穴住居跡 貼床堆積状況(南→)



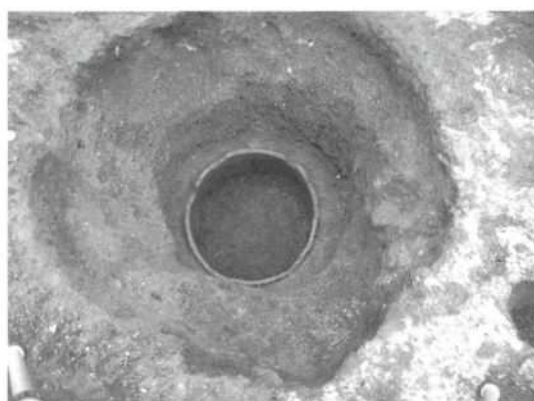
20. 3号竪穴住居跡 埋甕 検出状況(南→)



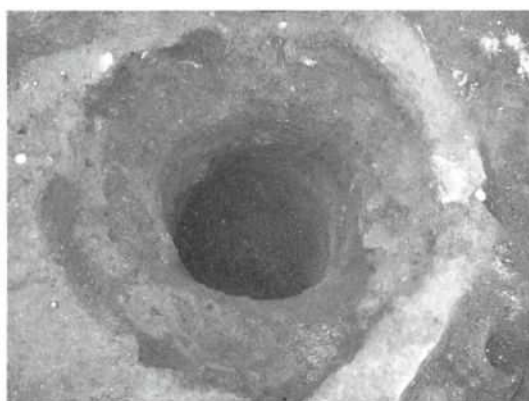
21. 埋甕 堆積状況(東→)



22. 埋甕内部 堆積状況(東→)



23. 埋甕 検出状況(南→)



24. 埋甕 掘り方状況(南→)



25. 4号竖穴住居跡 完掘状況(北→)



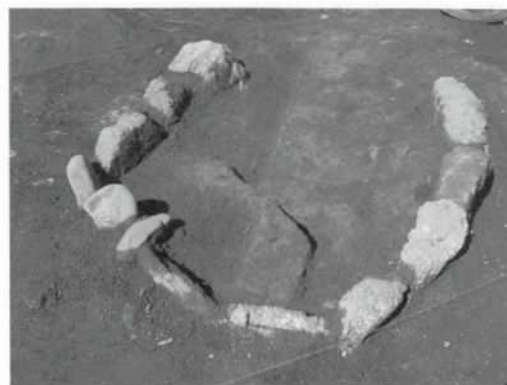
26. 4号竖穴住居跡 堆積状況(南→)



27. 4号竖穴住居跡 石囲炉堆積状況(東→)



28. 4号竖穴住居跡 石囲炉
検出状況(北西→)



29. 4号竖穴住居跡 石囲炉
焼土堆積状況(東→)



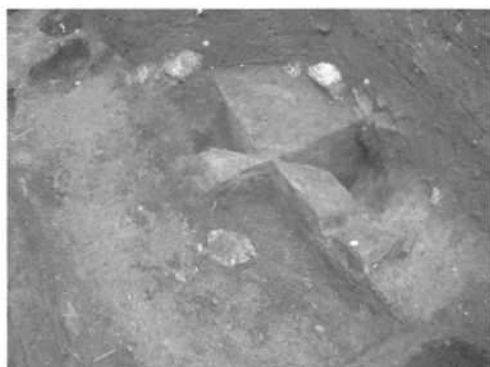
30. 5号竖穴住居跡 検出状況（北→）



31. 5号竖穴住居跡 石囲炉堆積状況（北→）



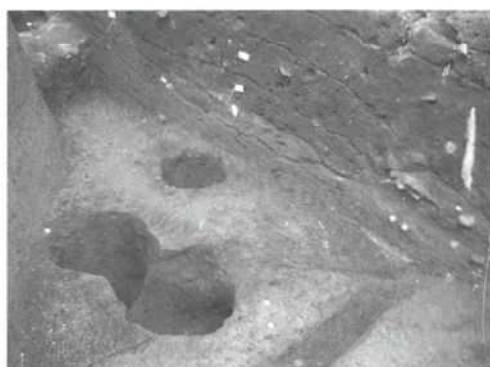
32. 5号竖穴住居跡 石囲炉完掘状況（北→）



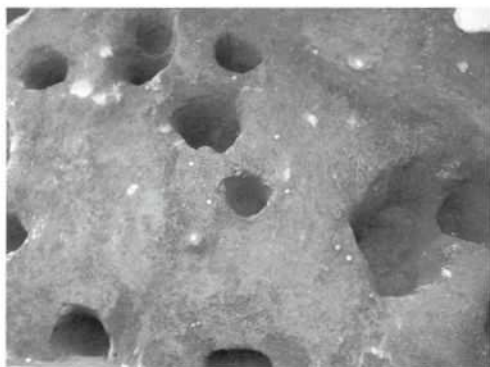
33. 5号竖穴住居跡 石囲炉
焼土堆積状況（北西→）



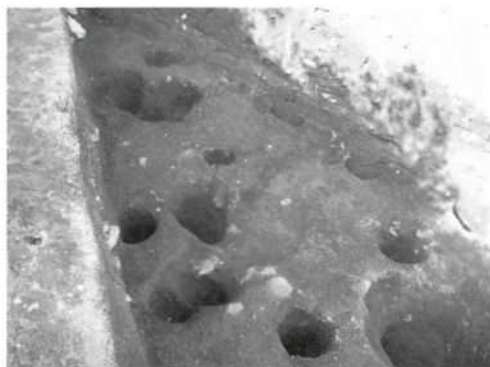
34. 6号竖穴住居跡 床面状況（東→）



35. 6号竖穴住居跡 完掘状況（南東→）



36. 7号竖穴住居跡 完掘状況（北→）



37. 7号竖穴住居跡 完掘状況（南→）



38. 8号竖穴住居跡
石囲炉完掘状況 (西→)



39. 8号竖穴住居跡
石囲炉堆積状況 (東→)



40. 9号竖穴住居跡 焼土堆積状況 (南→)



41. 9号竖穴住居跡 焼土完掘状況 (東→)



42. 1号土坑 縄文土器出土状況 (北→)



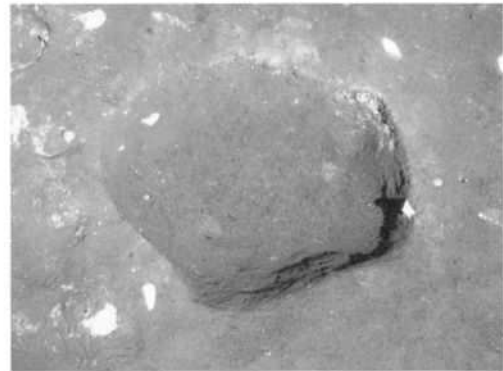
43. 1号土坑 堆積状況 (南→)



44. 1号土坑 縄文土器出土状況 (西→)



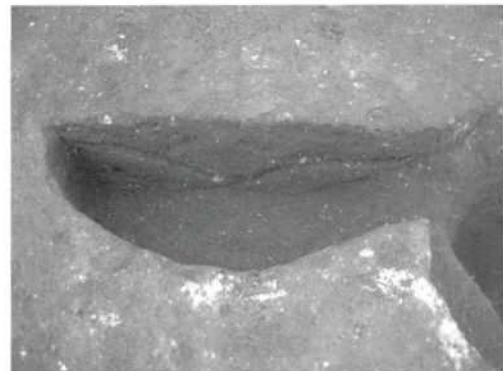
45. 1号土坑 縄文土器出土状況 (南→)



46. 1号土坑 完掘状況 (南→)



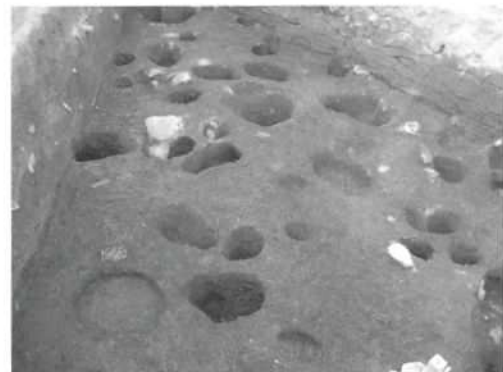
47. 2号土坑 堆積・完掘状況 (北東→)



48. 3号土坑 堆積状況 (南→)



49. ピット 完掘状況 (北西→)



50. ピット 完掘状況 (南東→)



51. 遺物包含層 縄文土器出土状況(南→)



52. 遺物包含層 縄文土器出土状況(北→)



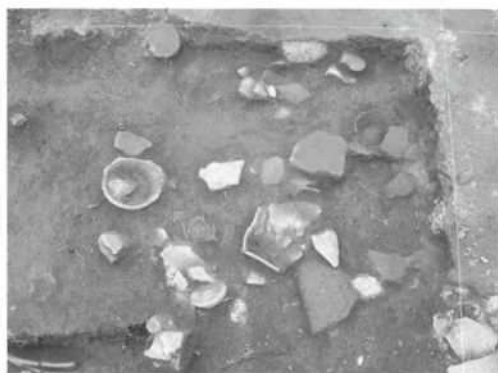
53. 遺物包含層 出土状況 (東→)



54. 遺物包含層 出土状況 (南→)



55. 遺物包含層 出土状況 (南→)



56. 遺物包含層 出土状況 (東→)



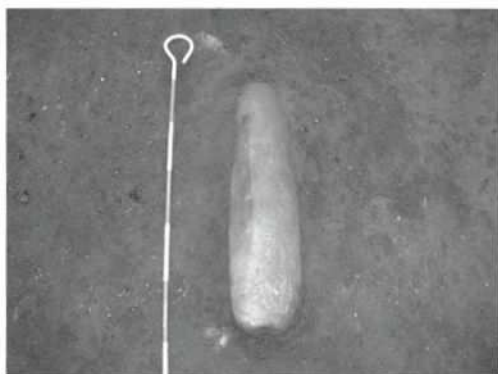
57. 遺物包含層 出土状況 (西→)



58. 遺物包含層 出土状況 (北→)



59. 遺物包含層 出土状況 (東→)



60. 遺物包含層 出土状況 (東→)



61. 調査区 完掘状況(北西→)



62. 調査区 完掘状況(南東→)



63. 調査区 完掘状況(西→)



64. 調査区 堆積状況(南西→)



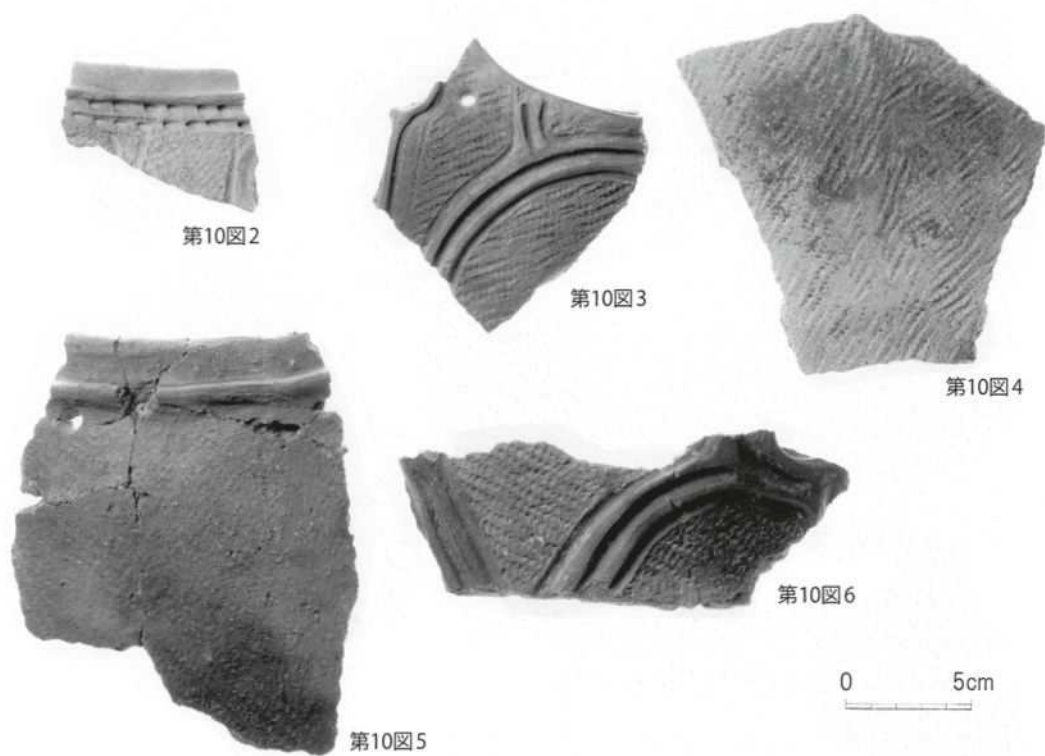
65. 調査区 堆積状況(東→)



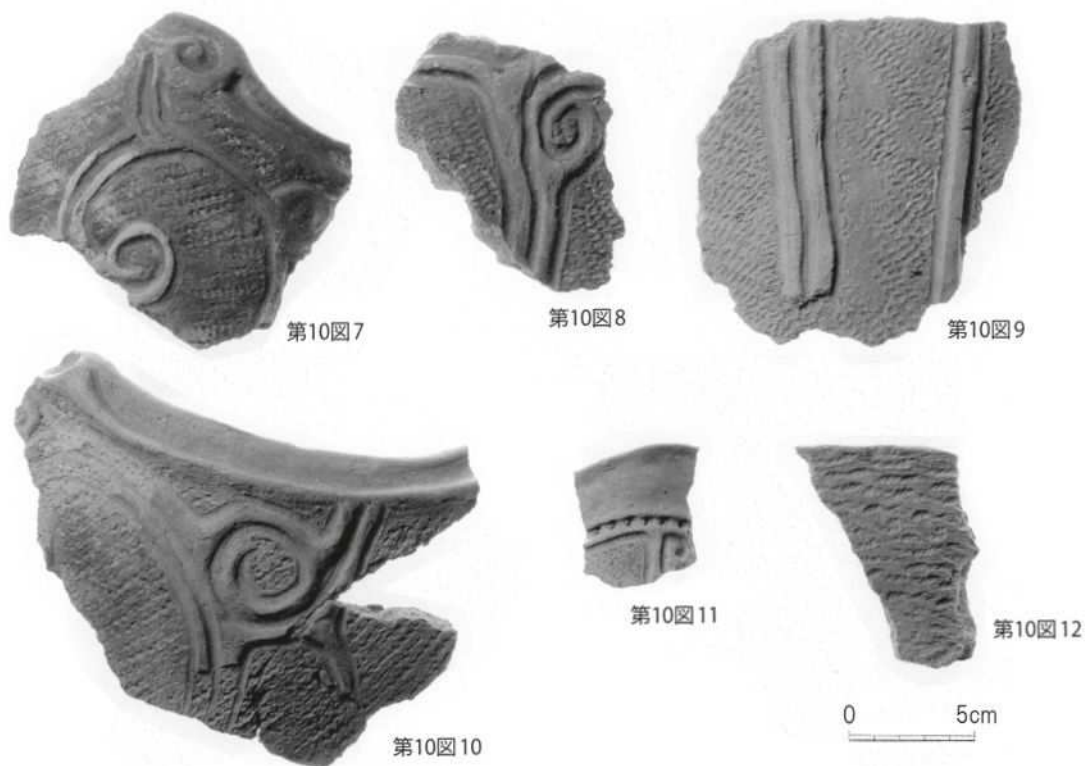
66. 調査区から海を望む(西→)



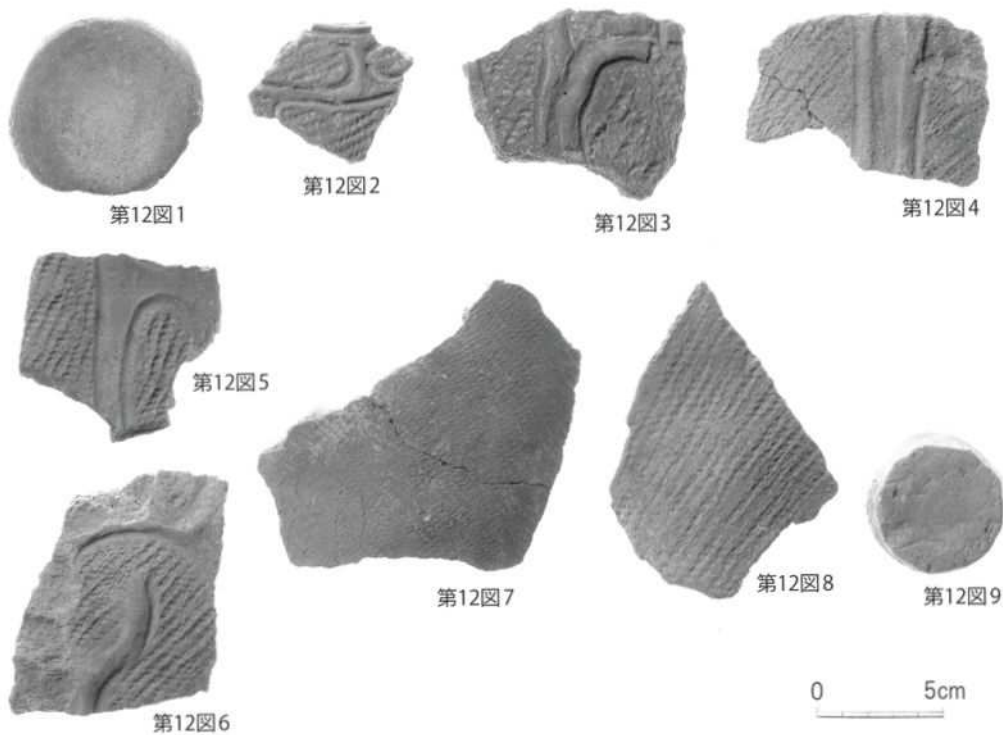
67. 調査区 埋め戻し状況(西→)



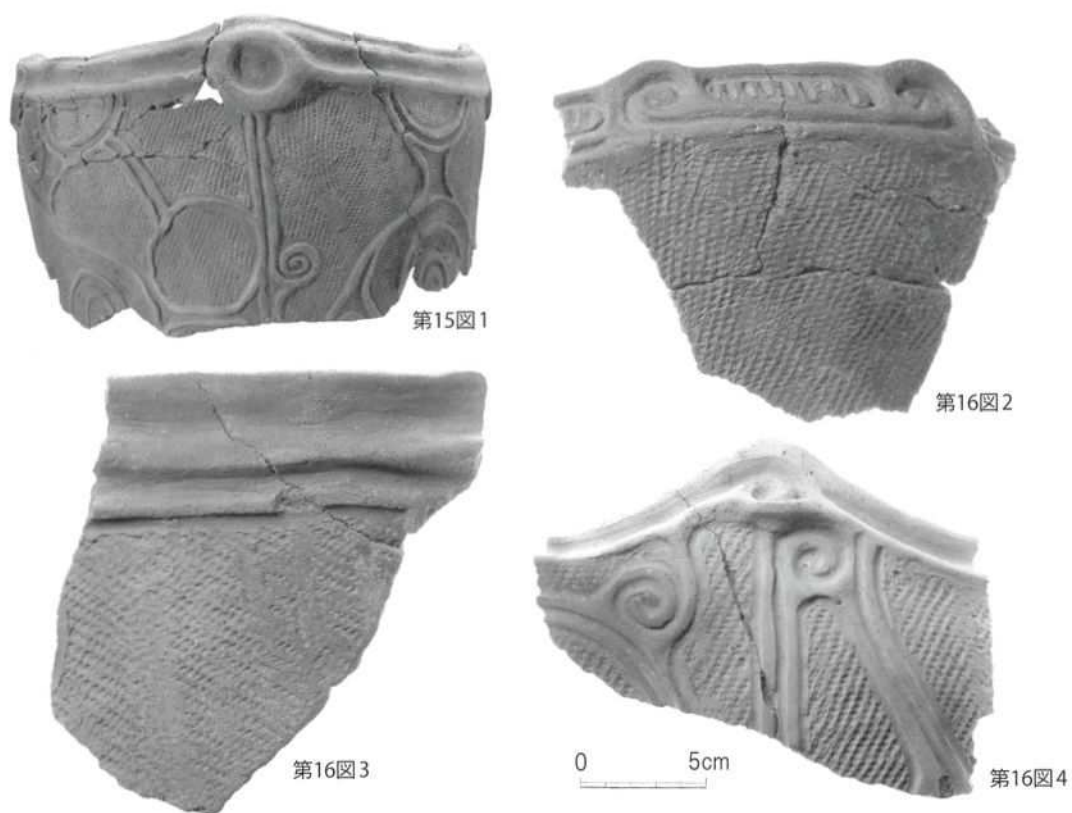
68. 出土遺物



69. 出土遺物



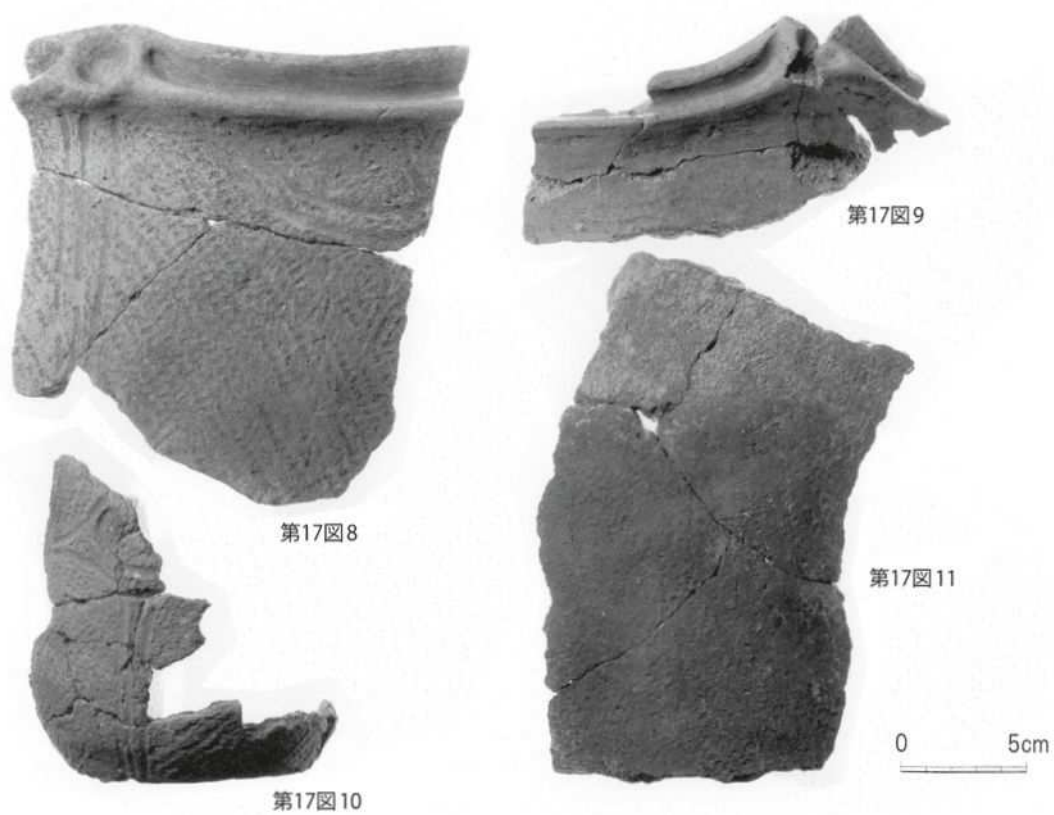
70. 出土遺物



71. 出土遺物



72. 出土遺物



73. 出土遺物



第17図12



第17図13



第17図14



第17図15



第17図16



第17図17



第17図18



74. 出土遺物



第18図19



第18図21



第18図20



75. 出土遺物



第18図22



第18図23



第18図24



第18図25



第18図26



76. 出土遺物



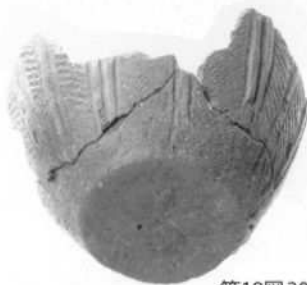
第19図27



第19図28



第19図29



第19図30



第19図31



77. 出土遺物



第19図32



第19図33



第19図34



第19図35

0 5cm

78. 出土遺物



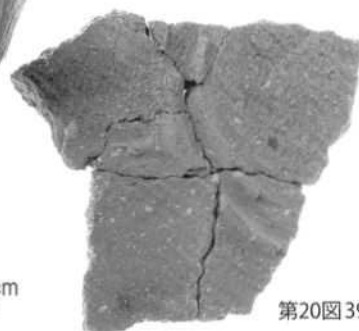
第20図36



第20図37



第20図38



第20図39

0 5cm

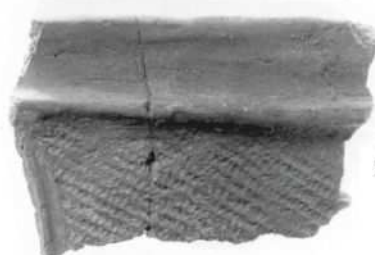
79. 出土遺物



第20図40



第20図41



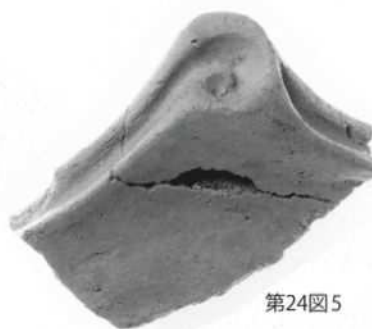
第20図42

0 5cm

80. 出土遺物



第24図1



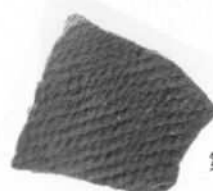
第24図5



第24図2



第24図3



第24図4

0 5cm

81. 出土遺物



第28図2



第28図3



第28図4

0 5cm

82. 出土遺物



第28図5



第28図6



第28図7



第28図8



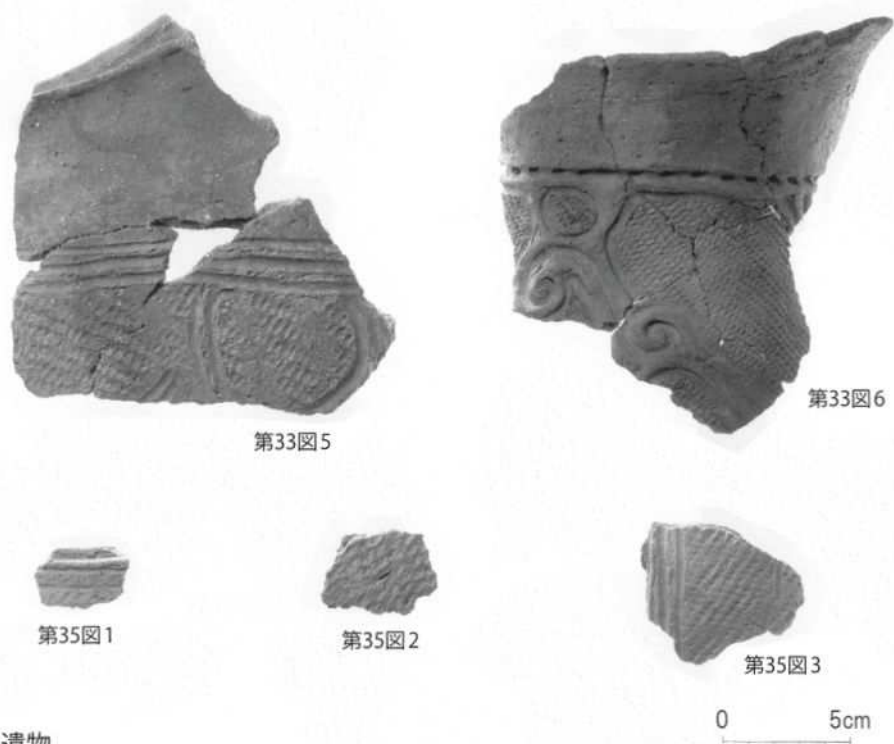
第28図9

0 5cm

83. 出土遺物



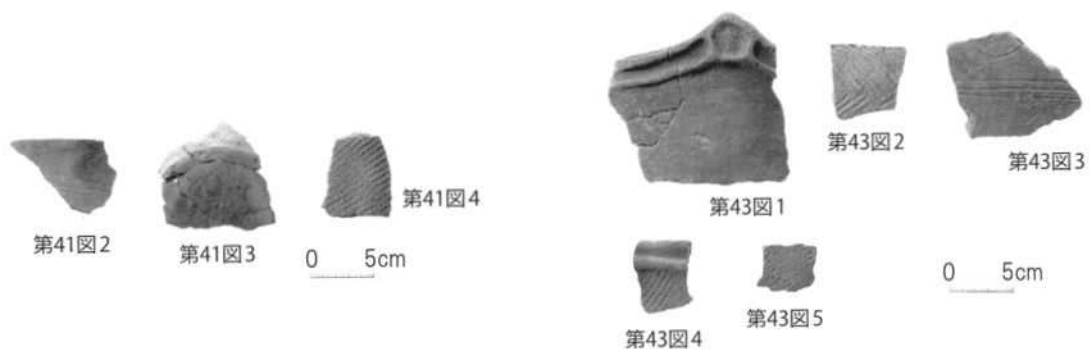
84. 出土遺物



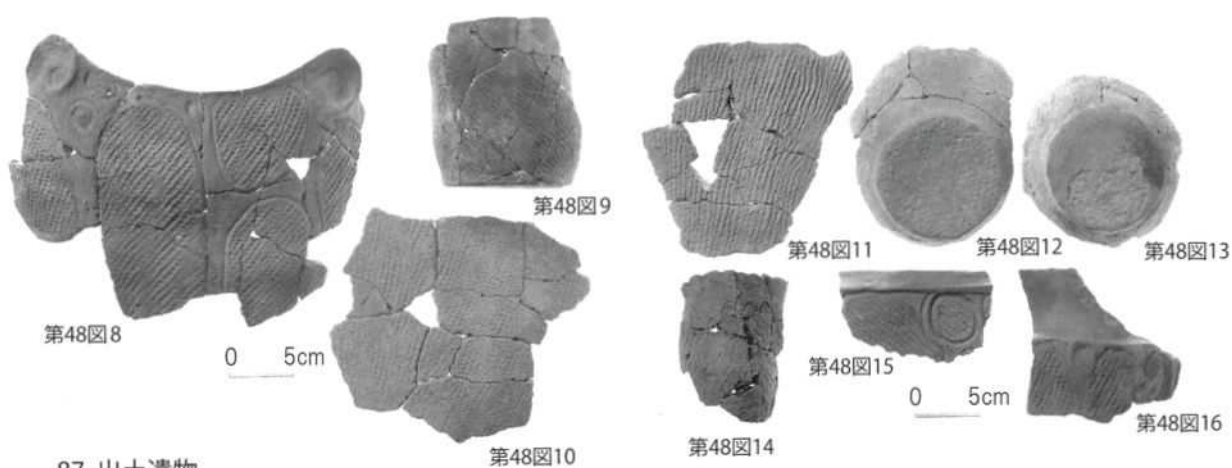
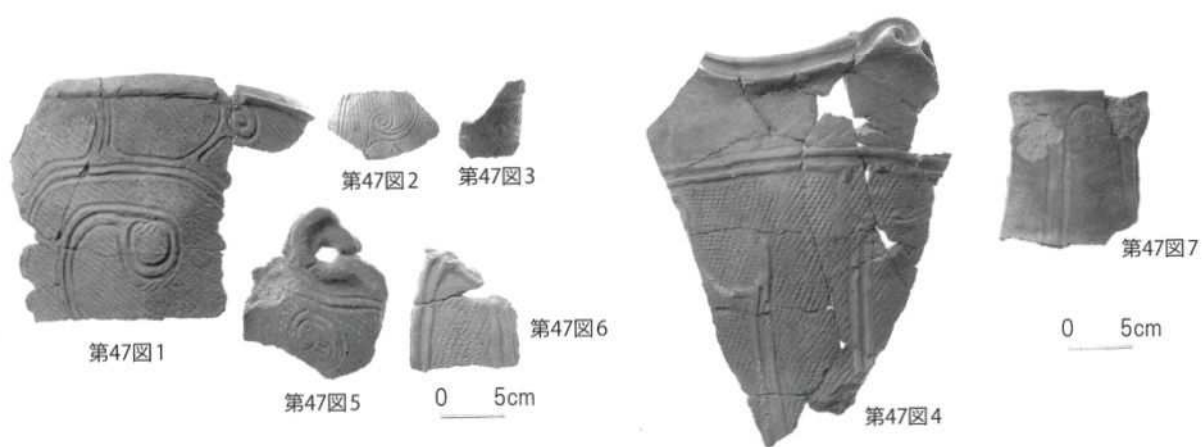
85. 出土遺物



第39図1



86. 出土遺物



87. 出土遺物



88. 出土遺物



第53图46



第54图49



第54图48

第54图47



第54图50

0 5cm



第54图51



第54图53



第54图52



第54图54

0 5cm



第55图55

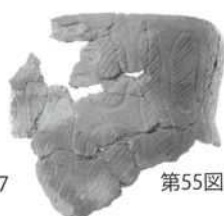


第55图56

0 5cm



第55图57



第55图58



第55图59



第55图60

0 5cm



第56图61



第56图62

0 5cm



第56图63



第56图64



第56图65



第56图66

0 5cm



第57图67

0 5cm

89. 出土遺物



第57図68

0 5cm



第58図69



第58図70



第58図71



第58図72



第58図73

0 5cm



第58図74



第58図75



第58図76



第58図77

0 5cm



第59図78



第59図79



第59図81

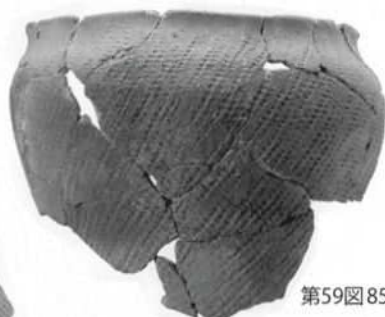


第59図82



第59図83

0 5cm



第59図85



第60図86



第60図87



第60図88



第59図84



第60図89



第60図90

0 5cm



第59図80

0 5cm



第60図91

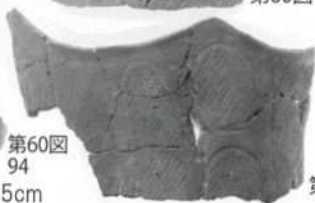


第60図94

0 5cm



第60図92



第60図93



第61図95



第61図97



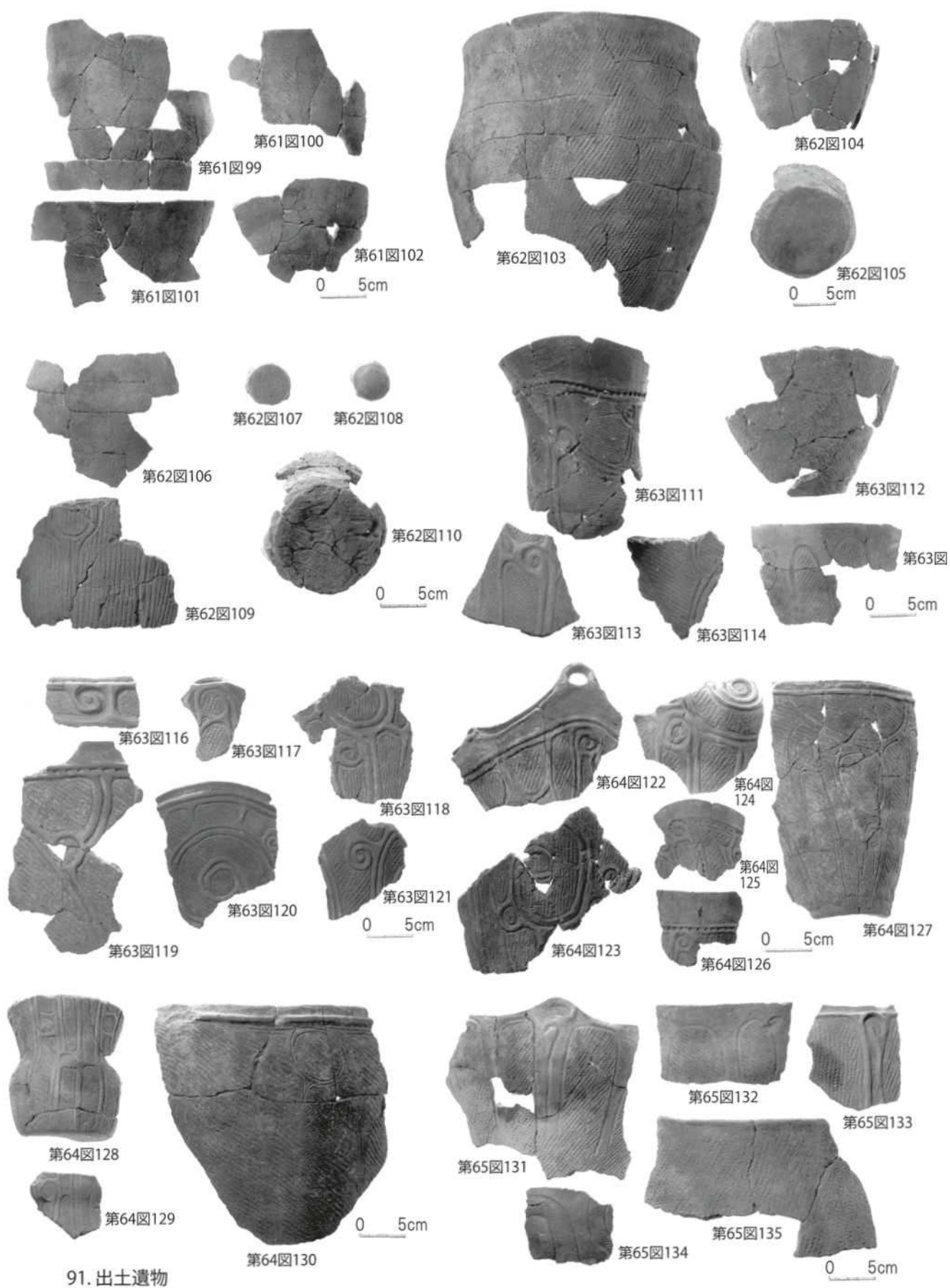
第61図96

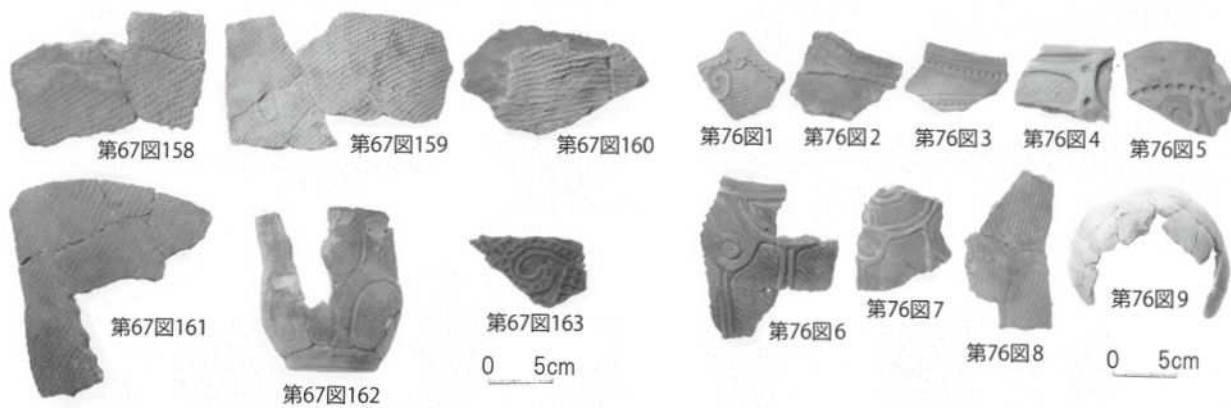
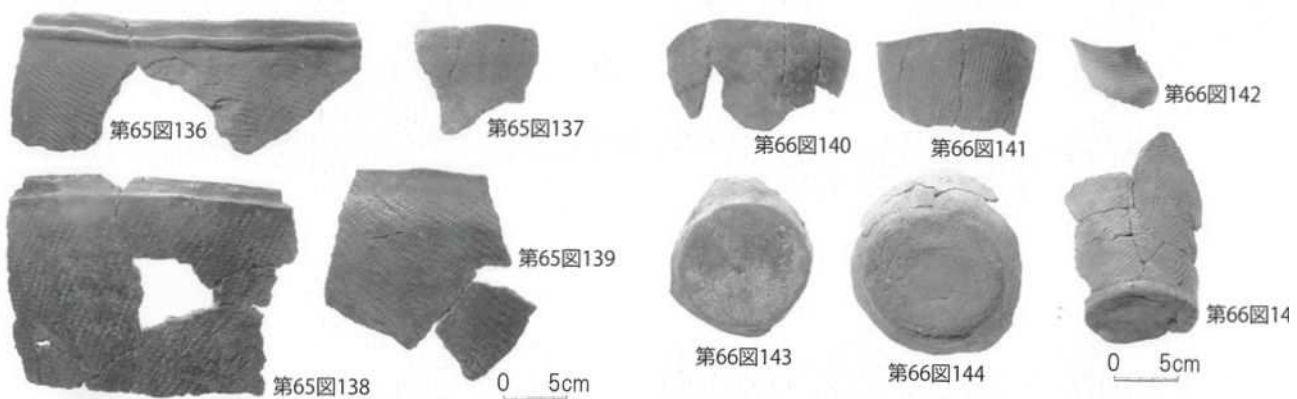


第61図98

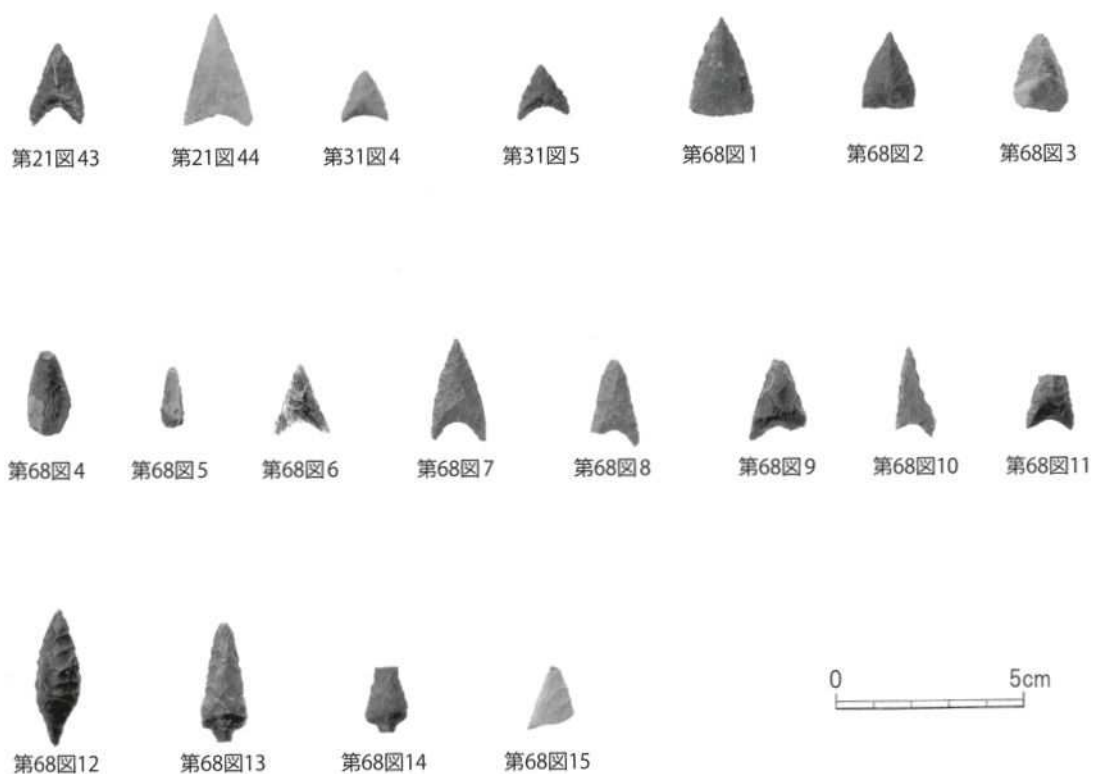
0 5cm

90. 出土遺物

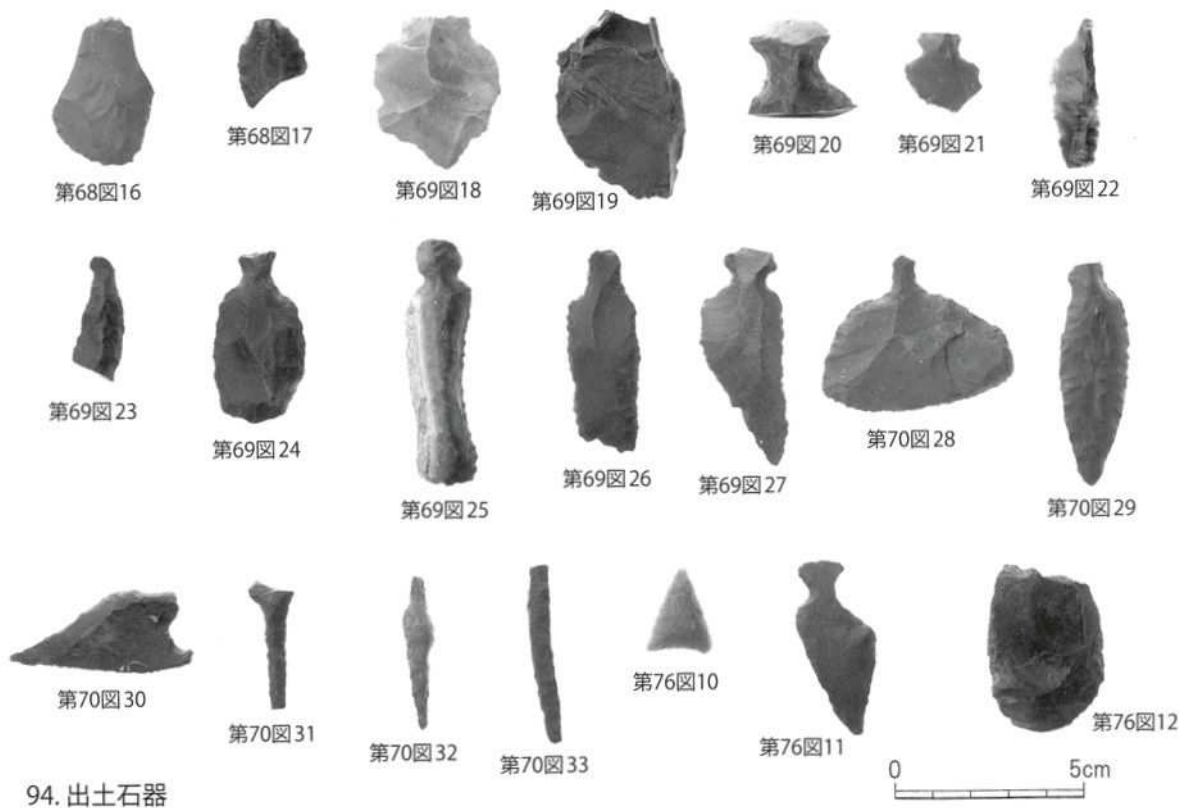




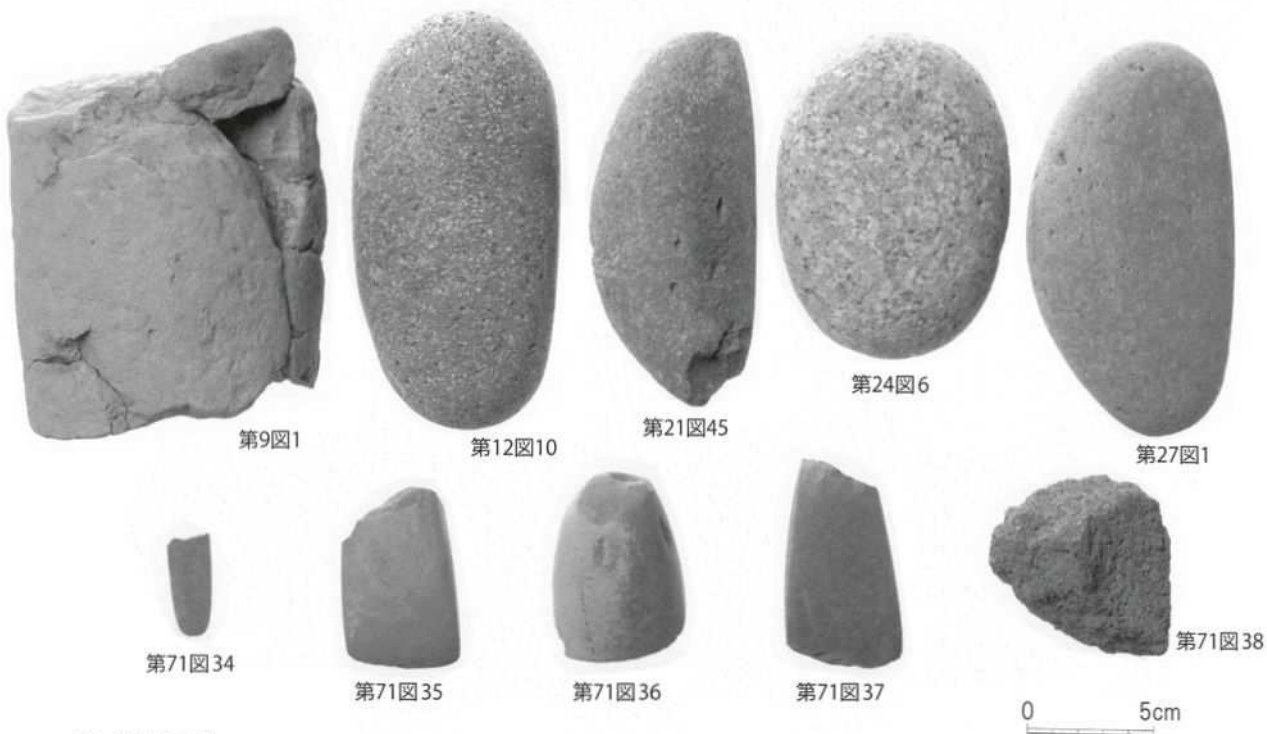
92. 出土遺物



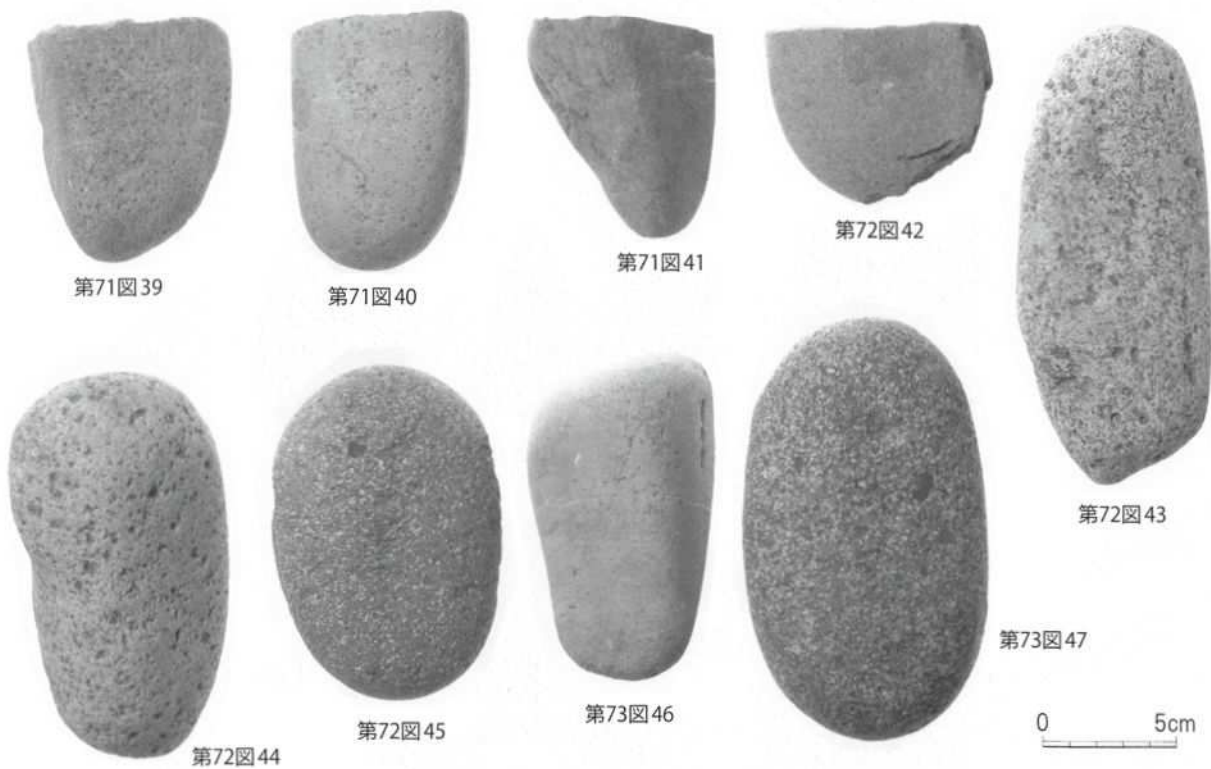
93. 出土石器



94. 出土石器



95. 出土石器



96. 出土石器



第73図48



第74図49

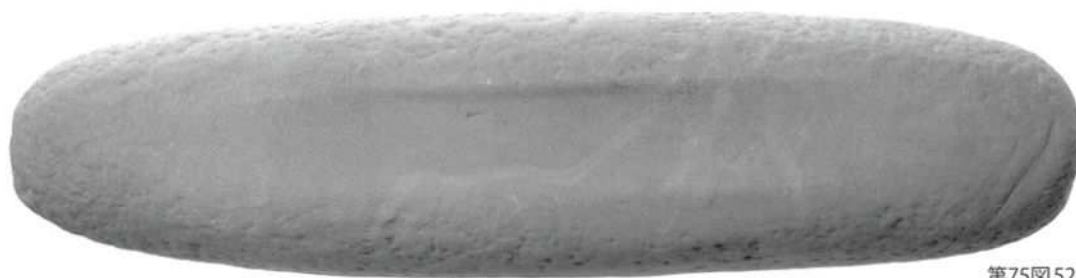


第74図50



第75図51

0 5cm



第75図52

0 5cm

97. 出土石器



第77図13



第77図14



第77図15



第77図16



第77図17



第77図18



軽石(写真のみ)

0 5cm

98. 出土石器

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

番号	刊行年	番号	刊行年		
1	1979	『宮古市大付道跡発掘調査報告書』	67	2006	『八木沢古館・八木沢中田道跡・八木沢駒込Ⅰ道跡―市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書―』
2	1980	『宮古市千徳道跡発掘調査概報』	68	2006	『木戸井内Ⅳ道跡―宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書―』
3	1983	『宮古市道跡分布調査報告書Ⅰ』	69	2006	『管ノ沢道跡発掘調査―市内道跡発掘調査報告書Ⅵ―』
4	1984	『宮古市道跡分布調査報告書Ⅱ』	70	2007	『山口館跡―市道北環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書―』
5	1984	『赤前道跡群第Ⅰ次・第Ⅱ次発掘調査報告書』	71	2007	『近内館跡―宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書―』
6	1985	『宮古市道跡分布調査報告書Ⅲ』	72	2007	『牛沢道跡・大付道跡第ⅠⅡ次調査―市内道跡発掘調査報告書Ⅶ―』
7	1985	『金浜館跡発掘調査報告書』	73	2007	『松川館跡第Ⅱ次調査―宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書―』
8	1986	『宮古市道跡分布調査報告書Ⅳ』	74	2008	『荷竹日向Ⅳ道跡―市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書』
9	1986	『宮古市道跡分布図―昭和60年度版―』	75	2008	『宮古市道跡分布調査報告書Ⅴ』
10	1986	『中谷地・島田道跡調査報告書』	76	2009	『国指定史跡崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報（骨角器編）』
11	1987	『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ道跡調査報告書』	77	2010	『宮古市道跡分布調査報告書Ⅵ』
12	1987	『寒風・早稲橋Ⅳ道跡調査報告書』	78	2011	『宮古市道跡分布調査報告書Ⅶ』
13	1987	『崎山道跡群Ⅰ―昭和60年度発掘調査概報―』	79	2012	『重茂館道跡群―第Ⅱ次発掘調査報告書―』
14	1988	『青嶺Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城道跡群（堀合館）―昭和62年度発掘調査報告書―』	80	2014	『八木沢駒込Ⅰ道跡・八木沢駒込Ⅱ道跡―市道磯崎金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書―』
15	1988	『崎山道跡群Ⅱ―昭和62年度発掘調査概報―』	81	2014	『蜂ヶ沢Ⅰ道跡・山口駒込Ⅰ道跡・山口駒込Ⅱ道跡―市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書―』
16	1989	『千鶴道跡―昭和62年度発掘調査報告書―』	82	2014	『赤煙東道跡―山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書―』
17	1989	『トロノ木Ⅰ道跡―第Ⅰ～Ⅶ次発掘調査報告書―』	83	2015	『千徳城道跡群―一条工務店建設工事関係発掘調査報告書―』
18	1989	『崎山道跡群Ⅲ―昭和63年度発掘調査概報―』	84	2015	『黒森町Ⅰ道跡―宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書―』
19	1989	『高根道跡―昭和63年度発掘調査報告書―』	85	2015	『管ノ沢道跡・榎館Ⅰ道跡―市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書―』
20	1989	『孤崎Ⅱ道跡―昭和63年度発掘調査報告書―』	86	2016	『千徳城道跡群―アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
21	1989	『崎山トロノ木Ⅳ道跡―昭和63年度調査報告書―』	87	2017	『重茂館道跡群―重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―（第Ⅲ次調査）』
22	1990	『孤崎道跡―平成元年度発掘調査報告書―』	88	2017	『重茂館道跡群―重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―（第Ⅳ次調査）』
23	1990	『崎山道跡群Ⅳ―平成元年度発掘調査概報―』	89	2017	『重茂館道跡群―重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―（第Ⅴ次調査）』
24	1990	『磯崎館山道跡―昭和63年度発掘調査報告書―』	90	2017	『下大谷地Ⅵ 大谷地Ⅰ道跡―市道下大谷地花輪線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
25	1990	『鎌ヶ崎館山貝塚―平成元年度発掘調査報告書―』	91	2017	『千鶴Ⅲ道跡―千鶴地区漁業集落防災機能強化事業関係発掘調査報告書―』
26	1991	『崎山道跡群Ⅴ―平成2年度発掘調査概報―』	92	2017	『金浜館跡―市道磯崎金浜線（金浜工区）道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
27	1991	『青嶺Ⅰ・千徳城道跡群―平成元年・2年度発掘調査報告書―』	93	2017	『乙部Ⅱ道跡―田老地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
28	1990	『桃野町道跡―昭和63年度発掘調査報告書―』	94	2018	『高浜Ⅱ今ヶ洞道跡―災害公営住宅整備事業（高浜）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
29	1991	『松川Ⅰ道跡―平成2年度発掘調査報告書―』	95	2018	『刈屋清水野道跡 下刈屋Ⅰ道跡―市道線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
30	1992	『金浜Ⅰ道跡（昭和58年度）・大付道跡（平成2年度）発掘調査報告書』	96	2018	『沼里館跡―都市防災総合推進事業（公園整備）関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
31	1992	『重茂館道跡群―第Ⅰ次調査報告書―』	97	2018	『日の出町Ⅱ道跡―災害公営住宅整備事業（日の出町）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
32	1992	『黒森町Ⅰ道跡―平成2年度発掘調査報告書―』	98	2018	『拝殿崎道跡―市道北環状線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
33	1992	『高根道跡―平成3年度発掘調査報告書―』	99	2018	『赤前Ⅲ道跡・赤前Ⅳ八枚田道跡―市道赤前上下線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
34	1992	『鯉沢道跡―平成2年度発掘調査報告書―』	100	2019	『千鶴Ⅳ道跡（第Ⅱ次調査）―東日本大震災復興関連発掘調査に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅰ―』
35	1992	『大付道跡―平成3年度発掘調査報告書―』	101	2019	『折壁館・中里道跡・松川Ⅰ道跡・和井内清水道跡・重茂館道跡群―上下水道部生活排水課市設浄化槽整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅰ―』
36	1992	『細越Ⅰ道跡・宇野Ⅱ道跡―農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書―』	102	2019	『赤前Ⅰ牛子沢道跡―東日本大震災復興関連発掘調査に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅱ―』
37	1992	『崎山道跡群Ⅵ―平成3年度発掘調査概報―』	103	2019	『白石道跡（第Ⅷ次・Ⅸ次調査）―崎山地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
38	1993	『萩沢Ⅰ道跡―平成4年度発掘調査報告書―』	104	2019	『越田松長根Ⅰ道跡―東日本大震災復興関連発掘調査に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅲ―』
39	1993	『早稲橋Ⅱ道跡―第Ⅰ次・第Ⅱ次発掘調査報告書―』			
40	1993	『崎山道跡群Ⅶ―平成4年度発掘調査概報―』			
41	1994	『崎山道跡群Ⅷ―平成5年度発掘調査概報―』			
42	1995	『赤前Ⅰ牛子沢道跡―平成4年度発掘調査報告書―』			
43	1995	『磯崎館山道跡発掘調査報告書』			
44	1995	『崎山貝塚―範囲確認調査報告書―』			
45	1995	『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神道跡―市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
46	1995	『花原市道跡―平成4年度発掘調査報告書―』			
47	1995	『宮古市内道跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ道跡・崎山貝塚』			
48	1996	『大付道跡―平成5年・6年度発掘調査報告書―』			
49	1997	『花原市道跡―平成8年度発掘調査報告書―』			
50	1997	『白石道跡―第Ⅵ次発掘調査報告書―』			
51	1998	『赤煙・天神山・山口館―北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書―』			
52	1998	『藤畑道跡―平成9年度発掘調査報告書―』			
53	1999	『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ道跡―水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
54	1999	『千鶴Ⅳ道跡―水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
55	1999	『崎山貝塚―第Ⅻ次・Ⅼ次内容確認調査概報』			
56	2000	『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ道跡―特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
57	2002	『山口館跡―北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
58	2002	『小沢Ⅱ大上道跡―市内道跡発掘調査報告書Ⅱ―』			
59	2003	『大又沢Ⅵ道跡―東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書―』			
60	2003	『上根井沢Ⅰ道跡・沼里道跡―市内道跡発掘調査報告書Ⅲ―』			
61	2003	『早稲橋Ⅱ道跡第Ⅵ次調査―市内道跡発掘調査報告書Ⅳ―』			
62	2003	『下在家Ⅰ道跡―平成14年度発掘調査報告書―』			
63	2004	『大程Ⅱ道跡・平浜道跡―市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書―』			
64	2005	『松川館跡―瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書―』			
65	2006	『高浜Ⅵ地神道跡―高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書―』			
66	2006	『崎山貝塚第Ⅻ次調査・早稲橋Ⅱ道跡第Ⅶ次調査―市内道跡発掘調査報告書Ⅴ―』			

報告書抄録

ふりがな	たかはま5しもじのかみ							
書名	高浜V下地神遺跡							
副書名	東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う倉庫建築関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	105							
編著者名	長谷川真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒027－8501 岩手県宮古市宮町一丁目1番30号 TEL.0193-62-2111							
発行年月日	2020/1/31							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかはま5しもじのかみ 高浜V下地神 いせき 遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 たかはま4ちょうめ 高浜四丁目 ばんちない 22番6地内	03202	LG43-1398	39° 36′ 5″	141° 56′ 49″	2013.7.26～ 8.5(試掘調査) 2013.8.6～ 9.27(本調査)	約45㎡	東日本大震災復興関連事業に伴う倉庫建築関係発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
たかはま5しもじのかみ 高浜V下地神 いせき 遺跡	散布地	縄文時代		竪穴住居跡9棟 (縄文時代中期) 土坑3基 ピット28基 縄文時代中期を主体とする遺物包含層		縄文土器・石器(石鏃・石匙・磨石など)・石棒・軽石など	縄文時代中期を主体とする遺物包含層から大量の縄文土器が出土。縄文時代中期の竪穴住居跡も重複して検出され、高浜地区周辺の拠点集落と考えられる。	

宮古市埋蔵文化財調査報告書105

たかはま5しもじのかみ

高浜V下地神遺跡

—東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う
倉庫建築関係発掘調査報告書—

2020.1

令和2年1月31日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会

〒027-8501 岩手県宮古市宮町一丁目1番30号

TEL 0193-62-2111

編集 宮古市教育委員会事務局 文化課

〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1

TEL 0193-65-7526

印刷 株式会社文化印刷

〒027-0037 岩手県宮古市松山5-13-6

TEL 0193-62-4578